

1 9 9 5

# 授業概要

【シラバス】

## 教養科

白梅学園短期大学

SHIRAZOME GAKUEN COLLEGE



## 授業概要（シラバス）について

シラバス（Syllabus）は授業計画、教授細目とも訳されます。このシラバス集には、本年度に教養科で開設される全ての授業科目について、その授業内容および授業の進め方が詳しく紹介されています。従来の講義要項より授業内容が詳しく説明されているので、学生の皆さんが必修科目を履修するときには、事前に授業内容を把握し、学習の準備をするのに役立つでしょう。また、選択科目を選ぶときには、皆さんが本当に学習を望む授業内容であるかどうかを判断する材料となるでしょう。

このシラバス集に記載された授業計画から授業の内容、進行を判断して計画的に学習目標を立ててください。また、授業進行の早い段階で不明な点を積極的に質問して、授業内容を正しく把握し、実り多い学習ができるよう、多いに活用してください。



# 目次 (教養科)

## 教養教育科目 (1年)

ヒューマンズ論	.....	3
文学・フィクションと人間	.....	4
王朝文学の世界	.....	5
話し言葉の文芸	.....	6
西洋文学	.....	7
近代日本の歴史	.....	8
西洋史概説	.....	9
東洋美術	.....	10・11
演劇論	.....	12
現代社会論	.....	13
現代家族論	.....	14
日本国憲法	.....	15
市民生活と法	.....	16
政治学入門	.....	17
生活の経済学	.....	18
心理学入門	.....	19
マスメッセージ概論	.....	20
自然科学史	.....	21
生命の科学	.....	22
生物と環境	.....	23
生活の科学	.....	24
健康の生理学	.....	25
宇宙と地球	.....	26
数の科学	.....	27
総合英語I	.....	28~31
選択語学 I	英語1(オーラル・コミュニケーション).....	32
選択語学 I	英語2(オーラル・コミュニケーション).....	33
選択語学 I	英語3(オーラル・コミュニケーション).....	34
選択語学 I	英語4(オーラル・コミュニケーション).....	32
選択語学 I	英語5(フィクション講読).....	35
選択語学 I	英語6(フィクション講読).....	36
選択語学 I	英語7(ライティング).....	37
選択語学 I	英語8(ライティング).....	38
選択語学 I	独語I.....	39
選択語学 I	仏語I.....	40
スポーツA(テニス)	.....	41
スポーツA(卓球とバドミントン)	.....	42
スポーツA(バレーボール)	.....	43
スポーツA(エアロビクス)	.....	44
スポーツB(キック)	.....	45
健康科学	.....	46

スポーツ科学	47
専門教育科目（1年）	
日本文学史(古代)	51
日本文学史(近・現代)	52
日本文学(中・近世)	53
国語学	54
国語表現法	55・56
史学概論	57
史料講読	58～60
日本古代史(考古学を含む)	61
文化論	62
アジアと日本	63
日本経済論	64
イギリス文学講読	65
英米事情講読	66・67
英語表現 I	68・69
イギリス史	70
アメリカ史	71
日本美術史	72
言語学	73
民俗学	74
情報処理概論	75
教養演習 I	76～85
教職科目	
教育原理	89
教育心理	90
道徳教育の研究	91
特別活動の研究	92
生徒指導の研究	93
国語科教育法	94
教育実習	95
博物館科目	
博物館学	99
教育原理	100
社会教育概論	101
視聴覚教育	102
博物館実習	103

## 司書科目

図書館通論	107
図書館資料論	108
資料分類法	109
資料分類法演習	109
図書館活動	110
青少年の読書と資料	111
情報管理	112
社会教育（社会教育概論）	113
視聴覚教育	114
一般教育科目（2年）	
外国語科目（2年）	
人間	117
英語Ⅱ	118～121
専門教育科目（2年）	
日本文学史(中・近世)	125
日本文学(古代)	126
日本文学(近・現代)	127
西洋文学思潮	128
漢文学	129
現代言語生活論	130
書道Ⅰ	131
書道Ⅱ	132
日本中世史	133
日本近世史	134
日本近現代史	135
日本文化史	136
日本女性史	137
東洋文化史	138
アフリカ史	139
西洋史	140
英書講読Ⅱ	141・142
英語演習A	143
英語演習B	144
英会話Ⅱ	145・146
独書講読	147
仏書講読	148

797・777文化	149
比較文化論	150
英米文学	151
国際経済論	152
欧米事情	153
文化人類学	154
社会思想史	155
国際関係論	156
生活科学	157
現代女性論	158
自然科学概論	159
自然科学史	160
科学技術論	161
英書講読	162~165
英会話	166・167
教養演習Ⅱ	168~178
卒業レポート	179

#### 教職科目

教育実習	183
------	-----

#### 博物館科目

博物館実習	187
-------	-----



## 教養教育科目（1年）



<b>【授業科目名】</b> ヒューマニズム論	<b>【担当者】</b> 田中未来・黒田 瑛
<b>【開講期】</b> 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 「ヒューマニズム」の理念について、その展開を述べ、つぎに現代社会の諸問題に対応するときの「ヒューマニズム」の視点を示す。またそれを現実に自らの生き方に反映させることについて学生とともに考える。「ヒューマニズム」は本学の建学の理念として、今日まで学園の教育を支えた思想である。	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキスト：      な      し 参考書   ：      随時紹介する。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>授業内容を以下のように構成する。</p> <p>第1部 ヒューマニズムの意義（2回）          ヒューマニズムの語義          今、なぜヒューマニズムか          人間を考える              生命、精神、実存、統一体としての人間          人間の尊厳と価値</p> <p>第2部 ヒューマニズムの展開（4回）          1. 東洋と西洋          2. 「エロス」とヒューマニズム -ギリシャ思想-          3. 「アガペー」とヒューマニズム -キリスト教思想-          4. 「人間らしい文化」とヒューマニズム -ルネッサンス-          5. 「自由と人権」とヒューマニズム -啓蒙思想と市民革命および産業革命-          6. 人間の現実の生活の尊重 -プラグマティズム-          7. 「労働」とヒューマニズム -社会主義-          8. 「主体性」と「限界」 -実存主義-</p> <p>第3部 現代とヒューマニズム（4回）          1. 科学と技術 -自然、環境、倫理、労働、情報-          2. 組織と人間 -個と集団、自由と統制、社会制度、国家-          3. 大衆社会状況の広がり -没個性化、消費文化への志向、外部志向型の人間、操作・管理される社会-          4. 人権思想の発展 -障害者、高齢者、女性、子ども、少数民族-          5. 教育・福祉とヒューマニズム -生涯学習、発達権、教育を受ける権利、生存権、幸福追求権、ヴォランティア</p> <p>第4部 ヒューマニズムの課題（2回）</p> <p>授業を次のように分担してすすめる。          保育科1年生 - 田中（第1部、第2部、第4部） 黒田（第3部）          教養科および心理学科1年生 - 田中（第2部） 黒田（第1部、第3部、第4部）</p>	
<b>【評価方法】</b> レポート提出	

【授業科目名】 文学・フィクションと人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 文学作品に描かれた「世界」とは何なのか。それは先ず（少なくとも）、我々が生きているこの「現実」とは別の、「もう一つの世界」だろう。本講の目標は、この「もう一つの世界」としての「文学」(一般的には「芸術」)の構造を探りつつ、同時に、それとの関係の中で見えてくる「現実世界」の意味をも考えることにある。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>教科書は用いない。講義の中で指定する若干の小説を読むことが課題になる。</p>	
授 業 計 画	
<p>○ 例えば「小説」に描かれたことは、要するにすべて「作り事」、つまり「フィクション・虚構・ウソッパチ」だ。しかし我々は、なぜワザワザこんな「作り事」を生み出し、求めて来たのか。なぜ、そんなウソッパチに感動したり、「生き方が変わってしまった」などという驚くべきことがおこるのか、という事を考えたい。</p> <p>これを考えることは、「文学」のみならず、「芸術」一般を考える出発点にもなろうし、ひるがえって、(我々が生きている)この「現実」なるものの意味を考えることでもあろう(「現実」はなぜ「フィクションではない」などと言えるのか)。</p> <p>○ 講義は概ね、以下の三点をめぐって順次展開するはずである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① [フィクション論] ……「フィクション」とは何か、それと「現実」は、いかなる関係にあるか、という問題を軸に考える。</li> <li>② [文学作品における「方法」について] ……小説を中心に、「もう一つの世界」がどのような構造を持っているかを考える。</li> <li>③ [日常性と非日常性] ……ひるがえって、我々が「生きている」(と思っている)この「世界」のリアリティー(あるいは限界)について考える。</li> </ol> <p>○ 若干の課題作品(講義の中で指示する)を読むのは当然ながら、そのほかにも、講義でふれる作品を意欲的に読んで行くこと。</p> <p>「芸術と現実」に関する自分なりの問題意識を、可能な限り鋭く研ぎ澄ますこと。この二つの前提があれば、講義は決して「難解」ではない。</p>	
<p>【評価方法】 筆記試験(自筆ノート参照可)。講義に基づいて自ら考察しつつ論じる形式。講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておくこと。課題作品に関する小テスト(1～2回)も加味する。「出席」のこと等は、最初の講義の時に述べる。</p>	

【授業科目名】 王朝文学の世界

【担当者】 佐々木 新太郎

【開講期】 1年後期

【授業目標】

平安時代において、貴族が求めた「みやび」を、作品の中の恋愛観と精神的美意識より見出すことを目標とする。

【テキスト・参考書】

田辺正男、宮城謙一、須田哲夫 共編

テキスト・ 校註「伊勢物語」 若樹出版

授 業 計 画

『伊勢物語』125段すべてを取り上げるべきであるが、その中よりいくつかの段を取り上げる。『伊勢物語』のモデルといわれる在原業平を中心とし、彼を取り巻く人々と、それらの人々の生きた時代の流れを把握し、『伊勢物語』における「みやび」を考察する。

【評価方法】

学年末試験の成績に、平常点を加算する。

【授業科目名】 話し言葉の文芸

【担当者】 東喜望

【開講期】 1年前期

【授業目標】 文字で表現された文芸が制作される以前に、口こぼれでうたわれ、語られた文芸があった。かつて文字は、支配層のものであった。文字を知らない民衆の創造した謡や話は、あらゆる文芸の基礎を成している。ここでは、基層文化としての民間説話を、概論的に説明しながら、その伝承のコスモロジーに辿りたい。

【テキスト・参考書】

1. テキストは使用しない。講義資料を西配布する。2. 参考書

関敬吾編・岩波文庫、日本の昔はな(Ⅰ)「こぼれ爺さん、他」、(Ⅱ)「桃太郎、他」、(Ⅲ)「一寸法師、他」

#### 授 業 計 画

講義は、およそ以下の項目にそって行なう。

1. 自然と文化
2. こぼれと文化
3. 文芸の起源
4. 口承文芸
5. 昔話の形態
6. 昔話のルーツ

<桃の子太郎・浦島・炭焼長者など>

【評価方法】

定期試験時に実施する筆記試験。

【授業科目名】 西洋文学	【担当者】 衣川 清子
【開講期】 1年後期	
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>女性作家によって書かれた19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のいくつかに触れることによって、知識、視野、教養の幅を広げることを目標とします。</p>	
<p><b>【テキスト・参考書】</b></p> <p>テキストは特になし。参考書や資料は必要に応じて紹介します。</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>この授業では19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のうちから、女性作家によって書かれたいくつかの作品を選び、作者の横顔、作品が生まれた背景、作品の内容と特徴、その作品がどのように読まれてきたかなどを紹介し、一種の文学案内にしたいと思っています。</p> <p>毎回の授業で一つの作品を扱う予定です。取り上げる予定の小説は、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』、L. M. モンゴメリー『赤毛のアン』、フィリッパ・ヒアス『トムの真夜中の庭』、マーガレット・ミッチェル『嵐と共に去りぬ』、アリス・ウォーカー『カラー・パープル』、エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』、イサベル・アジェンデ『精霊の家』などです（変更する場合があります）。音声や映像の資料がある場合はそれらも活用したいと思います。この機会にいろいろな小説を読みたいと思っている学生の聴講を期待します。授業の進め方やスケジュールなど、詳しくは初回の授業で説明します。</p>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>平常点とレポートの総合評価とします。授業の中で取り上げた作品またはその他の指定する作品の一つについて、「書評」（「感想文」ではなく）の形で期末レポートを書いていただきます。書き方については授業の中で説明します。</p>	

【授業科目名】 近代日本の歴史	【担当者】 平賀 明彦
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>歴史的なものの見方、考え方を身につけてもらうために、日本の近代史に題材をとりながら、時間的流れのなかで変化をとげていく社会を構造的にとらえていく方法について考えていきたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：特になし 参考図書：中村政則『日本近代と民衆』校倉書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>幕末の動乱を收拾し、列国の圧力に抗しながら、国内の産業の育成し富国強兵を実現しようとした明治政府は、その過程で色々なやり方で、地域を再編成し中央への求心力を高めようとした。その様子を下のようないくつかの側面からながめることにより、近代日本の基礎がどのように固められていったかを検討してみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇明治維新政府をとりまく内外の状況</li> <li>◇内務省設置と地方制度の整備</li> <li>◇町と村の「文明開化」</li> <li>◇初期の教育政策と地域の学校</li> <li>◇初期の宗教政策と地域の寺・神社</li> <li>◇日清・日露戦争と地方の「改良」</li> <li>◇日本近代における中央と地方</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末にレポートを課す。 講義の中で小レポートを出してもらうことがある。</p>	



【授業科目名】	西洋史概説	【担当者】	川鍋 光弘
【開講期】	1年後期		
【授業目標】	西洋近代の生み出した工業化社会・産業社会は人々の豊かな生活をもたらした反面、南北問題・民族問題・植民地問題など、世界の多くの地域に被害をあたえてきた。今や西洋内部においても民族・格差の問題が表面化している。ここでは、西洋の歴史を他の地域との関連のなかで考えてゆきたい。		
【テキスト・参考書】	テキスト 多くに使用せず、必要に応じて資料を配布する 参考書 「地域からの世界史」シリーズ 第10巻 地中海、第11巻 ロシア・ソ連、第12巻 東ヨーロッパ (朝日新聞社編) 第13巻 西ヨーロッパ(上)、第14巻 西ヨーロッパ(下)、第15巻 北アメリカ		

授 業 計 画

西洋の歴史を単に知識として理解するのみではなく、国際社会に生きる日本人として、各自が西洋の歴史をどう認識してゆくかが要求される時代となってきているので、学生自身がひとりの歴史的事実についてどう考えるかを重視する授業としたい。そのため、映像・画像・モノなどを取りあげながら、お互いの意見交換を重ぬつ、歴史認識を深めてゆく。さしあたり、次の諸テーマを考えているが、授業の進行によって変えることもある。また、全てのテーマを扱うともかぎらない。

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| ① 世界史と西洋史           | ⑥ 絶対王政と西ヨーロッパの世界進出 |
| ② 日本人の“西洋”観         | ⑦ 市民革命と産業革命        |
| ③ ヨーロッパ世界の成立        | ⑧ 近代社会とナショナリズム     |
| ④ キリスト教とイスラム教       | ⑨ 帝国主義と社会主義        |
| ⑤ ロマ・カトリック世界とビザンツ世界 | ⑩ ファシズムと人民戦線       |
|                     | ⑪ 東西冷戦とヨーロッパ統合     |

【評価方法】 ① 出席  
② 随時に行うアンケート・感想・意見などの提出状況を中心に評価する。

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】 神道 明子
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>中国美術への理解を深めることにより、東洋の中の中国美術、延いては東洋の中の日本美術という視点を持つことに努める。また美術作品を通して、背景となる歴史・政治・文化の流れを考える力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>『中国美術史』 マイケル・サリバン著 新潮社  『中国美術史』 小杉一雄著 南雲堂 他</p>	
授 業 計 画	
<p>古代中国の美術は日本の美術に大きな影響を与えた。特に我が国の仏教美術は、中国・朝鮮の美術を理解することなしには語るができない。しかしその中国の仏教美術もまたインドからの外来文化である。これらのことを念頭に置き、前半は中国の何千年という歴史を支えた仏教以前の美術、主として都市や墳墓などの考古学的発掘の成果にみる美術を中心に話を進める。</p> <p>後半はインドから西域を通して中国へ伝わった仏教美術が、どのようにして展開してゆくのかを現在中国各地に残る石窟寺院の仏教彫刻を中心に、図やスライドを使って講義を進めてゆくことにする。展覧会などの見学も随時行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 彩陶・黒陶</li> <li>(2) 殷・周・春秋戦国時代の美術 青銅器文化</li> <li>(3) 秦始皇帝と兵馬俑坑</li> <li>(4) 漢の明器と画像石</li> <li>(5) 仏教伝来と初期の仏像</li> <li>(6) 炳靈寺石窟と麦積山石窟</li> <li>(7) 敦煌莫高窟の壁画と塑像</li> <li>(8) 雲岡石窟</li> <li>(9) 竜門石窟</li> <li>(10) 隋・唐の仏教美術</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート 他</p>	

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】 山田磯夫
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>性格の異なるいくつかの文化圏からなる東洋諸地域に於いて、仏教がどのように受容され、仏教美術がいかに形成されていったのか、こうした問いかけを常に持ちながら、東洋美術の特質を考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない</p> <p>参考書：授業中に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>一口に東洋といっても範囲が広く、各地域では相異なる文化圏に属し、それぞれ異なった美術様式を持っているため、これらを一元的に講義することは困難である。そこで本講座ではアジアの諸地域に強く影響を与えた仏教に焦点をあて、インドから中国・朝鮮半島、そして日本へと伝えられた仏教美術がそれぞれの地域で生み出した表現形式やモチーフを概観する。スライド使用。</p> <p>以下のテーマに沿って進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①はじめに一仏教とシルクロード</li> <li>②インドの美術Ⅰ—釈尊の生涯</li> <li>③インドの美術Ⅱ—釈尊の前生</li> <li>④インドの美術Ⅲ—仏像の誕生</li> <li>⑤中国の美術Ⅰ—仏教の伝来</li> <li>⑥中国の美術Ⅱ—南北朝時代</li> <li>⑦中国の美術Ⅲ—石窟寺院</li> <li>⑧中国の美術Ⅳ—隋・唐時代</li> <li>⑨朝鮮半島の美術Ⅰ—三国時代</li> <li>⑩朝鮮半島の美術Ⅱ—統一新羅時代</li> <li>⑪日本の美術—仏教の伝来</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験</p>	

【授業科目名】 演劇論	【担当者】 高橋秀雄
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、演劇は宗教儀礼から発しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立してきている。この演劇についての考察を認め、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特徴を深める。	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：各種演劇関係書（細部を指示する）	
授 業 計 画	
<p>洋の東西における演劇の特徴を明らかにするとともに、演出・演技・舞台美術・照明・音楽・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには西欧の諸演劇と日本の演劇を比較することによって、その多様性と特徴を理解する。各テーマについては数回の講義となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教儀礼と演劇</li> <li>2. 悲劇と喜劇</li> <li>3. 能と「花伝書」</li> <li>4. 歌舞伎と「虚実皮膜論」</li> <li>5. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム</li> <li>6. 歌舞伎と新劇</li> <li>7. オペラとミュージカル</li> <li>8. 比較演劇論</li> </ol>	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各期末のレポート</li> <li>2. 授業時の小レポート</li> <li>3. 授業時の平常点</li> </ol> } 左記3項による総合評価	

【授業科目名】 現代社会論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年前期	
<b>【授業目標】</b> 現代日本社会は複雑な仕組みをもって高度に発達している。この社会を考えるとき、いろいろなアプローチがあるが、本講では社会学的な把握を試みる。人間の社会学理解からはじめる本講は、いずれ毎日、新聞やテレビに現れるテーマをとりあげ、それらがもつ課題を「人間らしく生きる」という観点からも整理する。	
<b>【テキスト・参考書】</b>  講義中に適宜指示する。	
<b>授 業 計 画</b>	
1. 「人間が生きる」ということ  2. 人間の行動・行為  3. 「人間らしく」生きることと欲求  4. 人間を特徴づけるパーソナリティ  5. 行動様式としての文化  6. 集団生活のあり様  7. 現代日本社会の諸相	- 社会的存在としての人間を追求する。生物体のヒトから生活体の人間への変換点は何か。「人間らしく」生きる意味を考える。  - 人間の生活＝生きるということは、行動（行為）の連続であり、したがって行動（行為）について説明する。  - われわれ人間にとって行動は欲求充足のためにとられる。しかし、欲求にはいろいろな次元からとらえられるべきであり、現代社会におけるわれわれの生き方と欲求のあり方について考える。  - 人間の行動を特徴づけるものとしてパーソナリティを位置づける。現代に生きるわれわれが、どのようにパーソナリティを形成していくか考える。  - とくに社会規範に注目する。複雑な社会に生きるわれわれにとって文化がもつ意味を考える。  - 人間はふつう重層的にいくつかの集団に属しているものであり、その一員としての生活を送る。集団がどのように個人の生き方を規制するか、一方で個人がどのように集団をつくっていくか考える。  - 現代日本を特徴づける社会変動について説明する。とりわけ都市化について述べる。
<b>【評価方法】</b>  ペーパーテスト	

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉—家族問題への対応』 培風館</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>1. 人間にとって家族とは何か</p> <p>2. 家族のはたらき</p> <p>3. 家族のタイプ</p> <p>4. 家族のしくみ</p> <p>5. 家族と福祉</p> <p>6. まとめ</p>	<p>— 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。</p> <p>— 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一樣に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。</p> <p>— 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家蔵のタイプが望ましいか、考える。</p> <p>— 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。</p> <p>— 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。  (1) 子どもの養育と家族福祉  (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉  (3) 高齢化社会における家族福祉</p> <p>— 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテストを期末に実施</p>	

【授業科目名】 日本国憲法	【担当者】 工藤 繁裕
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本国憲法の基本構造を理解し、法的・憲法的考え方を身につける。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：特に指定しない          参考文献：樋口陽一「憲法」（創文社）          野中・江橋編「憲法判例集」（有斐閣新書）</p>	
授 業 計 画	
<p>憲法の基本原則を中心に、判例も参照しながら、おおよそ以下の項目に沿って進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 憲法および日本国憲法</li> <li>2 主権</li> <li>3 国際社会と平和</li> <li>4 人および市民の権利 (1) 古典的権利</li> <li>5 同 (2) 現代的権利</li> <li>6 同 (3) 市民の権利と義務</li> <li>7 議会</li> <li>8 内閣と行政</li> <li>9 地方自治</li> <li>10 裁判</li> </ol>	
【評価方法】	筆記試験

【授業科目名】 市民生活と法	【担当者】 工藤 繁裕
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日常生活を法の中から眺め、同時に日常生活を規制しているこの法そのものについて考えることを通じて、法的な考え方を身につけることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト、参考書：考慮中</p>	
授 業 計 画	
<p>現代社会生活の一領域・一局面をピックアップし、一話完結の形で進める。各テーマでは、その実態・規範・判例を検討し、その問題点を考える。現在予定しているテーマは以下の通りであるが、ほかにも、女性、消費生活、差別、税金、高齢化社会、社会保障など、いわば無数にある。可能な限り、受講者の希望も取り入れて決めることとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生命と法</li> <li>2 家族と法</li> <li>3 教育と法</li> <li>4 労働と法</li> <li>5 情報と法</li> <li>6 医療と法</li> <li>7 犯罪と法</li> <li>8 環境と法</li> <li>9 地域社会と法</li> <li>10 国際社会と法</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">筆記試験</p>	



【授業科目名】 政治学入門

【担当者】 加地 直紀

【開講期】 1年前期

【授業目標】 政治とは ①利害の調整、②権力闘争であることを、政治制度、政治思想、国内外の政治の実態に関する解説をとおして理解していただくことを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：中村勝範『正論自由』第11巻（慶應通信、平成11年）

### 授 業 計 画

政治とは、対立する国民の利害を調整することであり、また権力闘争である。したがって政治には、生身の人間の欲望が渦巻いており、倫理や道徳ではおきれない状態である。汚職政治家が有態な政治家でもある。という皮肉な面もある。

この授業では、道徳ではおきれない政治のダイナミズムについて、具体的な出来事を通して解説する。

だいたい以下の手順で授業をすすめる。

- ① 政治制度の解説
- ② 政治思想の解説
- ③ 国内政治について
- ④ 国際政治について

【評価方法】 ①筆記試験またはレポート  
②平常点（出席ではない、質問等）

【授業科目名】 生活の経済学	【担当者】 内山 哲朗
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>経済の基本的な仕組みを理解し、《生活と経済》の関連をめぐる基礎的な知識の習得をめざす。同時に、社会的な諸事象を《経済学の眼》で見る方法の重要性について学習する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：池上惇『経済学への招待』（有斐閣、1994年） 参考書：講義において適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>人間の《生活》の営みを《いのちとくらしの再生産》としてとらえ、《いのちとくらしの再生産》が「豊かになる」ということが本来的にどのような意味であるのかについて、以下のテーマを中心にしながら講義を進めていく。必要に応じて、ビデオによる学習も取り入れる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間の《生活》と欲求の発展段階</li> <li>(2) 人間の欲求と市場経済</li> <li>(3) 世界の経済体制</li> <li>(4) 戦後日本経済と産業構造の変化</li> <li>(5) 経済のサービス化・ソフト化</li> <li>(6) 経済成長と企業社会</li> <li>(7) 地球環境問題と経済構造の転換</li> <li>(8) 世界経済のなかの日本</li> <li>(9) アジア経済のなかの日本</li> <li>(10) 《生活の豊かさ》と経済政策</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末試験の成績と授業への出席等を勘案して総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 心理学入門	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 保育の方法としての心理学について	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキスト：未定（別途連絡）  指定図書：図書館	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の流れについて</li> <li>2. 人はなぜそのような行動をするのか――条件付け――</li> <li>3. 知覚と認知 ――行動の手がかりとしての認知――</li> <li>4. 意識を越えて――精神分析の考え方――</li> <li>5. 人間関係について考える</li> <li>6. 子供の問題行動への取り組み</li> <li>7. 生活における心理学</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 平常点，中間試験，期末試験	

【授業科目名】 マスコミュニケーション概論	【担当者】 瀬木 博道
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 現代はマスコミ支配の時代ともいえる。このマスコミを初歩から読み起こし、マスコミ、ジャーナリズムの特質を解説し、社会に及ぼす影響について、考えられるようにして行きたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】  瀬木博道・小倉重男共著 「コミュニケーションするPR」  電通出版事業部</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マスコミとは何か その現状 (上)</li> <li>○ 同上 (下)</li> <li>○ 日本の新聞報道の問題点 — 外電を中心に</li> <li>○ 日本の新聞経営の問題点</li> <li>○ ジャーナリズムとは</li> <li>○ ジャーナリズムの文化的基盤</li> <li>○ 記者クラブの問題点</li> <li>○ 報道PR活動 — パブリシティと広告</li> <li>○ 言論の自由、知る権利</li> <li>○ 日米ジャーナリズムの比較考察</li> <li>○ テレビ報道の問題点</li> <li>○ マスコミのあす — 新聞を中心に</li> </ul>	
【評価方法】	

【授業科目名】 自然科学史	【担当者】 柳下 登
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 人間は自然を理解すること無しには生活をしていけない。人間の生活に科学することの原点がある。人間は科学することで、自己を変革し、より人間らしい人間になって来た。科学することは真善美を追究する文化系の諸活動と同根である。ここでは人間を基軸に科学の足跡を追うことにする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：サートン『科学史と新ヒューマニズム』岩波新書 シンガー『科学思想のあゆみ』岩波書店 ほか	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科学を成り立たせた人間の条件</li> <li>2) 道具の発見と人間</li> <li>3) 火の発見と人間</li> <li>4) 農耕のおこりと人間</li> <li>5) 地動説と人間</li> <li>6) ニュートン力学と人間</li> <li>7) 波でもあり粒子でもある物質の発見と人間</li> <li>8) 生命起源、生物進化と人間</li> <li>9) 原子論から原子核の発見と人間</li> <li>10) バイオサイエンスと人間</li> <li>11) 現代宇宙論と人間</li> <li>12) 世界最古の紙『パピルス』紙の作製実習</li> </ol>	
【評価方法】 レポートならびに受講態度	

【授業科目名】 生命の科学	【担当者】 吉川研二
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>生物学は人間が生きていく上で最も大切な基礎学問です。なぜならば私たちは多くの生物に依存して生命を維持しています。清浄な空気や水、土壌は生物たちの共同作業によって生み出され、食糧や医薬品、日用品など様々な資源として利用しています。一般には難しいといわれる生物学ですが、現代を生きる人間の必修教養として学んでほしい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>プリント（複数の書籍を参考資料として使用する。）</p>	
授 業 計 画	
<p>地球上に生命が誕生してから35億年、多種多様な生物が登場し、繁栄し、消滅してきました。しかしながら、生命の設計図である遺伝子、すなわちDNAは生命の誕生から現在まで脈々と伝えられてきました。顕微鏡でしか見ることのできない微生物から巨大な生物であるシロナガスクジラやセコイアまで、その基本は同じです。基本は同じでも、生物を比べて見るとその形、生態、行動など一つとして同じものはありません。私たちが今見ている生物はそれぞれが進化し、生きてきた姿なのです。何故こんなにも多様な生物が存在するのでしょうか。</p> <p>エイズ、アレルギー、遺伝病、人口や資源、環境など生物学に関わる問題は山積みしています。生物学はまた日進月歩の学問です。農学、医学、薬学、栄養学、遺伝子工学、心理学など応用分野も多方面にわたっています。授業ではいくつかの生物学の話題を拾いながら、生命について、生命現象の謎について紹介していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生きているとは？</li> <li>・ 生命の起源</li> <li>・ DNA学</li> <li>・ 種とは何か</li> <li>・ 性の誕生</li> <li>・ 病気と闘う</li> <li>・ 環境問題</li> <li>・ 生命の共生</li> <li>・ バイオエシックス</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">レポート 筆記試験</p>	

【授業科目名】 生物と環境	【担当者】 小作明則
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】 命を持つものは全て何らかの「環境」という枠のなかで生活しています。そこで本講では「生物と環境」がどのように影響しあうことで地球という星が成り立っているかを「ヒト」という特異な動物とのかかわりあいを含めて考えていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】          テキスト：使用しなし</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>全ての地球上の生物は必ず環境という枠の中で生れ、生活し、滅んでいきます。今日、地球上のあらゆる環境は「ヒト」の経済活動のために地球誕生50億年の間で最も激しく、そして経験したことのないかたちで環境条件が激変している時代に直面しています。このような状況の中で「生物と環境」の講義ではまず地球上で生活している生物がその生物を取り巻く環境とどのような関連をもって生活しているかについて概説し、次に生物を取り巻く環境の変化とその生物の対応について具体的かつ生態学的見地からの理解を深めます。そして最終的にヒトという動物の存在が地球環境にどのような歴史的かつ経済的背景をもって影響を及ぼしてきたかについて学んでもらいたいと考えています。以上述べたことは現在大きな問題と成っている種々の「地球環境問題」を理解し、それにたいして我々がどのような問題意識をもち、さらに具体的対応策を個人のレベルで立てていくことができるかを考える際の手引きになるよう構成するつもりです。</p> <p>講義の中ではできるだけ実物の生き物に接する機会を作り、疑似体験でわかない、直接体験の機会を多く持ちたいと思っています。</p>	
<p>【評価方法】 ① 筆記試験          ② レポート</p>	

【授業科目名】 生活の科学	【担当者】 滝沢 靖臣
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住並びに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している分子や原子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本講義の主眼としている。</p> <p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業の中で項目ごとに紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。</li> <li>2. 身の回りにある水分子の世界を覗く。</li> <li>3. 原子と分子と私たちの生活。</li> <li>4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。</li> <li>5. 物質をつくっている分子の構造は何によってきまるのだろうか。</li> <li>6. 物質の状態は何によってきまるのだろうか。</li> <li>7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。</li> <li>8. 酢は何故酸っぱく感じるのだろうか。</li> <li>9. アルコールの正体は何であろうか。</li> <li>10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。</li> <li>11. 老化は防げるか。活性酸素の科学。</li> <li>12. 物質科学とエネルギー</li> <li>13. 物質科学からみた衣類。高分子化学の世界をみる。</li> <li>14. 石油資源と石油化学を考える。</li> <li>15. 科学は地球を救えるか。</li> </ol>	
【評価方法】 試験、レポート、出欠により評価する。	



【授業科目名】 健康の生理学	【担当者】 境 広志
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>より積極的・創造的で高度な健康を獲得するためには「自分の健康は自分で管理する」という意識を持つことが大切である。本講では、健康管理に必要な様々な知識を身につけ、それらを生活のなかで実践していくことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>《テキスト》 使用しない  《参考書》 参考図書・文献等は講義のなかで紹介していく</p>	
授 業 計 画	
<p>健康の生理学では、現代人の健康問題（成人病・AIDS・ストレス・栄養・環境問題・食品添加物…）についてを取り上げ、それらを通してより積極的・創造的で高度な健康を獲得するために必要な事項について考えていく。また、健康づくりのためにスポーツを日常生活のなかに取り入れていく場合、目的に応じてどのように実践していけば最大限の効果が得られるかについて最新の情報やデータを紹介しながら深く学習していく。主な内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)成人病の予防</li> <li>(2)免疫とAIDS</li> <li>(3)長寿の科学</li> <li>(4)子どもの健康とスポーツ</li> <li>(5)姿勢と健康</li> <li>(6)健康づくりのためのスポーツ</li> <li>(7)スポーツ傷害と健康</li> <li>(8)ストレス</li> <li>(9)食生活と健康</li> <li>(10)食品の安全性</li> <li>(11)環境問題と健康</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①課題レポート</li> <li>②授業時の感想文（不定期）</li> </ul>	

【授業科目名】 宇宙と地球	【担当者】 杉村 新
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 ただ眺めていればロマンチックな星も、自然科学では物質とエネルギーの塊にすぎない。でも、あれは何だろうか と問いかけると、思いがけずロマンに遭遇するかもしれない。この授業では、主として地球について、特に神戸のような大地震がなぜ起こるのだろうかなどを考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】          テキスト：「新訂地学図解」（オ一学習社）          参考書（指定図書）「図解地学ⅠA」（オ一学習社）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>テキストは必ず持ってくること。講義中のおしゃべり厳禁。          毎回スライドを映しながら講義する。          授業はテキストの順序通りではない。順序未定。          内容の概要：身の回りの地学；天体の運行と人間生活；          資源と人間生活；地球の活動と災害；          地球と人間。</p>	
<p>【評価方法】 持込不可のテストで成績をつける。自然科学は暗記物ではないから、教科書のまる暗記はダメ。内容の理解の程度を判断して採点する。</p>	

【授業科目名】 数 の 科 学

【担当者】 人來院 ひさ子

【開講期】 1年前期

【授業目標】

日常の身の回りにあふれる情報について、その意味を考え正しく理解するために、  
数学的に分析するさまざまな手法を学ぶ。

【テキスト・参考書】

プリントを配布

### 授 業 計 画

なるべく身近なデータを使ってそれらの意味するところを考えることから  
はじまって、広い視野で物事をとらえる視点を身につける。

対数の意味と対数目盛によるデータの観察

累積値の見方

いろいろな統計的数値

箱ひげ図

ロジット変換

散布図と相関関係

乱数について

確率と確率分布

【評価方法】

期末にテストを行う

【授業科目名】 総合英語Ⅰ	【担当者】 大佛 義信
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】 英語学習を通して、人間の問題を深く考察する機会をもつことが必要である。テキストはシェイクスピア作品の現代語訳であるが、原文と著者の評価も挿入されていて、多角的な追求が可能である。</p> <p>①内容を構成と人物に注目しながら正しく読解できる。  ②内容について簡単な英語の設問に答えられる。  ③復習としてテキストの英文を聞きながら理解できる。  ④ストーリーを英文で要約できる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】  倉橋 健 編注  "James Kirkup's Tales from Shakespeare Romeo and Juliet" 朝日出版社</p>	
<h3>授 業 計 画</h3>	
<p>次の指導項目を順次授業計画に組むものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 長文読解のためのsyntax中心の文法のまとめを配布し、英文構造の基本型を示す。</li> <li>2. 自然科学、社会科学と文学作品の文章の違いについて→論説文と物語文のスタイルの違いを実例で示す。</li> <li>3. シェイクスピアの作品を例にして、劇が人間の問題をどのように提示するかを考える事で文学作品を読む意義をつかませる。</li> <li>4. シェイクスピアの作品の分類と特徴について概括する。</li> <li>5. 「ロミオとジュリエット」と四大悲劇との比較を行い、この作品の特徴をつかませる。</li> <li>6. 著名な論文からの引用を訳読しながら、作品の評価をすすめていく。</li> <li>7. シェイクスピアの劇詩と叙述について、テキストの原文を例に詩劇の条件の一つを示す。</li> <li>8. 作品の構成と人物についてまとめを行う。人物については感想を書かせて発表させる。</li> <li>9. ストーリーを英文で要約させる。</li> <li>10. 映画をみる。</li> </ol>	
<p>【評価方法】 試験を中心に、レポート、授業中の発表、出席状況を加える。</p>	

【授業科目名】 総合英語Ⅰ	【担当者】 須藤 彩子
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本人向けに書きなおされたものでない文章にふれ、英語の文章の組み立て方、構文・語法などの基礎をかためる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>” Dear Abby Ⅰ” (弓プレス)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>気楽な人生相談のコラムをとおして英文を楽しく読むコツを覚えていく。はじめはゆっくりと進み、文章を読みとおすことに慣れてきたら、だんだんとスピードをあげていく。短いまとまっている文章を題材にして、文のパターンや語いにも注目していきたい。数回の小テストあり。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験、小テスト、課題などを総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 総合英語 I	【担当者】 ハベル 清子
【開講期】 1年前期・1年後期	
【授業目標】 LLで行うリスニング主体のクラス。テープを聞きながらワークブックに記入して行く。毎週1課をこなす。仕上げ後口頭で今学習したことの応用再現をやる。	
【テキスト・参考書】 <u>Basics in Listening</u> (Lingual House)	
授 業 計 画	
【評価方法】 クラス参加度とその質、そして前期、後期テスト(リスニング)で評価する	

【授業科目名】 総合英語 1	【担当者】 藤田久美子
【開講期】 1 年前期・1 年後期	
【授業目標】 フォークソング、ジャズなどのポップスを聞き、それぞれの歌の心に触れながら、言葉としての英語の美しさ、豊かさを理解し、また、その時代背景と精神とを理解して頂きたいと思う。	
【テキスト・参考書】 1) "Say It in Song" (James House 他編 Macmillan Language House) 2) "Listening for Homestay" (染矢正一他編)	
授 業 計 画	
<p>言葉にはいろいろな形がある。英語というひとつの言葉であっても、会話、演劇、詩、歌等々、その表現される手段が異なると、全く違った光を放ち、又、響きを奏でる。</p> <p>その中でも、歌は、メロディやリズム等の要素が加わって、特別の雰囲気を作り上げているために、私たちにとって、とても近付きやすいものだと思う。</p> <p>そこで、このクラスでは、英語のヒット・ソングを聞き、又、皆さんと一緒に歌っていきながら、言葉としての英語の美しさ、意味深さを味わいたいと思う。</p> <p>毎回、一曲の歌を聞き、その歌のエピソードなどを読み、又、歌詞を聞き取る練習をし、内容について考えていく。</p> <p>時には、有名なミュージカル映画のさわりを、ビデオで鑑賞して、その中で歌われる曲の歌詞も紹介したいと思っている。</p> <p>又、クラスの、15～20分程を使って、リスニングの練習をする。いつも必ず、2冊のテキストを持ってきてほしい。</p>	
【評価方法】 学期末の大きなテストは、特にする予定はなく、毎回の授業で行う小テストの成績を含めた平常点で評価する。出席状態、授業への貢献度、それに、平常の小テストの結果を、だいたい同じ比重で考えて評価する。(特に、出席状態は、極めて大事なので、注意してほしい。)	

【授業科目名】 選択語学Ⅰ 英語1・4 (オーラルコミュニケーション)	【担当者】 森田 眞澄
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>会話が成立するためには、先ず相手の言う事が理解できなくてはなりません。基礎的なリスニングを集中的に行い、聞き取る能力を高め、又、授業中の質問、応答を可能な限り英語で行う事により、初歩的なスピーキング能力の向上も試みます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>“Listen First” Oxford University Press 発行 1330円  “Listen for It --- New Edition” Oxford University Press 発行 1700円</p>	
授 業 計 画	
<p>前期の前半で“Listen First”を終了し受講者のバールをみた上で、できるだけ早く“Listen for It”に移る予定です。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>(1)原則として、毎週、授業中に小テストを行います。(3回目予定)  (2)授業への参加度(質問、発言の有無)を、毎授業中にチェックします。  (Class Participation ----- CP)</p> <p>以上の二点で評価します。  評価の内訳は、(1) ----- 90% (2) ----- 10%</p>	



【授業科目名】 選択語学Ⅰ 英語2 (オーラル・コミュニケーション)	【担当者】 ハル 清子
【開講期】 1年前期・1年後期	
【授業目標】	
【テキスト・参考書】 なし	
授 業 計 画	
<p>教師のオリジナル作業（コミュニケーション・タスク）を2技能（リスニングとスピーキング）を使ってこなしてもらう。クラス内発表という形になる。作業は1人、ペアの時あり、複数のグループの時もある。作業の内容は、あるトピックに対しての自分の意見を述べたり、スクリプトを製作・発表したり、問題解決したり……その他はお楽しみ！</p> <p>選択のオーラル・コミュニケーションなのですべて英語でやる。タスクはやさしいハルから始めるので、英語がへただからという心配無用。ただし、英語を使用してクラスメートとコミュニケーションするのに抵抗がない人を望む。体育の実技と同じに考えるし、また仲間と一緒に作業することがあるので毎週の出席が望まれる。</p>	
【評価方法】 クラス参加と発表するタスクの内容と質によって評価するので前期・後期区分なし。	

<b>【授業科目名】</b> 選択語学Ⅰ 英語3 (オーラルコミュニケーション)	<b>【担当者】</b> 清野 茂子
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b> オーラルコミュニケーションを主体に、英語の知識を整理統合し、反復練習をしながら、基礎をしっかり身につけることを目的とする。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 未定	
<b>授 業 計 画</b>	
This area is intentionally left blank for the course plan content	
<b>【評価方法】</b>	

<b>【授業科目名】</b> 選択語学Ⅰ 英語5 (フィクション講読)	<b>【担当者】</b> 中島好伸
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b> 英米の小説(なるべく平易な現代小説)を原文で読むことで、語彙力を高めながら英語という言語の豊かさを味わい、その言語によって作られた作品世界の独自性を味わえるようにする。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 未定	
授 業 計 画	
<p>小説を読むのは楽しいものです。外国の小説を翻訳で読むのも楽しさにおいては同じです。しかし、翻訳で読むと、訳者の意志が反映されることは言うまでもなく、原文の持つ味わいも失われていることを覚えておきましょう。できれば、原文で読みたいものです。そのためには、慣れるまで多少の努力が必要になります。この授業は、この多少の努力に対して援助しようとするものです。読もうとする意志があれば、だれでも必ず読めるようになるものです。</p> <p>授業では、毎回レポーターを決めます。最初のうちは2、3人で、一人の分担は2ページから始めます。レポーターは細かく辞書を引いて、内容を要約し、それをノートにまとめておきます。授業でそれを発表してもらい、受講生みんなで内容の討論を行います。慣れて来たら、一人当たりのレポートの分量も増やし、レポーターの人数も増やして行こうと思います。</p> <p>これで一年間に幾つ的小説を読むことができるでしょうか。</p> <p>年に数回のレポートも書いてもらいます。</p>	
<b>【評価方法】</b> 年に数回のレポートと、授業時のレポーターの内容に出席を加味して評価します。	

<b>【授業科目名】</b> 選択語学Ⅰ 英語6 (フィクション講読)	<b>【担当者】</b> 後藤 玲子
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b>  英米文学の中から珠玉の短編小説8編が収めてあるテキストを使って、ていねいに英文を読みながら、人間の真実の瞬間における様々な愛の形について考えていく。	
<b>【テキスト・参考書】</b>  <i>Aspects of Love</i> (『愛の諸相－鑑賞から表現へ』) Maureen Lamarche・野谷啓二, 1995年, 朝日出版社, 1700円	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>前・後期それぞれ4編ずつディスカッションをしながら読んでいく。収められた作品は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ “The Story of an Hour” by Kate Chopin</li> <li>・ “A Telephone Call” by Dorothy Parker</li> <li>・ “Lispeth” by Rudyard Kipling</li> <li>・ “Sweetheart Sweetheart Sweetheart” by William Saroyan</li> <li>・ “Breakfast” by John Steinbeck</li> <li>・ “Up in Michigan” by Ernest Hemingway</li> <li>・ “Roman Fever (1)” by Edith Wharton</li> <li>・ “ ” (2) ” ”</li> </ul> <p>また、文学作品から映画化されたものの中から、前・後期1本ずつ映画も見てみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <i>East of Eden</i> (『エデンの東』), 1955年, 原作 John Steinbeck, 監督 Elia Kazan</li> <li>・ <i>Age of Innocence</i> (『無垢の時代』), 1993年, 原作 Edith Wharton, 監督 Martin Scorsese</li> </ul> <p>を予定しているが、要望があれば変更も可能。</p>	
<b>【評価方法】</b>  平常点とレポート	

【授業科目名】	選択語学Ⅰ 英語7 (ライティング)	【担当者】 後藤 玲子
【開講期】	1年前期・1年後期	
【授業目標】	<p>今日の社会において議論を呼んでいる話題について書かれた英文を読んで、それらの諸問題に対する自分の意見を英語で表現する力を養う。</p>	
【テキスト・参考書】	<p><i>Viewpoints: For and Against</i> (『自分の意見のまとめ』)  Vance E: Johnson, 1995年, 金星堂, 1700円。</p>	
授 業 計 画		
<p>最近よく「発信型の英語」という言葉を耳にしますが、「発信型の英語」とはどのようなものなのでしょう。それは、つまり英語を聞いて理解できる・読んで理解できるという受容のレベルからさらに一步進み、そこで理解したメッセージに対して、自分のメッセージを言葉で語り、あるいは文字に書いて相手に伝えられる英語力であろうかと私は考えます。</p> <p>一般に、前者、つまり聞いて、または読んでわかる言葉を「受容言語」、後者、つまり発音できるまたはその文字を書ける言葉を「活用言語」と呼ばれ、その比率は4対1程度と考えられるという心理言語学からのデータがあります。けれども、果たしてこれまで蓄積してきた語いの4分の1を実際に活用できるかと問われれば答えは“No”かもしれません。その理由の1つは、ただ単に、自分で主体的に自分の言いたいことを表現する練習をあまりやってこなかった、ということにあると思います。</p> <p>「喫煙は公共の場では禁止すべきか?」、「日本ではセクハラは頻繁に起こっているのか?」、「お見合結婚は結婚するための良い方法か?」、「日本の学校において、歴史教育は十分に行なわれているか?」、「日本において外国人は差別されているか?」こういった今日的な話題について、まずは問題点を理解し、次にその賛否両方の意見をふまえ、最後に自分の意見をまとめて発表するというプロセスで授業を進めていきます。</p> <p>さらなるディスカッションに発展することをめざしつつ。</p>		
【評価方法】	平常点と試験	

<b>【授業科目名】</b> 選択語学Ⅰ 英語8 (ライティング)	<b>【担当者】</b> 清野 茂子
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b> 自分の思っていることを英語で考え、英語で表現して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てたい。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 未定	
<b>授 業 計 画</b>	
This area is intentionally left blank for the lesson plan content	
<b>【評価方法】</b>	

【授業科目名】 選択語学Ⅰ（独語Ⅰ）	【担当者】 正路 妙子
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>基礎的な文法をマスターし、ドイツ語を聞き、話し、読む力を養うことを目指す。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>信岡・ドイツの言葉と社会事情（郁文社）</p> <p>ドイツ語を聞いてはなして（白水社）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>2時間続きの授業のうち、前半で文字と発音の関係をしっかり学び、テープを使って発音のトレーニングを行い、発音記号なしで読めるように指導する。その後文法説明に入っていくわけだが、動詞の活用と冠詞類の用法の説明に重点を置いて授業を進めていく。文法の説明の後に、まとめとして付いている問題は自宅でまえて学習してこること。</p> <p>後半で</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・基礎的な会話のパターン練習を最初に行う。</li> <li>2・続いて、テープを聴きながら、どの程度に内容が把握できたかどうかを確認する問題に取り組む。</li> <li>3・最後にまとめとして、今まで出てきた単語をまとめ、語彙を拡大するための作を行なう。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常の授業の中で行なう文法確認テストと定期試験の成績を総合して判定する。</p>	

<b>【授業科目名】</b> 選択語学Ⅰ（仏語Ⅰ）	<b>【担当者】</b> 村山 知恵
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b> フランス語の初歩を楽しくマスターできるようにする。	
<b>【テキスト・参考書】</b> “Bien venue eu France” Tome 1 Hatier Didier	
<b>授 業 計 画</b>	
1) 授業の最初にビデオを見せ、聞き、発音を練習する。 2) 文法の説明はプリント 3) 練習問題もプリント	
<b>【評価方法】</b> 前期、後期とも筆記試験	



【授業科目名】 スポーツA (テニス)	【担当者】 岡田 光弘
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 生涯スポーツのために必要となる基本的な技術、知識、態度を自ら学ぶこと	
【テキスト・参考書】 テニス教本 (社)日本テニス協会 編 新・テニスの科学 日本テニス研究会 / テニスジャーナル 編	
授 業 計 画	
1. フォアハンド・ボレー 2. バックハンド・ボレー 3. フォアハンド・ストローク 4. バックハンド・ストローク 5. サービス 6. レシーブ 7. オーバーヘッド 8. バリエーションショット 専の各技術を学んだのち ゲームの進行法・ルール 実際のゲーム と順次進んでいく。	
【評価方法】 技術 40% 態度 40% 知識 20% とし、欠席、遅刻、早退分を減点する。知識については小テストを行なう。	

【授業科目名】 スポーツA (卓球とバドミントン)

【担当者】 松岡 由紀子

【開講期】 1年前期

【授業目標】

- スポーツをやることにより、運動不足を解消し、体力の保持増進を  
ほかり、精神的ストレスを解放する。
- 運動技能と知識の習得及び態度の育成。

【テキスト・参考書】

## 授 業 計 画

### 卓球とバドミントン

#### ◦ 卓球

##### 技能練習とゲーム

- ① ボール慣れ
- ② 素振りと正しいストローク
- ③ フォアトップ打ち、バックショート、ツッツキの練習
- ④ どのコースでも打てるようになる
- ⑤ 正規のサービスを出すようになる(変化サービスも)
- ⑥ 各種打法の練習
- ⑦ ゲームとルール、審判法

#### ◦ バドミントン

##### 技能練習とゲーム

- ① グリフとシャトル慣れ
- ② ストロークの練習(オーバーヘッドストローク、スマッシュ、バックハンドストローク)
- ③ サービスの練習(ロングハイサービス、ショートサービス)
- ④ 集団技能の練習
- ⑤ ゲームとルール、審判法

【評価方法】

平常点とゲーム中に採点

<b>【授業科目名】</b> スポーツA (バレーボール)	<b>【担当者】</b> 池森 隆虎
<b>【開講期】</b> 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 6人制バレーボールをルールに則って楽しく行えるようになることを目標とする。	
<b>【テキスト・参考書】</b>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>基本動作の説明と技術練習          (オーバーハンド・アンダーハンドのレシーブ及びスパイク、サービス)</p> <p>ルール及び基本的作戦の説明と実践          (ゲーム進行、得点、審判法、ポジショニング)</p> <p>ゲームの実践          (リーグ戦)</p>	
<b>【評価方法】</b> 出席を重視、その他として参加態度、習熟度、技術度、等を加対象として考慮する。	

【授業科目名】 スポーツA (エアロビクス)	【担当者】 高野 牧子
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 「エアロビック・ダンス」を取り上げ、自分の身体を正しく認識し、各自のペースで楽しく効率的に、健康増進と体力増強をはかるとともに、生涯にわたって積極的に身体活動を行なう態度の育成を目標とする。さらに、ダンスの特性を活かし、自分の表現手段として動きの創造性を養っていく。	
【テキスト・参考書】 テキスト 使用しない 参考書 ケネス・H・クーバー、加藤橘夫監修『エアロビクス』ベースボール・マガジン社	
授 業 計 画	
<p>「エアロビクス」とは本来、アメリカのケネス・クーバー博士が提唱した有酸素運動によるトレーニング法であり、1970年代ダンスと結び付き、エアロビック・ダンスとして急速に展開した。心肺機能を高めるだけでなく、柔軟性や調整力を鍛える効果がある。授業では心拍数と運動強度を理解した上で、各自の目標心拍数を算出し、運動を行なっていく。またより効果を高める為に、単に動きを模倣するだけでなく、実際に動かしている自分の筋肉を知覚し、さらに自分の動きをVTRで見ることにより、自分の身体を正しく認識し、改善する様、努める。</p> <p>授業はリズムにのって楽しく動くことを基本に以下の様に進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「エアロビクス」の知識 心拍数と運動強度、目標心拍数など</li> <li>②基本的なステップの習得</li> <li>③VTRによる基本的ステップの確認</li> <li>④応用ステップの習得</li> <li>⑤VTRによる応用ステップの確認</li> <li>⑥ステップの創作・練習</li> <li>⑦発表・VTR</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①平常点 (出席点及び活動態度・関心・意欲) を重視し、</li> <li>②実技発表点 を20点程度まで加算する。</li> </ol>	

【授業科目名】 スポーツB (キャンプ)	【担当者】 村田 務
【開講期】 7月集中	
【授業目標】	
<p>自然環境の中での集団活動を通して、健康的な生活を営むための能力と態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野外活動に必要な知識と技能及び判断能力</li> <li>・ 健康的で強靱な「こころ」と「からだ」</li> <li>・ 自然を親しみ愛好する態度、野外活動への参加意欲</li> </ul>	
【テキスト・参考書】	
<p>参考書：野外レク研究会、レクリエーションキャンプ、成美堂。          : 野外レク研究会、野外レクリエーション、成美堂。          : 山崎安治、登山、旺文社。</p>	
授 業 計 画	
<p>生活の場から自然が失われ、自然との共存が課題となってきた今日、自然を活用した野外活動は、健康の増進やレクリエーションとしての効果が極めて大である。しかし、野外での活動は、さまざまな自然的環境の影響を受けやすく、事故災害にもつながりやすい特性をもっている。</p>	
<p>そこで、授業では、特に、野外活動における適切な判断能力の育成と将来に向けての意欲づくりに留意して実施したい。</p>	
1、日 程	<p>1995年7月12日(水) 9:00～12:00am 事前指導          26日(水)～29日(土) 野外活動          29日(土) 事後指導</p>
2、場 所	学内、「山のふるさと村キャンプ場」(東京都奥多摩町)
3、参加者	学生28名、教員3名
4、内 容	<p>事前指導：運営組織・装備・食事等の理解と計画・準備          第1日目：テント設営、食事          第2日目：登山、食事          第3日目：ネイチャートレイル、キャンプファイアー、食事          第4日目：食事、テント撤収          事後指導：装備の点検・補修、反省評価</p>
5、費 用	約8,000円(食料費、交通費等)
【評価方法】	
平常試験(平常点、実技等)	

【授業科目名】 健康科学	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人間性豊かな健康生活を確立するために必要な能力と態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の健康問題について</li> <li>・健康の成立要因について</li> <li>・健康設計と健康処方について</li> </ul>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：宇土正彦・正木健雄監修・青年の健康と運動、現代教育社、1995年。  参考書：師岡孝次編、長寿の健康科学、日本プランニングセンター、1994年。  ：大森正英他著：健康の科学、中央法規、1992年。他</p>	
授 業 計 画	
<p>人間性豊かな健康生活を営むためには、健康問題の本質を正しく捉え、解決に向けての適切な判断力と実践能力が必要となる。また、今日の健康問題は、その多くが社会文化的な環境に大きな影響をうけており、「ひと」の心理的側面、社会的側面、及び文化的側面を抜きにしては考えられない。</p> <p>授業では、このような観点から、健康科学（疾病予防と健康増進の科学）の知見や考え方について解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、健康科学の概念</li> <li>2、現代人の生活と健康</li> <li>3、疾病の疫学と健康の成立</li> <li>4、主体と健康</li> <li>5、環境と健康</li> <li>6、保健医療体制と健康</li> <li>7、保健行動科学の考え方</li> <li>8、健康問題Ⅰ（成人病）</li> <li>9、健康問題Ⅱ（性の健康問題）</li> <li>10、健康問題Ⅲ（こころの健康問題）</li> <li>11、健康問題Ⅳ（女性の健康問題）</li> <li>12、健康生活の設計と処方</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（ペーパーテスト）及び平常試験（レポート、平常点）</p>	

【授業科目名】 スポーツ科学	【担当者】 岡田 光弘
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>スポーツを楽しむ 健やかな生活を営むためのスポーツ科学的教養を自ら学ぶこと</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テニス教本 (社) 日本プロテニス協会 編</p>	
授 業 計 画	
<p>1. スポーツ科学とスポーツ実践</p> <p>2. スポーツ科学と観客</p> <p>3. テニスについて (I)</p> <p>4. テニスについて (II)</p> <p>5. 武道について</p> <p>6. 芸能について</p> <p>7. サッカーの入門メソッドロジー</p> <p>8. ヒーローインタビューの会話分析</p> <p>等主に社会学的視点からスポーツ現象を扱う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>各回に提出するレポートをベースに知識、態度を評価する。</p>	





## 專門教育科目（1年）



【授業科目名】 日本文学史（古代）	【担当者】 浅田 徹
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>平安初期の散文文学を読み、その表現の質を考える。『竹取物語』を中心に論じて行くが、他に『土佐日記』などをも取り上げ、平安中期に女流のものとして開花する以前の仮名文学のありかたを考察したい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：阪倉篤義校訂『竹取物語』（岩波文庫） 『竹取物語』以外の作品についてはプリントで配布する。</p>	
授 業 計 画	
<p>平安初期にひらがなが発明されたことは日本文学を大きく変えた。ひらがなは、権威ある漢文の世界から見れば全く私的な、はかない世界に属する書記行為でしかなかったが（「かな」とは「仮の文字」という意味である）、そこからは、既成の権威に囚われない（それは「ためになる」文学ではないということでもあるが）作品が生まれて来たのである。『蜻蛉日記』『枕草子』『源氏物語』といった平安中期の作品は、洗練されてはいるものの、宮廷女房達の価値観の枠の中に閉じられてしまうので、ひらがな文学が最も輝いていたのは実は平安初期だったと言う見方も成り立つように思う。「洗練」や「充実」を求めるのではなく、新しい想像力の輝きや、だれも作ったことのないものを作り出そうという意欲に興味を引かれるならば、これらの文学の魅力が明らかになってくるであろう。</p> <p>授業では、とにかく作品を丁寧に読むことを第一とするが、『竹取物語』では次のようなことを問題としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材とその利用……民話や伝説、中国古典などが発想の基として知られているが、その雑種性や素材本来の枠からの逸脱について。</li> <li>・時代への眼……かぐや姫は実は当時の社会においては非常に「現代的」なキャラクターであったことについて。</li> </ul> <p>『土佐日記』においては、あらゆる「物語」を意図的に排除し、なんらかの「主題」に収斂するような語り方をも拒否する特異な姿勢について論じて行きたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（授業時に感想を求める）および定期試験。</p>	

【授業科目名】 日本文学史(近・現代)	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 日本近・現代文学の代表的な作家と作品を通して、その芸術史的展開を論じたい。僅か半年の講義ではあるが、せっかくの機会だ。お互いがんばって、明治後半から昭和初期までの見通しを獲得したい。	
【テキスト・参考書】  教科書は使用しない。下記の作品を、当該講義の日までに必ず読んでおくこと。	
授 業 計 画	
<p>○ 作品を読まずに「文学史」を論じたり受講したりすることは、食堂に入って実際に食べもせず、メニューだけ覚えて「味」を論じることと同じだ（むろん、メニューを覚えること自体の意味はあるのだが……）。</p> <p>とにかく本講を受講する以上、「自分で読む」つもりが無ければ、マルデ話にならない。この半年で、少なくとも下記の作品は、必ず読むこと。できれば関連する他の作品（講義で紹介する）も、旺盛に読むことが必要である。</p> <p>講義は、諸君が「読んだ」ことを前提にして進める。作品を分析し、その構造や魅力を考え、「作家」へと迫りたい。「芸術史的展開」は、<u>その中からのみ見えてくる</u>。下記「課題作品」は、講義で扱うものの中でも、とりわけ大切なものである。</p> <p>○ [課題作品] ①泉鏡花『高野聖』、②島崎藤村『破戒』、③夏目漱石『それから』ないし『行人』（講義進展の中で決定する）、④谷崎潤一郎『刺青』および『春琴抄』、⑤白樺派の中から一作品（講義の進展具合によって指定する）、⑥プロレタリア文学ないしモダニズム文学の中から一作品（同）。……「課題作品」に関しては、当該講義の際にテーマを与え、十五分ほどで小レポートを書いてもらう。</p> <p>○ 講義は時代を追って進めるが、内容は、何よりもまず、具体的な作品分析が中心になる。</p>	
【評価方法】 筆記試験（自筆ノート参照可）。講義に基づいて自ら考察しつつ論じる形式。講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておくこと。課題作品に関する、上記「小レポート」も加味する。「出席」のこと等は、最初の講義の時に述べる。	

【授業科目名】 日本文学(中・近世)	【担当者】 東喜望
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>文学研究の基礎は作品研究にあるといわれている。この授業では、日本の中・近世の代表的な作品を精密に読み味わうことに主眼をおき、受講者がそれぞれの作品について、自らの作品論をうち立てられるように、作品分析や研究方法の基礎についてもふれていきたい。出席を重視する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 前期 「山差山我本方丈記」 後期 「心中天の網島」</p>	
授 業 計 画	
<p>授業の概要は、以下のとおり。</p> <p>I. 文学研究の領域と方法</p> <p>II. 文献学・書誌学概説</p> <p>III. 原典講読</p> <p>1. 方丈記(鴨長明)</p> <p>序 安元の大火 治承の辻風 養和の飢渴 元暦の地震 むすび</p> <p>2. 心中天の網島(近松門左衛門) (浄瑠璃の概説と鑑賞) 河内屋の段 紙屋内の段 道行</p> <p>IV. 作品研究</p>	
【評価方法】 定期試験時に実施する筆記試験。	

【授業科目名】 国語学	【担当者】 吉田 健二
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 国語学についての基礎的な知識の理解・習得 現代日本語に関する調査・分析の基本を身につける。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 <sup>和・金田著</sup>          テキスト：『国語要説』四訂版（1994、秀英出版）          参考書：真田信治ほか『社会言語学』（1992、桜楓社）</p>	
授 業 計 画	
<p>次の2項を柱とする</p> <p>① 国語学概論：国語学の各分野について、その大要を解説する。 写真・図版等を利用して、具体的な国語史資料に触れてもらうようにしたい。</p> <p>② 社会言語学入門：言語を、それが使用される社会＝言語共同体（Speech Community）との関わりにおいて考える社会言語学について簡単に解説し、その後は、調査法・データのとめ方、図・表・グラフの作り方など、実践的技術の習得に重点をおく。</p> <p>受講者の人数と、教職免許取得志望者の割合を考慮して、①、②のいずれかを中心に据える。</p>	
<p>【評価方法】 ① 中心の授業になれば、筆記試験 ② 中心になれば、現代日本語の調査に基づくレポート（1～2回）</p>	

【授業科目名】 国語表現法

【担当者】 丸尾 寿郎

【開講期】 1年前期

【授業目標】

対象を的確にとらえ、見たまま思ったまま感じたままをそのままに文章に綴ることや、身のまわりの事からやみじくを詳しく説明したり、順序よく伝えたり、または調べて知った事について自分の意見と他人の考えを区別して、筋道立てて述べたりできる文章表現力をしかり身につけることを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト… 使用しない。

参考書… 岩淵悦太郎編著「悪文」 日本評論新社

授 業 計 画

文章を書くという事は、全人格的な行為でもある。上手下手でもなく、技法でもない。あえて言えば、自他を力まかせに言ひである。

国語表現法では、実際に文章を書き、書くことの實習の中で自分の文体を作っていくことが中心となる。

また、各自の文章を皆で批評し合い、さらに推敲して稿を整えていくようにする。

【評価方法】

平常点 (出席、作品提出などを含めて、もろもろ)。

【授業科目名】 国語表現法	【担当者】 高原 二郎
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 国語表現への基本認識と実践。	
【テキスト・参考書】 テキストは特に設けず。参考書は購 <sup>置</sup> しとる。	
授 業 計 画	
<p>言語での表現ということ、国語のなりたち、生活とことば、 専.前半は基本的な考え方を勉強する。次いで、文章表現の基 本から応用へ、実践的な勉強をする。各分野の表現法を可能な 限り扱ってみる。</p>	
【評価方法】	



【授業科目名】 史学概論	【担当者】 梅田 欽治
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>歴史とはなにか、歴史学とはどういう学問か、歴史学はどのように学習・研究するのか、などについての理解を確かなものにして、歴史と歴史学への関心を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは使用しない。資料は授業のときに配布する。 参考書等も授業のなかで紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>私たちは、どうして歴史を学ぶのだろうか。歴史にはロマンがある、歴史を知ることは楽しいというのも結構なことだ。しかしそれだけなら学校で歴史を学ぶことはない。どのような学問でも基本的な知識が前提となる。歴史学でも歴史上の人物・事件や時期などについての知識が前提となるのはいうまでもない。だが、暗記の学問というものはない。歴史学も考える学問なのである。過去のことを素材としているが、そこから私たち人類の未来を考える学問なのである。だから、歴史を学ぶということは私たちがどう生きるかを摸索することにもなる。</p> <p>(1)科学としての歴史学  (2)人類生存の基本問題～人間の生存にとって欠かせない事柄はなにか  (3)歴史認識の基本問題  ①生産のしくみ、②社会のしくみ、③国家のしくみ、④人種・民族・国民  (4)人類社会の発展段階  ①社会の発展とはなにか、②人類はどのような社会を経験してきたか、等  (5)時期区分論  ①時期区分とはなにか、②時期区分の歴史、③時期区分の基準、等  (6)歴史研究の構造と過程  ①歴史研究の構造、②史料とはなにか、③史料批判とはなにか、等  (7)歴史研究の理論問題  ①歴史における人間の役割、②歴史における地域、③女性史とはなにか、等</p> <p style="text-align: center;">* * *</p> <p>以上の事項を受講生の関心・理解度等にあわせて時間配分して講義する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期末および学年末試験の成績による。</p>	

【授業科目名】 史料講読	【担当者】 戸川 点
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】 テキスト（『将門記』）及び関連史料の講読を通して史料を読む力をつける。さらに、テキストの検討を通して中世成立期の社会状況（東国の在地情勢、貴族社会の様相など）を考え、正確に史料を読み、史料（データ）に基づいて歴史を考えるという歴史学の方法を身につけることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：『将門記』 （山岸徳平ほか校注『日本思想大系 8 古代政治社会思想』所収、岩波書店刊）</p>	
授 業 計 画	
<p>この授業では平将門の乱を扱った『将門記』を講読します。</p> <p>授業はゼミ形式で、担当者を決めて報告してもらいます。担当者は『将門記』の担当箇所を読んで解釈し、問題点、疑問点などを指摘する。その報告に即して問題点を参加者全員で考えていく。また適宜、史料に出てくることがらを調べるにはどうしたらいいか、関連文献はどうやって探すのか等、史料を読むためのノウハウも紹介していきます。</p> <p>『将門記』自体は10世紀前半に東国で起こった将門の乱を扱ったものですが、説話集や古文書、都の貴族の日記など関連する史料も幅広く読み、貴族社会のことや他の時代のことを調べたいと思っている人にも役立つよう、できるだけ配慮していくつもりです。</p> <p>1年後期を通して授業は以下のような流れで進めていく予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 将門の乱や『将門記』の性格について</li> <li>(2) 史料の調べ方</li> <li>(3) 『将門記』講読</li> <li>(4) 関連史料との比較</li> <li>(5) まとめ</li> </ol> <p>ゼミで問題になった点を中心に議論を深めていきたいと思っています。また、できれば次のような問題についても考えていきたいと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①東国社会論</li> <li>②貴族社会の対応、軍事制度、地方支配体制</li> <li>③武士の成立</li> <li>④将門伝説の成立 など。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学年末にレポートを提出してもらおうが、授業時の報告や授業への参加状況も加味する。</p>	

【授業科目名】 史料講読	【担当者】 西脇 康
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】          活字化された近世史料の輪読を通じて、史料の解釈力をつけ、歴史事実の再構築の方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】          (テキスト) 西脇康編著『旗本三嶋政養日記』。なお輪読部分については各自に配布する。          (参考書) 授業時に指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>幕末・維新期を生きた旗本の日記(『日録摘要』嘉永元～明治14年/1848～1881)を読みながら、幕末の旗本像、江戸の世相、戊辰戦争の動乱などについて具体像をつくりあげていく。とくに滅び去る幕府の側、ないし敗者の側から明治維新とは如何なるものに映り、如何に生きぬいていったかに迫りたい。</p> <p>日記は大部におよぶため、ハイライト部分を適宜史料として配布する。</p> <p>授業は最初1～2講、日記についての紹介および史料批判、読み方・調べ方についてコークし、その後各自の分担を決め、輪読してもらう。</p> <p>なお、意欲のある者には生の古文書の解読についても、サブゼミで指導する用意がある。</p>	
<p>【評価方法】          授業時の輪読とレポートの総合評価</p>	

【授業科目名】 史料講読	【担当者】 湯川 郁子
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>明治期の公文書・新聞論説等の史料をていねいに読み解いていくことを通して、時代の雰囲気を感じながら、歴史事実を追っていく方法を学びます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：本学での授業の際、コピーを配布します。</p> <p>参考書：授業中に適宜、紹介します。</p>	
授 業 計 画	
<p>今年度は、福沢諭吉の「脱亜論」など、明治前期(前半)のおもに新聞論説をとりあげ、この時期の対外認識のありようをテーマとします。「脱亜入欧」をめざして進められた日本の近代化のあり方を、史料に即して問う直すことができれば、と考えています。</p> <p>明治期の史料には、難解な漢語・漢文的表現が頻出します。授業では、それらを適切な現代文に置きかえながら、史料全体の意味を把握することが中心になります。(したがって、丹念に辞書をひいておくことが授業の前提になります。)その上で、歴史的な背景について解説を加え、その史料の位置を考えていきます。</p> <p>授業は、以下の順序で、以下に代表的な史料をとりあげながら進めていく予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 政府官僚の対外認識</li> <li>(2) 西洋観と国際政治についての新聞論調</li> <li>(3) 中国についての新聞論調</li> <li>(4) 朝鮮についての新聞論調</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート および 平常点。</p>	

【授業科目名】 日本古代史（考古学を含む） 【担当者】 関 和彦

【開講期】 1年前期

【授業目標】  
 日常生活の歴史を、現代史の文脈の中で、その意義を明らかにし、その発展の過程を考察する。また、その歴史的背景を踏まえ、現代社会の発展に貢献する。具体的には、古墳時代の社会構造、古墳の築造と埋葬、古墳時代の政治的・社会的変遷、古墳時代の文化・芸術の発展などを学ぶ。

【テキスト・参考書】  
 『日本書紀』 関 和彦 校倉書房  
 『古事記』 関 和彦 校倉書房  
 『古墳』 関 和彦 校倉書房  
 『古墳の考古学』 関 和彦 校倉書房  
 『古墳の歴史』 関 和彦 校倉書房  
 『古墳の文化』 関 和彦 校倉書房  
 『古墳の政治』 関 和彦 校倉書房  
 『古墳の社会』 関 和彦 校倉書房  
 『古墳の芸術』 関 和彦 校倉書房

授 業 計 画

あ経直本学いし「のの隣葉生」  
 ・見て史てを、点学ど万衆代  
 体社会をっ歴史義は観史な『民時  
 全社座との成講での献学は代文  
 球・視に展構で義」文に古縄  
 地治の類発を勢講性た国的、「  
 、政学人「部姿。常ま・体てる  
 しの史はの一るる日、学具しゆ  
 か本歴史でのすい「か理。とわ  
 し日、世ま」判てるの地る料い  
 。、時代今観批れけい史凶史は  
 たたす現。史らわおよ歴を本代  
 来ま渡てか化か問には・解基時  
 て、見しう利点か学え学理を象  
 えけをたる便観」史扱俗の』対  
 据つ活はあ「のか歴に民へ記。  
 をに生。での性何、う・勢異なる  
 点る常うのそ常は勢よ学姿盡す  
 視見日よな。日と姿の古的本に  
 にをのえ会たをさるど考際日か。  
 展勢れい社っ像かえを・学』らで  
 発情わとたあ会豊考料育る・明ま  
 の界れるしで社」を資教わ』を」  
 類世わい展観代の」・史か記相代  
 人のてて発史古真か料歴か土様時  
 は今し来で化の、何史、の風の安  
 学昨そに味利で今と、えと『体平  
 史は、期意便ま。学性超問・具「  
 歴いを時の今い史要を学』のら  
 る済す当」たた歴重梓接集活か

呼 弥 判 卑 性 研 究 指 して  
 何 書 制 と 代 究  
 か 批 と 女 史 を  
 何 皇 会 古 研  
 は 科 天 社 と 的  
 と 教 代 代 代 際  
 史 校 古 古 現 学  
 歴 高 古 古 現 学

【評価方法】  
 授業内容の理解度を、講義の出席率、課題の提出状況、試験結果などから総合的に評価する。また、授業中の発言や質問の積極性も評価の対象とする。

【授業科目名】 文化論	【担当者】 高橋秀雄		
【開講期】 1年後期			
【授業目標】 文化とはカルチュアの訳語であり、その原義は耕すという素朴である。古来から、人間は自然を耕すことにより、さまざまな文化を創り出し、それを伝承してきた。その軌跡を振り返りながら文化の特質を探求する。			
【テキスト・参考書】 テキスト： 使用しない 参考書： 各種文化用語書（その都度指示する）			
授 業 計 画			
<p>文化とは何かを命題にし、とくに芸術分野に焦点をあててその内容を理解させ、さらに東西文化の特質を比較することによって文化に対する認識を深める。各テーマについては教員の講義となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化とは何か</li> <li>2. 人類の発祥と文化の発生</li> <li>3. 火と水の文化</li> <li>4. 石と木の文化</li> <li>5. 狩猟と農耕と海洋の文化</li> <li>6. "ことば"の文化</li> <li>7. 東洋文化と西洋文化</li> <li>8. 日本文化論</li> </ol>			
<p>【評価方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各期末のレポート</li> <li>2. 授業時の小レポート</li> <li>3. 授業時の平常点</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: middle;">         } 上記の項による総合評価       </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各期末のレポート</li> <li>2. 授業時の小レポート</li> <li>3. 授業時の平常点</li> </ol>	} 上記の項による総合評価
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各期末のレポート</li> <li>2. 授業時の小レポート</li> <li>3. 授業時の平常点</li> </ol>	} 上記の項による総合評価		

【授業科目名】 アジアと日本	【担当者】 井上 和枝
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 隣国である朝鮮、韓国の歴史と文化を概観しながら、日本との深い関係を知り、新たな友好関係を築くにはどのようにしたらよいか考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 入門朝鮮の歴史 朝鮮史研究会編 三省堂</p>	
授 業 計 画	
<p>日本と朝鮮半島の国々とは古代から現在まで切っても切れない関係にあった。日本の文化や思想の歴史を考える時、朝鮮半島の影響を考えざるをえない。本授業では朝鮮、韓国の歴史と文化を日本との関係に焦点をあてて概説する。最も近く、最も深い相互関連がありながら、また最も知られていない国について知識を深めたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)朝鮮の古代国家と日本</li> <li>(2)朝鮮渡来人と日本文化</li> <li>(3)朝鮮の仏教と日本</li> <li>(4)高麗と元と日本（文永・弘安の役）</li> <li>(5)豊臣秀吉の朝鮮侵略</li> <li>(6)朝鮮通信使と日本</li> <li>(7)東学農民戦争と日本</li> <li>(8)王妃暗殺と日本の侵入</li> <li>(9)日本による朝鮮併合</li> <li>(10)3・1独立運動と日本</li> <li>(11)朝鮮の姓氏と創氏改名</li> </ol>	
<p>【評価方法】 授業の中で取り上げた問題に対する意見を出してもらい、それとレポートを半々に評価する。詳細は授業第1日目に説明する。</p>	

<b>【授業科目名】</b> 日本経済論	<b>【担当者】</b> 富永静枝
<b>【開講期】</b> 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 戦後における日本経済発展の軌跡をたどることによって、現代の日本経済の特徴と問題の所在を明らかにする。	
<b>【テキスト・参考書】</b> <p style="text-align: center;">テキスト 特に定めない</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>第2次世界大戦により廃墟と化した日本は、その後急速に資本主義的復興を遂げ、高度成長を通して、いまや「経済大国」と言われるようになった。しかし実際には経済発展の水準に比べて、国民の生活レベルは、国際的に見てそれほど高くはない。21世紀の高齢社会を目前にして生活や福祉面の立ち遅れを改善することは日本経済に課せられた大きな課題である。そこで本講では資本主義の歴史の中でも劇的と言われる変化を遂げた日本経済の発展の軌跡をたどることによって、現代の日本経済の特徴と問題の所在を明らかにする。</p> <p>授業の内容は概略以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、戦後の経済改革と経済復興</li> <li>2、高度成長の進展</li> <li>3、IMF体制の崩壊と日本経済</li> <li>4、世界経済に占める日本の地位</li> <li>5、国民生活の現状と日本経済</li> <li>6、高齢(化)社会と日本経済</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 学期末のレポートの他平常時にときどき実施するミニレポート。	



<b>【授業科目名】</b> イギリス文学講読	<b>【担当者】</b> 田中安行
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b> イギリス文学作品の中から青春期の人々が登場する作品を取りあげて、英語読解力を養うと同時に、作品の深い理解を通してイギリス的な発想やユーモア感覚を学んでいく。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 川口薔一「イギリス小説入門」研究社出版、1991年 以下に示すような作品群	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学作品を原文で読むことと翻訳で読むこととはどう違うのか、実際の作品を読みながら考える。</li> <li>2. いくつかのイギリス文学作品を読んで、表面的な意味の底に隠された意味を理解する方法を考える。</li> <li>3. 後半には学生が事前に作品研究をしたものを発表して積極的に参加できる授業にしていく。</li> </ol> <p>*次にあげるような20世紀作家の作品に触れていく。</p> <p>Saki (1870-1916)          Katherine Mansfield (1888-1923)          David H. Lawrence (1885-1930)          John Galsworthy (1867-1933)          Somerset Maugham (1874-1965)          Frank O'Connor (1903-1966)          Herbert E. Bates (1905-1974)</p>	
<b>【評価方法】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点 (出欠、予習、質問、意見発表など)</li> <li>2. レポート (読みの深さ、推測・洞察力、想像力、創造性、自己表現力)</li> <li>3. 筆記試験</li> </ol>	

【授業科目名】 英米事情講読	【担当者】 上原 重一
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代の英米事情、特にイギリスの生活習慣や文化について、英語の講読を通して学び、理解を深める。読むことを中心にしながらも、書く・聴く・話すにも力を入れて、総合的なコミュニケーション能力の向上を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：This is Britain (イギリスの姿) [成美堂] John Randle・松居 司 著 参考書： 必要に応じて指示する</p>	
授 業 計 画	
<p>イギリスの地理的・歴史的な位置づけと、世界の中での文化的役割など基本的な英国事情を概括し、日本との共通性と差異を明らかにしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Britain and the World</li> <li>2. The British People</li> <li>3. A Multicultural Society</li> <li>4. North and South</li> <li>5. Government</li> <li>6. Schools</li> <li>7. Higher Education</li> <li>8. The Press and Broadcasting</li> <li>9. The Environment</li> <li>10. Home Life</li> <li>11. Sport and Holidays</li> <li>12. Leisure and Food</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験の成績に、平常点（課題、感想文など）を加味して評価する。</p>	

<b>【授業科目名】</b> 英米事情講読	<b>【担当者】</b> 上原 重一
<b>【開講期】</b> 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 現代英米事情、特にアメリカの風土や文化を歴史的背景と共に、英語の講読を通して学び、理解を深める。読む力を前期以上に高めながら、書く・聴く・話すにも力をいれて、コミュニケーション能力の一層の向上を目指す。	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキスト： AMERICAN HIGHLIGHTS (アメリカの横顔) [成美堂] By Claudia & Deborah Stadius 参考書： 必要に応じて指示する	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>ハワイ、コロラド、五大湖など地理的風土と大学生活など若者の生き方、民族のサラダ・ポウルと呼ばれるアメリカ事情をじっくりと学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Pep Assemblies</li> <li>2. Easter</li> <li>3. Boston Tea Party</li> <li>4. California's Gold Rush</li> <li>5. The Picturesque State of Colorado</li> <li>6. Advertising---Background and Benefit</li> <li>7. American Independence Day</li> <li>8. The Aloha State</li> <li>9. Benjamin Franklin</li> <li>10. Halloween</li> <li>11. The Entertainment Capital of the World</li> <li>12. A Healthy Environment</li> <li>13. First Woman Supreme Court Justice</li> <li>14. The Life of Helen Keller</li> <li>15. Driver Education in the U.S.</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 定期試験の成績に、平常点（課題、感想文など）を加味して評価する。	

【授業科目名】 英語表現Ⅰ	【担当者】 スワフ, ウィリアム ローレンス
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ありません</p>	
授 業 計 画	
<p>いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキット作り、テープの聞き取りをする。</p> <p>以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. friendly greetings</li> <li>2. making choices</li> <li>3. misplacing and looking for things</li> <li>4. using things</li> <li>5. talking about accidents</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>成績の基準はクラスでとれだけ積極的に参加するか、中間と期末試験（ドラマ作り）を元に付ける。</p>	

<b>【授業科目名】</b> 英語表現 I	<b>【担当者】</b> オーコーチ・リサ
<b>【開講期】</b> 1 年前期・1 年後期	
<b>【授業目標】</b>  To encourage students to express themselves actively through listening and drama skits.	
<b>【テキスト・参考書】</b>  Jack C. Richards <i>Listen Carefully</i> (Oxford English)	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>Classes will be focusing on Information-gap filling listening activities followed by role-playing skits based on the listening. All topics are on survival situations.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Airport</li> <li>2) Making reservations at hotels, restaurants.</li> <li>3) Ordering at restaurants.</li> <li>4) Checking time-tables of transportation services.</li> <li>5) At the Doctor.</li> <li>6) At a Store.</li> <li>7) Telephone situations.</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b>  2 drama tests in Summer and Winter. These will be video-taped and observed students.	

【授業科目名】 イギリス史

【担当者】 君塚 直隆

【開講期】 1年後期

【授業目標】 ビクトリア時代（1837～1901年）のイギリスの歴史を考察することを通じて、この国の現在を構築している、政治・経済・社会・文化の起源を理解する。これと同時に、経済大国としての地位を確立した日本が、将来的にどのような道程を辿ることになるのかを今や老大国となったイギリスの最盛期を振り返ることによって捉えるという問題意識をも養ってもらいたい。

【テキスト・参考書】

参考書：村岡健次・木畑洋一編『イギリス史3：近現代』、山川出版社、1991年。

### 授 業 計 画

伝統と革新の国イギリスは、かつて七つの海を支配した大英帝国と呼ばれていたが、今や老大国として欧州の一部を構成するに過ぎない。しかし、その国際的な発言力は、経済的には遥かに恵まれている日本と比べても格段に強いものであり、その文化も未だに人々の心を魅了してやまない。今年度はこの国の黄金時代とも言うべきビクトリア女王時代（1837～1901年）の政治史を概観することを通じて、イギリスの政治・経済・社会・文化の全貌を捉えていきたいと思えます。特に、女王に仕えた10人の首相たちの政治的生涯を通して、二大政党制、大衆民主政治の礎石を築いた貴族政治家達の真の姿にも迫っていききたいと考えています。講義内容は以下の通りです。

1. 導 入（17世紀以来のイギリス近代史の枠組みについて）
2. メルバーン子爵 ～女王の政治指南役～
3. サー・ロバート・ピール ～功利的な辣腕宰相～
4. ジョン・ラッセル卿 ～我儘な改革者～
5. アパディーン伯爵 ～穏健な仲介役～
6. ダービ伯爵 ～堂に入った無活動～
7. パーマストン子爵 ～パクス・ブリタニカの創成者～
8. ベンジャミン・ディズレーリ ～洒脱な女王の寵臣～
9. ウィリアム・グラッドストン ～孤高の老大人～
10. ローズベリ伯爵 ～億病な帝国主義者～
11. ソールズベリ侯爵 ～最後の貴族宰相～
12. ビクトリア時代とは何だったのか？

【評価方法】

学年末試験。

【授業科目名】 アメリカ史	【担当者】 佐藤 円
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>多人種・多民族が一つの社会を作り上げているアメリカ合衆国の抱える問題を理解するために必要な基礎知識を、それぞれの人種・民族がアメリカの歴史の中で経験してきたことから学ぶことによって身につける。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは使用しない。参考書は必要に応じて授業の中で紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>近年アメリカ合衆国では、黒人、ヒスパニック（スペイン語系）、アジア系などの人口が急速に増加しており、以前にも増して社会の多人種・多民族化が進行している。1990年に発表されたある人口推計によると、現在総人口のおよそ75%を占めている白人（ヒスパニックを除く）の比率は、21世紀の半ばを過ぎるころには、何と50%を下回ると予測されている。つまり、白人も黒人などと同様に、アメリカ社会におけるマイノリティ（少数派）の一つにすぎなくなるというのである。このような社会の大きな転換点にあたり、アメリカでは、人種間・民族間の対立が激化してきている。これまでのような、白人を中心とする社会のあり方に対し、他のマイノリティから疑問が呈され、厳しい批判が加えられるようになったのである。今後アメリカは、どのようにしてこの人種・民族対立という危機を乗り越えていくのであろうか。</p> <p>この問題を考える上で、アメリカが辿ってきた歴史を振り返ってみることは重要である。なぜなら、アメリカ社会は、植民の当初から現在に至るまで、人種や民族に起因する多くの問題の発生によって常に緊張を強いられ、その対策に追われ続けてきたからである。そこでこの授業では、アメリカの歴史をいくつかの時代に区切り、それぞれの時代に発生した人種・民族問題から特徴的なものを選び、それがどのような形で処理されていったのか、できる限り問題の当事者であった人種・民族の視点から解説を加えていこうと考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①筆記試験</p> <p>②授業時の感想文など（不定期）</p>	

【授業科目名】 日本美術史	【担当者】 山田磯夫
【開講期】 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 飛鳥時代以降の日本美術の歴史を通観する。各時代ごとの美術史上の特徴について考察し、様式観や年代観を把握することを目的とする。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 参考書：辻惟雄監修「カラー版 日本美術史」美術出版社	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>日本の美術は、室町時代まで中国・朝鮮半島から伝えられた仏教美術を母胎に形制・発展してゆくが、平安時代の半ば頃から徐々に和様化が進み、仏教から離れた作品も多く制作されるようになる。本講座では古代から中世に至る仏教美術を中心に取り上げ、時代様式の流れの理解につとめる。また和様化する日本美術の独自性にも言及したい。スライド使用。</p> <p>以下のテーマに沿って進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① はじめに一時代区分と仏像の見方</li> <li>② 飛鳥・白鳳時代の美術Ⅰ—法隆寺の彫刻</li> <li>③ 飛鳥・白鳳時代の美術Ⅱ—法隆寺の絵画</li> <li>④ 飛鳥・白鳳時代の美術Ⅲ—旧山田寺の仏頭</li> <li>⑤ 奈良時代の美術Ⅰ—薬師寺の彫刻</li> <li>⑥ 奈良時代の美術Ⅱ—東大寺の創建</li> <li>⑦ 奈良時代の美術Ⅲ—正倉院の絵画</li> <li>⑧ 平安時代の美術Ⅰ—密教美術</li> <li>⑨ 平安時代の美術Ⅱ—仏画</li> <li>⑩ 平安時代の美術Ⅲ—木彫像の展開</li> <li>⑪ 平安時代の美術Ⅳ—やまと絵</li> <li>⑫ 鎌倉時代の美術Ⅰ—慶派の彫刻</li> <li>⑬ 鎌倉時代の美術Ⅱ—絵巻物</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 筆記試験	



【授業科目名】 言語学	【担当者】 村上 まどか
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「言語とは何か」に始まり、意味論、統語論、形態論、社会言語学などの諸分野まで、ひと通り言語学を概観します。随時、練習問題を解くことによって、言語学を自分のものにするのが目標です。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト： Fromkin &amp; Rodman 著、成田一・編註、<i>Language as Human Essence</i>（三修社、1300円）  参考書： Fromkin &amp; Rodman, <i>An Introduction to Language</i>, 5th ed., Harcourt Brace Jovanovich.</p>	
授 業 計 画	
<p>子どもを生み育てると、数年後その子が必ず用いるようになる言語とは何でしょう。そして、仔犬を赤ん坊同様にかわいがって何年育てても、犬は決して使えるようにならない言語とは、一体何でしょうか。本講義は、そのような言語の謎について、以下の項目にしたがって授業をすすめます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 言語とは何か</li> <li>(2) 意味特性</li> <li>(3) 多義性</li> <li>(4) 陰喩と詩</li> <li>(5) 意味変化</li> <li>(6) 文体</li> <li>(7) 話し言葉と書き言葉</li> <li>(8) 言語行為と語用論</li> <li>(9) 方言の諸相</li> <li>(10) 言語と性差別</li> <li>(11) 新語形成</li> <li>(12) 子どもの言語習得</li> <li>(13) 動物の言語習得</li> </ol> <p>テキストは英文ですが、授業は英文講読ではありません。テキストは大意をおさえながら、関連のある話をします。観察の対象となる言語は、英語、日本語、そして何語がとび出すかわかりません。言語学者は自分の話せない言語でも、さらには、この世に存在しない架空の言語まで分析できてしまうのですから。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業時の練習問題、冬休み練習問題、および筆記試験（自筆ノート持ち込み可）。</p>	

【授業科目名】 民俗学	【担当者】 小林 梅次
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>伝承資料の性格・特色と民俗学の方法論を理解させ、民俗学の観点から身近かな生活面に照明を当て、内省の学としての意義を認識させたい。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>牧田 茂著「日本人の一生」講談社学術文庫 大島 暁雄他「図説民俗探訪事典」山川出版社</p>	
授 業 計 画	
<p>————— 女性の民俗を中心に —————</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究法 伝承資料の特性と調査 文献等資料の特異性</li> <li>2. 主婦権と女性の地位 祭司権の変遷 近代化と男・女の役割</li> <li>3. 日本の神 来訪神と斎場</li> <li>4. 民俗行事と女の役割 産育・婚姻・葬制</li> <li>5. 衣・食・住 映像資料と民俗の知恵</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートによる</p>	

【授業科目名】 情報処理概論	【担当者】 宮武 直樹
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】 情報科学やコンピュータに関する知識および情報システムについての素養を身につけることを目標とする。</p> <p>具体的には、講義と演習を2：1の割合で行う予定である。</p> <p>講義は、情報科学に関する基礎知識、コンピュータの概要、情報社会とコミュニケーション、人工知能とシステム工学などについて、実例をあげながら解説する。演習では、実際にコンピュータに触れることで、情報科学をより一層理解してもらう。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは使用しない。(必要に応じてプリントを配布する。)</p> <p>授業で指示する</p>	
授 業 計 画	
<p>おおよそ以下の項目にそって進める。(1項目当たり5時間を予定)</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <p>(1) 情報科学の生い立ちと情報科学とは何かについて学び、情報の尺度であるエントロピーについても話したい。</p> <p>また、人間は、数字や文字により情報を表現するが、コンピュータでは2進数が用いられていることや、論理回路と符号化についても触れたい。</p> <p>(2) この演習では、一太郎というソフトを使って、日本語の文書作成を行う。とにかく、コンピュータを駆使しレポートの作成ができるようにしたい。</p> <p>(3) コンピュータには、ハードウェアとソフトウェアがあること。ハードではコンピュータの歴史や構造について、ソフトでは計算手順を示すプログラム、アルゴリズムやコンピュータ言語について学習する。</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>(4) 演習を行う。アシストカルクというソフトを用いて、表計算・グラフ・データベースなどの作成を、住所や図書管理など身近な実例を取り上げながら学習したい。</p> <p>(5) 人工知能の現状と情報化社会におけるコンピュータの応用について解説する。ここでは、電子メールやマルチメディアについても触れる予定である。</p> <p>(6) 近年、著しく関心を集めている知識情報処理に関して、ファジィ理論が話題になっている。これは人間のあいまいさを理論的に取り扱えるので興味深いものである。ここでは、応用事例あげながら解説したい。</p>	
<p>【評価方法】 ①レポート(前期)及び筆記試験(後期)</p> <p>②授業時の課題(演習)</p>	

【授業科目名】 教養演習I	【担当者】 東喜望
【開講期】 1年前期・1年後期	
【授業目標】	<p>○海洋文化圏の説話</p> <p>大陸から見れば、日本はその対岸に浮かぶ島嶼群にすぎない。日本のよく知られている伝説話でも、その淵源をたどると広くアジアの各地に及んでいるものがある。そんな神話・伝説・昔話をとりあげ、歴史には記されなかった民族のルーツや文化の伝播についても考察を深めていきたい。手初めに下記をとりあげる。</p>
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールは、おおよそ以下によって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題の設定（浦島説話・桃太郎説話・徐福伝説・炭焼長者など）</li> <li>2. 課題の分担</li> <li>3. 文献・映像資料の収集</li> <li>4. 資料の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品・古文書は、輪読する。</li> </ul> </li> <li>5. 各課題ごとに報告し、討論する。</li> <li>6. フィールドワーク（省略する場合もある）</li> <li>7. 研究成果のまとめ</li> </ol>	
【評価方法】 平常のゼミ活動（発表など）とレポート、またはゼミ試験。	

【授業科目名】 教養演習I	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年前期・1年後期	
【授業目標】 【日本近代文学を読む】 文学作品を素直に読み、 <u>自分内部にわき出るイメージ</u> を鮮明につかみ、このイメージに <u>じっくりと向き合うこと</u> 。これが、文学研究の基礎だ。一年次は、「読む」ことの魅力に接し、「読む力」を強める事をめざす。諸君が、「好きで好きでたまらない」作家・作品にめぐりあうことを望みたい。	
【テキスト・参考書】  教科書は用いない。最低、年間五十作品程度は読むことをめざしてほしい。	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文学は芸術であり、芸術は何かのための手段ナドである前に、それ自体の「世界」（<u>広大無辺のイメージ世界</u>）をもっている。文学研究にとって何よりも大切なことは、この「<u>イメージ・想像の世界</u>」が好きであること、次にイメージをつかむ能力（感受性、イメージ力、アンテナ）を、徐々に鍛えることだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ところで「イメージをつかむ能力」は、自ら訓練すれば、必ず（<u>絶対に必ず</u>）誰でも、鍛えられるものだ。「読む」こと自体によって、「読む」鋭さは驚くほど発達する。そして、この事は、（少し慣れれば）面白くてたまらないはずだ。「文学」はもともと、「面白い」からこそ存続してきたのだから。</li> </ul> </li> <li>○ そのためには、先ず「量」なのだ。この「量」が土台になって、「読む」鋭さが増し、「イメージ世界」の魅力も一段と増す。……で、栗田ゼミに入る諸君は、<u>最低、年間五十作品ほど</u>をめざし、文学作品を「読みまくる」ことになる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題とする作品は、（基準となるリストは配布するが）一定の枠内で自由。日本近代文学を中心とするが、一年次の内は（希望があれば）外国文学も可。</li> </ul> </li> <li>○ ゼミでは、諸君は順番に、読んだ作品に関する発表をすることになる。最初の内はとまどうだろうが、自らつかんだイメージを言葉にすること、また、他の学生の、自分とは全く違う「読み」を知ることは、大切な刺激となるだろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期の内は、僕が、諸君の発表をフォローする。後期は、一方では全員で同じ作品を読み、討論を軸とする本格的なゼミナールを開始するとともに、他方では、二年次の「卒業レポート」を視野に入れての個別指導を始める予定である。</li> <li>・ 年間何回か、レポートを書いて、自らの思考をまとめる訓練もする。</li> </ul> </li> </ul>	
【評価方法】  平常点。特に「読もう」とする積極性を重視する。随時のレポートも加味する。	

【授業科目名】 教養演習 I

【担当者】 鈴木 泰恵

【開講期】 1年前期・1年後期

【授業目標】

日本古典文学の代表的な作品のひとつである『源氏物語』について、基礎的な事項を学ぶとともに、読解の基礎を身につけることを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：授業時に配布する。  
参考書：その都度、指示する。

授 業 計 画

前期

『源氏物語』の全体像を把握した後、とくに第1部の物語について、深く学んでいく。最初の2〜3回は講義による『源氏物語』についての概説する。その後、第1部の各巻について、各自の興味に従った発表を組み入れながら、『源氏物語』第1部についての理解を深めていく。

後期

『源氏物語』第1部の転回点ともいえる賢木巻を丁寧に読み解きながら、読解の基礎を身につけていく。具体的には、~~毎回~~ 教員2名を各自が担当し、毎回2名ずつぐらいに発表を行ってもらい、各自、担当部分の内容を把握し、問題点を抽出した後、自己の見解を発表してもらう。そのうえで、クラス全体でそれについて話し合いという形を組み入れ、できるところ主体的に読んでいくようにする。その際、各自の興味に応じてアドバイスを行い、参考文献等を紹介していく。

【評価方法】

レポート、毎回の発表および質疑応答等を総合的に評価する。

<b>【授業科目名】</b> 教養演習I 「忠臣蔵研究」 /	<b>【担当者】</b> 高橋秀雄
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b> 歌舞伎の代表的作品に「仮名手本忠臣蔵」があるが、この題材となった仇討事件は、江戸時代の封建社会の実情を知る好例の資料であり、また江戸の文化を探求する材料としても貴重なものといえる。「忠臣蔵研究」を通じて江戸の政治・文化などの特色を理解させる。	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキスト：浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」、歌舞伎台本「仮名手本忠臣蔵」 参考書：丸谷才一「忠臣蔵とは何か」ほか。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」を輪読するとともに、それぞれに意見をだし合って論じ、また、歌舞伎台本「仮名手本忠臣蔵」を比較させて討論し、さらにそれぞれ興味あるテーマを「選んて」としての研究成果を披露する。このことにより、江戸時代の芸能文化の認識を深めさせることに加え、この作品の背景にある江戸時代の政治、経済、風俗、あるいは封建社会のあり方などを探索し、江戸時代の歴史を総合的に把握できるように努める。</p>	
<b>【評価方法】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各期末のレポート</li> <li>2. 演習時の小レポート</li> <li>3. 演習時の平常点</li> </ol>	} 左記の項による総合評価

<b>【授業科目名】</b> 教養演習I「英米児童文学を読む」	<b>【担当者】</b> 田中安行
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b> 英米の児童文学には楽しく明るい中に考えさせられる傑作が多い。家族や友だち、愛や人間の生きる意味や、社会、自然、環境など様々な問題が純粋な形で取りあげられている。英米児童文学の歴史も学びながら各自で原作を選んでそれぞれの作品の楽しさや意義について研究していく。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 定松正「英米児童文学の系譜」こびあん書房 小原信「ファンタジーの発想—一心で読む5つの物語」新潮社 リアン・スミス「児童文学論」岩波書店	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期は英文で作品を読みながら「子ども観」とは何かを考える。</li> <li>2. 後期は英米児童文学の歴史を研究して代表的な作品を調べていく。</li> <li>3. 上記の過程で各自の研究対象となる作品を選び、原文を読み始める。</li> <li>4. 原文の読みはきめ細かく行い、自分の感性と理解力によって問題点を発見していく。</li> <li>5. 各自が発見した問題点を出し合って討論しながら、さまざまな角度から問題を深く追求していく。</li> <li>6. 2年生の卒業レポートへの準備としてノートテイキングの方法や参考文献の調べ方などにも慣れる。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）</li> <li>2. レポート（読みの深さ、推測・洞察力、想像力、創造性、自己表現力）</li> </ol>	



<b>【授業科目名】</b> 教養演習I	<b>【担当者】</b> 富永静枝
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b> 激動する現代社会にあって、女性を取り巻く社会状況や問題状況を正しく認識し、それらの問題を将来における自らの問題としてとらえ、問題解決への意欲をもてるようにしたい。	
テキスト：布施晶子著『結婚と家族』岩波書店 参考書： 雑誌『女性情報』教養科資料室および図書館に有ります。他の参考書は順次紹介します。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>現代女性論ゼミ(1)</p> <p>いま女性のライフサイクルは大きく変化し、女性の生き方も多様化しています。しかし、学校や家庭で男女差別を受けることの少なかった女子学生達も、一旦社会にでると様相は大きく変わって来ます。職場での男女差別は依然として存在するし、家族との関係によっても女性の生き方は大きく左右されます。女性が主体的に自己実現をはかりながら、自立して生きるにはどうすればよいのか・・・、女性としての望ましい生き方を模索するために、女性をめぐる社会状況の変化を正しく把握するとともに、各ライフステージごとにどのような問題があるのか、また家族や家庭のあり方や社会システムについて、日本だけではなく諸外国との比較も試みながら、21世紀に生きる男女のあり方や、望ましい社会システムについて考えていきます。</p> <p>1年間のスケジュールは以下のように考えていますが、ゼミ員の興味や関心によって、相談しながら若干の変更を行うこともあります。</p> <p>年間スケジュール</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、当初2~3回は個人又はグループに別れて、女性をめぐる最近どのような問題があるのかを雑誌『女性情報』を中心に調査を進めます。</li> <li>2、ついでそれらの調査結果をもとに、ライフスタイル、女性と労働、家族・家庭、女性と社会保障、女子教育、男女平等をめぐる諸外国の動きなどにわけて、各人が最も関心を寄せた問題をとりあげ報告しあい、討論を重ねながら、女性問題の所在を明らかにします。</li> <li>3、後期からは布施晶子著『結婚と家族』をテキストに学習を進めます。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 通常のゼミにおける発表内容およびレポート。	

<b>【授業科目名】</b> 教養演習 I	<b>【担当者】</b> 中島好伸
<b>【開講期】</b> 1 年前期・1 年後期	
<b>【授業目標】</b> アメリカの代表的な短篇小説を英語で読み、英語読解力を高めながら、アメリカ文学の流れを体系的に学ぶ。	
<b>【テキスト・参考書】</b> <u>The Penguin Book of American Short Stories</u> (Penguin) (テキストはこちらで用意してあります)	
授 業 計 画	
<p>アメリカ文学研究 I</p> <p>最初は翻訳を使って小説の枠組みや語りの構造などを明らかにしながら、小説の読み方から学びます。小説を読むときどんな点に留意したらよいかを一定程度おさえた後で、具体的に下記のような短篇小説を取り上げ、作品の世界を細かく分析して行きます。だいたい3時間くらいで一つの短篇小説を読破し、読み終わった時点でレポートを書いてもらい、その合評会も行います。これによって、レポートの書き方を学び、二年次の卒業レポートに備えます。</p> <p>また、後期からは、以上の点に加えて専門作家システムも導入します。好きな作家を一人取り上げ、「この作家については何でも知っている」と言えるくらいに独自に勉強してもらい、その勉強の成果をゼミの討論に生かしてもらいます。</p> <p>一年終了時に、一年の成果を共有すべく合宿も行う予定です。</p> <p>取り上げる予定の作品</p> <p>Washington Irving "The Legend of Sleepy Hollow"</p> <p>Nathaniel Hawthorne "Young Goodman Brown"</p> <p>Edgar Allan Poe "The Fall of the House of Usher"</p> <p>Herman Melville "Bartleby"</p> <p>Sherwood Anderson "Death in the Wood"</p> <p>F. Scott Fitzgerald "The Rich Boy"</p> <p>他</p>	
<b>【評価方法】</b> 授業時のレポートに出席点を加味して評価します。	

【授業科目名】 教養演習 I 「日本女性史」	【担当者】 西村 汎子
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本女性史をテーマとする演習であるが、1年の前期は女性史研究の前提として、現代の女性問題ないし家族の問題を研究する事とする。それによって、漠然と女性史に向かうのではなく、問題意識を持って学ぶようにしたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：『無敵なOLになる法』（岩波ブックレット）  参考書：『婦人労働の実情』（労働省婦人青少年局）ほか。</p>	
授 業 計 画	
<p>戦後、女性の地位はいちじるしく向上したが、不況になればたちまち女子学生の就職が困難になるように、女性はその能力を活かして働くのは容易ではない。さらに結婚し子供を育てつつ働くのはなおのこと容易ではない。男女が協力し合って働き、健全な家庭を築いていく上で、現在、どんな問題があるのか、どんな解決法が考えられるのかを模索したい。</p> <p>テキストを手がかりにしながら、問題点を出し合い、それぞれが問題を分担して調査報告を行い、それについて討論し合う方法で授業を進めていく。学生たちの反応によって異なるが、たとえば次のようなことについて話し合っていくことになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 恋愛と結婚・離婚</li> <li>2) 女性の職業について</li> <li>3) 賃金と労働条件</li> <li>4) 男女雇用機会均等法について</li> <li>5) 働くことと子育てとの両立</li> <li>6) 老後の問題　その他。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と、期末のレポートによって評価する。</p>	

【授業科目名】 教養演習Ⅰ「日本女性史」	【担当者】 中込 律子
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】 ① 概説書（専門的研究に基づきもの）を読ませることにより、歴史的思考を身につけさせる。</p> <p>② 過去の女性の社会における位置・役割などのありようについて、基礎的知識を身につけると同時に、現代を相対視する視点を持ち、自分たち現代の女性についての認識も深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『日本女性の歴史』性・愛・家族（総合女性史研究会編、1992年、角川選書）</p>	
授 業 計 画	
<p>各論文について毎週2人程度のレポーターを定めて報告させる。各報告は、正確な理解を第一義とし、その上で各人の同様な問題についての所見とともに問題点を提出させ、ゼミ全員で討論する。</p>	
<p>【評価方法】 授業における報告、発言などの態度と期末のレポートを評価の材料とする。評価にあたってはレポートを重視する。基準としては、自分の力で判断し記述（または発言）する能力、特に独善や偏見に基づかない洞察力、真摯な判断にのとづくオリジナリティーある記述（発言）に高い評価を与える。</p>	

<b>【授業科目名】</b> 教養演習Ⅰ [日本近現代史 Ⅰ]	<b>【担当者】</b> 平賀 明彦
<b>【開講期】</b> 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b>  日本近現代史についての基本的な文献を輪読することにより、この時期についてのそれぞれのイメージを豊富化することをめざしていきたい。	
<b>【テキスト・参考書】</b>  テキスト：ゼミの構成メンバーが確定した後、皆で相談して決める。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>次のような形式で輪読を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何冊かの基本的な文献を皆が分担し、報告と討論を重ねながら読み進んでいく。</li> <li>・ゼミ構成員は必ず何度か報告者としてレジュメをつくり報告をする。</li> <li>・報告者になった場合は、分担部分について、参考文献等に当たり、さらに細かく調べ、報告に盛り込むとともに、質問に答えられるように準備する</li> </ul>	
<b>【評価方法】</b>  報告の内容等により評価する	



教 職 科 目





【授業科目名】 教育原理 (教養科)	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>生涯学習社会としての今日における教育の在り方について考えさせ、そのような視点から教育の目的、内容、方法、制度にわたり、その原理を理解させることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：大浦 猛編『教育原理』（山文社）</p> <p>参考書：稲垣忠彦『戦後教育を考える』（岩波新書）</p> <p>その他随時紹介</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>わが国の教育の現状の検討と改革の方向についての考察を通し、教育の将来について学生が自分なりのしっかりとした視点をもって考える力を養いたいと願う。</p> <p>講義の主な内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 「教育」の本来の意義・役割を考え、近代を中心として教育思想とその実践について話す。</li> <li>II. 日本の教育の歴史（主として明治以降）、ことに第2次世界大戦後の歴史を概説し、教育基本法の成立とその思想を説明する。</li> <li>III. 学校教育法、同施行規則等および学習指導要領をとり上げ、わが国の学校教育を規定する法令上の枠組みを理解させる。</li> <li>IV. 学校の教育活動について教育課程および学習指導と生活指導について話し、教師の働きと課題を考える。</li> <li>V. 教育の場として学校教育と対比して家庭教育と社会教育の特徴を論じる。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 学期末の筆記試験      ② レポート提出</p>	

【授業科目名】 教育心理	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 教職のための教育心理学概説。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 未定：後日連絡	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学と教育心理学</li> <li>2. 発達をめぐる問題</li> <li>3. 教育評価</li> <li>4. 学習をめぐる課題</li> <li>5. 授業過程の心理</li> <li>6. 教授法</li> <li>7. 性格形成</li> <li>8. 教育相談</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 平常点，レポート	

【授業科目名】 道徳教育の研究	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>道徳とは何かを考え、道徳を教えるとは何をめざすのかを学ぶ。今日の学校における道徳教育の意味とあり方、そしてそれを実施する教育計画の実際についての理解を与えることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：大浦 猛編『望ましい性格の形成』（教職教養 教育学Ⅳ 山文社） 文部省『中学校指導書 道徳編』（大蔵省印刷局）</p> <p>参考書：藤田昌士『道徳教育－その歴史・現状・課題－』（エイデル研究所）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>学生がこれまで受けてきた家庭や学校における道徳教育の経験について感想や意見をきき、日常的に出会う道徳的葛藤などについても話し合いながら授業をすすめたい。</p> <p>主な学習内容を大別すると次の通り。</p> <p>I. 道徳を教える、学ぶということを教科の学習の場合と比較して、その特性を明らかにする。「道徳」とは何かを論じ、道徳的主体性を養うことが教育の目標であることを説く。</p> <p>II. 子どもの道徳性の育ちの視点から今日の特徴を考え、無道徳から他律、そして自律へとすすむ子どもの道徳性の発達の姿を示す。</p> <p>III. 学習指導要領により小・中学校における「道徳」の目標と内容を話し、これを実施するための学校における道徳教育の全体計画、「道徳」の時間の年間指導計画、そして「道徳」の時間の指導案の書き方と評価までを実例によって説明する。</p> <p>IV. 教科の授業、特別活動、生徒指導など学校における他の教育活動と道徳教育との関連を明らかにする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 学期末に筆記試験      ② レポートの提出      ③ 授業への出席と参加</p>	

【授業科目名】 特別活動の研究	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年後期	
<b>【授業目標】</b> <p>教育課程の中における特別活動の位置と、子どもたちの自主的、体験的活動としての特別活動が今日の教育においてもつ意義、およびその計画的実施について学習することを目標とする。</p>	
<b>【テキスト・参考書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大浦 猛編『望ましい性格の形成』（教職教養、教育学Ⅳ）山文社</li> <li>• 文部省『中学校指導書 特別活動編』（大蔵省印刷局）</li> </ul>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>主な学習内容を大別すると次の通り。</p> <p>I. 特別活動（教科外活動）の歴史、および特別活動の特質と目的</p> <p>II. 現行の学習指導要領における特別活動の諸分野〔学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事〕とそれぞれの活動の特質、内容と指導上の留意事項</p> <p>III. 特別活動実施の指導計画と評価</p> <p>IV. 特別活動と学校における他の教育活動（各教科、道徳等）との関連</p>	
<b>【評価方法】</b> <p>① 学期末に筆記試験      ② 授業への出席と参加</p>	

【授業科目名】 生徒指導の研究	【担当者】 小貫 栄
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>主として中学校における生徒指導の意義を知るとともに、その問題点をさぐる。さらにその対策を考察し、中学校教師としての取り組みを探求する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト ①「生徒指導の手引き」(文部省) ----- これを主とする。          ②学習指導要領(中学校編) ----- 文部省          ③望ましい性格の形成(山文社)</p>	
授 業 計 画	
<p>〈序章〉教育・学校教育・中学校教育についての概観</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教育制度の変遷と現在の中学校の位置</li> <li>②中学校における教育課程と生徒指導とのかかわり (付「学習指導要領」の意義について)</li> <li>③生徒指導の意義と課題</li> <li>④青年期の心理と生徒指導</li> <li>⑤生徒理解について</li> <li>⑥教科・道徳・特別活動 —— との関連について</li> <li>⑦教育相談について</li> <li>⑧進路指導について</li> </ol> <p>〈終章〉よき教師像を求めて —— (特に中学教師として)</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>「レポート」に平常点を加味する。</p>	

【授業科目名】 国語科教育法	【担当者】 丸尾 寿郎
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】          国語科教育とはなにか。その本質と実際について研究し、中学校での学習指導や具体的な方法をさまざまに研究し、創造的で実践的な指導の力量を身につけることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】          テキスト ----- 「中学校国語」教科書を使用する。          参考書 ----- 適宜、必要に応じて指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>国語を教えるということは、国語の教科書教材（詩や文章など）を教えることと同じなのか、ちがうのか。そうしたことから、国語教育の本質と内容を研究し、現在の国語教育の問題点を検討整理してみる。そのうえに立って、「学習指導要領」を読んだり、中学校教科書の教材のいくつかを取り上げ、学習指導の理論と方法を研究する。教材の分析、解釈をはじめとして学習指導案づくりの研究など、具体的な指導方法への展開をはかり、中学校での国語教育の実践的な力量（わかるように教える）を身につけるようにする。</p> <p>中学生はどんな先生を求めているか。学習について生徒が本当に求めているもの — 学びたい、知りたい、わかりたい、できるようになりたいという切実な要求 — に誠実に応える教師になる努力をするために、相互に発表し合ったり、指導案を検討し合ったりして、生徒理解とともに実際に役立つ教育方法を追求していきたい。</p>	
<p>【評価方法】          レポートと平常点</p>	

【授業科目名】 教育実習	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年前期・1年後期	
【授業目標】 二年次になって実際に中学校に行き、(狭義の)「教育実習」をするための準備的な科目が、この一年次の(学内における)「教育実習」という科目である。実り豊かな中学校での実習のために必要な、学習と訓練をめざしている。	
【テキスト・参考書】  教科書は使用しない。必要に応じて、プリントを配布する。	
授 業 計 画	
<p>孔子・孟子の昔から、「教室」という「場」は、教師と生徒が作り出す生き物のような空間だったのだろう。この「場」は、日常性の中にありつつも、それを相対化する特殊な緊張を伴っている。時代状況がどう変化しようと、この本質は変わるまい。</p> <p>中学校での教職をめざす諸君が、この「躍動する空間」を実際に体験し、その重みと魅力の中で、「教育」の一つの本質を学びとる貴重な機会が「教育実習」だが、本年度は、その準備として、次のような学習をすることになる。</p> <p>① 「教育実習」に関する認識を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小ゼミ(「教育実習」の意義と役割)</li> <li>・「授業」というものの研究 (過去の実習生の研究授業ビデオを用いた検討を含む)</li> <li>・「授業以外の要素」の研究 (過去の実習記録等を用いた検討を含む)</li> </ul> <p>② 模擬「授業」実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教室」という生きた「場」を作り出すことの、困難さと魅力に、少しでも接近して行きたい。</li> </ul>	
【評価方法】	





# 博物館科目



【授業科目名】 博物館学	【担当者】 柘植 信行
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>博物館は、私たちの生活や地域の文化にどのような関わりをもっているのでしょうか。まず私たちのまわりある地域博物館に親しむことから出発して、博物館の基礎知識を学びます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：伊藤寿朗著『市民のなかの博物館』（吉川弘文館） 講義に必要な関連資料は、適時配付します。</p>	
授 業 計 画	
<p>近年の博物館ブームのなかで、各地に地域博物館、美術館、水族館などの開設が相次いでいます。生涯学習の展開という点からも、博物館の重要性が高まっています。ますます多様化する現在の博物館の現状を学ぶことから、博物館の歴史や理念、その仕事や学芸員の役割などについて考えていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活のなかに博物館を！ まず博物館への理解を深め、博物館に親しみましょう。</li> <li>・生涯学習の拠点としての博物館の可能性を追求しよう。</li> <li>・主に地域博物館、歴史系博物館を中心に講義を進めます。</li> </ul> <p>オリエンテーション—博物館とはなにか— 博物館の種類と分類 博物館いろいろ—美術館・水族館・動物園……— 地域博物館の現在 生涯学習と博物館の課題 博物館の法律 博物館を運営する。 博物館をつくる—構想から開館まで— 展示とはなにか—常設展と特別展— 博物館事業—研究・教育活動— 博物館とボランティア 博物館資料について。 レプリカの活用—意義と作成方法— 博物館と学芸員—学芸員資格とその仕事— 文化財保護・遺跡保存と博物館 野外博物館・遺跡庭園・エコミュージアム 平和・人権と博物館 (以上、主なテーマを列記しましたが、講義では前後する場合があります。)</p>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①レポート</li> <li>②博物館見学発表と感想文</li> </ul>	

【授業科目名】 教育原理 (教養科)	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年前期	
<b>【授業目標】</b> 生涯学習社会としての今日における教育の在り方について考えさせ、そのような視点から教育の目的、内容、方法、制度にわたり、その原理を理解させることを目標とする。	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキスト：大浦 猛編『教育原理』（山文社） 参考書：稲垣忠彦『戦後教育を考える』（岩波新書） その他随時紹介	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>わが国の教育の現状の検討と改革の方向についての考察を通し、教育の将来について学生が自分なりのしっかりとした視点をもって考える力を養いたいと願う。</p> <p>講義の主な内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 「教育」の本来の意義・役割を考え、近代を中心として教育思想とその実践について話す。</li> <li>II. 日本の教育の歴史（主として明治以降）、ことに第2次世界大戦後の歴史を概説し、教育基本法の成立とその思想を説明する。</li> <li>III. 学校教育法、同施行規則等および学習指導要領をとり上げ、わが国の学校教育を規定する法令上の枠組みを理解させる。</li> <li>IV. 学校の教育活動について教育課程および学習指導と生活指導について話し、教師の働きと課題を考える。</li> <li>V. 教育の場として学校教育と対比して家庭教育と社会教育の特徴を論じる。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> ① 学期末の筆記試験      ② レポート提出	

【授業科目名】 社会教育概論	【担当者】 藤田 博
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会教育とは何か、生涯教育の構想との関係で、その本質を明らかにする。 とくに、日本の社会教育が、どのような歴史をたどってきたかに重点をおきながら、 社会教育の現状と課題を学習する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 使用しない。</p> <p>参考書 二宮徳馬著「社会教育」国土社、その他教室において指示する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会教育とは何か いろいろな考え方のあることを通して、社会教育のあり方を考える。</li> <li>2. 社会教育行政のあゆみ 日本の社会教育の特徴と、国民の学習運動の流れを把握する。</li> <li>3. 社会教育施設の概要 公民館、図書館、博物館を中心に現状と課題を明らかにする。</li> <li>4. 生涯教育、生涯学習政策の現状 おとらの学習の方法・内容の現状と課題を理解する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦レポート</li> <li>◦課題図書感想文の提出。</li> </ul>	

【授業科目名】 視聴覚教育	【担当者】 南 利明
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 博物館の展示、社会教育活動と関連させ「視聴覚教育」を考察する	
【テキスト・参考書】 なし	
授 業 計 画	
<p>博物館学関係ではとくに對解を視聴覚教育についての理解を容易にするために、ビデオを多用、博物館学をもとに入れ、授業を行う。</p> <p>内容は下記のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視聴覚教育史 <ul style="list-style-type: none"> <li>○2次大戦中の米國における発達とその後の海外への普及を中心とする。</li> </ul> </li> <li>2. 視聴覚教材 <ul style="list-style-type: none"> <li>○化学系と電気系を中心とする。</li> <li>○化学系……写真、映画。</li> <li>○電気系……ラジオ、テレビ、ビデオ、ハイビジョンなど。</li> </ul> </li> <li>3. このほか博物館におけるビデオ展示、カタログ・フレットの最新傾向などについてもふれる。</li> </ol>	
【評価方法】 レポート	

【授業科目名】 博物館実習	【担当者】 上野 光子・高橋 秀雄
【開講期】 1年前期・1年後期 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>学芸員として実際の場に臨む場合に必要な心構えと、基礎となる知識・技術の修得を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない。</p> <p>参考書：全国大学博物館学講座協議会関西部会『博物館学概説』ほか。</p>	
授 業 計 画	
<p>広範に渡る学芸員の仕事の中から人文科学系にしぼり、下記の項目にそって、項目により時間数は異なるが、ほぼ講義1実習3の割合で進めていく。見学によりなるべく多くの実例を学び、同時に作品に接する際の気構えやマナーも重視する。2年次には集大成として館務実習を行います。</p> <p>1年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) オリエンテーション：年間授業計画、博物館法</li> <li>(2) 学芸員の仕事と現状、実習と図書、博物館の広報活動</li> <li>(3) 東京国立博物館等の見学：2回、事前事後講義、レポート提出</li> <li>(4) カタログ、作品解説</li> <li>(5) レプリカ作成</li> <li>(6) 拓本：タンポ・墨作り、屋外拓本</li> <li>(7) 裏打：くいざき、作図方法</li> <li>(8) 美術工芸品の扱い方：掛軸、卷子、折本、冊子、屏風、面、金工品、漆芸品、陶磁器、彫刻、茶道具等</li> <li>(9) 梱包</li> <li>(10) 展示環境：劣化と保存科学</li> <li>(11) 展示の施設と方法</li> <li>(12) 写真の基礎知識</li> </ul> <p>2年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 博物館見学：4個所、事前事後講義、レポート提出</li> <li>(2) 館務実習：1～2週間程度、事前事後講義、レポート提出</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>(1)レポート、(2)作品、(3)平常点、(4)出席数、(5)館務実習評価、の総合点。</p>	





司 書 科 目



【授業科目名】 図書館通論	【担当者】 金中 利和
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>図書館は、図書、記録、その他必要な資料を収集、整理、保存して、奉仕対象者の利用に供し、その調査研究、教養、レクリエーションなどに資することを目的とする施設である。この授業では、図書館学課程の諸科目の基礎となる図書館の本質的な機能、活動を明らかにする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>高山正也 [ほか] 図書館概論 雄山閣 1992</p>	
授 業 計 画	
第1週	図書館の意義と機能
第2～4週	<p>図書館の歴史と現況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国立図書館</li> <li>2 公共図書館</li> <li>3 大学図書館</li> <li>4 学校図書館</li> <li>5 専門図書館</li> <li>6 類縁機関</li> </ol>
第5～10週	<p>図書館の管理と運営</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 図書館政策・行政・法令</li> <li>2 図書館の経営</li> <li>3 図書館サービス</li> <li>4 図書館資料</li> <li>5 資料の組織化</li> <li>6 図書館員</li> <li>7 施設</li> </ol>
第11週	図書館協力とネットワーク
第12週	図書館の自由
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席状況、レポート、テストによって総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 図書館資料論	【担当者】 金中 利和
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】          図書館サービスの成否は、図書館資料（図書およびその他の資料）構成の良否に深く関わる。          この授業では、印刷資料（図書、新聞、雑誌など）、マイクロ資料、視聴覚資料（レコード、録音テープ、ビデオテープなど）、ニューメディア（CD-ROM、磁気テープなど）等、多様な図書館資料についてその特性を明らかにするとともに、資料構成の理論と方法について論じる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>図書館ハンドブック 第5版 日本図書館協会 1990          図書館情報学ハンドブック 丸善 1988</p>	
授 業 計 画	
<p>第1, 2週</p> <p>第3, 4週</p> <p>第5～8週</p> <p>第9, 10週</p> <p>第11, 12週</p>	<p>図書館資料の概念          1 図書館資料の意義          2 図書館資料の種類と特性</p> <p>出版流通機構          1 商業出版と非商業出版          2 資料の流通</p> <p>図書館資料構成の理論と方法          1 資料構成の原則          2 資料の収集方針          3 文献調査と出版情報          4 資料の評価と選択          5 資料収集と図書館協力          6 資料の収集、受入、除籍</p> <p>知的自由と資料構成          1 資料構成の中立性          2 知的財産権、特に著作権</p> <p>非図書資料と図書館資料の将来          1 逐次刊行物、視聴覚資料、ニューメディア          2 資料のメディア変換</p>
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席状況、レポート、テストによって総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 資料分類法・資料分類法演習	【担当者】 椎葉 徹子
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>図書館では、本を主題（テーマ）別に分類して、利用者に提供している。まず、その分類法を学ぶ。次いで、「コトバ」で資料を探せる件名法を学ぶ。この探索技術を駆使して、レポートや発表の際に必要な本や文献を探せるようにしたい。</p>	
<p>【テキスト・参考テキスト】：木原通夫ほか著「資料組織法 第Ⅱ版 補訂版（1995年刊行）」及び木原通夫ほか著「資料組織法・別冊 演習問題集 緑版」第一法規（上記の2冊は資料目録法・同演習でも使用する）</p> <p>参考書：必要時に示す</p>	
授 業 計 画	
<p>図書館の資料を利用に提供したり、文化遺産として維持・保存するための処理を組織法という。その組織法は分類法と目録法から成り立っている。</p> <p>分類法では日本の多数の図書館で採用している日本十進分類法（NDC）を中心に学んでゆく。また、現在はコンピュータ目録が普及しつつあり主題（テーマ）検索が新しい局面に直面している。これに関して件名目録法を基本として言及する。</p> <p>図書館学は実学である。演習では講義で聴いたことを、演習問題や本を対象に実際に行って理解を深めて行きたい。従って簡単な課題を幾度か行うことになるだろう。</p> <p>講義・演習で扱う主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主題目録法</li> <li>「分類」と「図書の分類」</li> <li>図書分類表・分類記号</li> <li>主要分類法</li> <li>日本十進分類法（NDC）</li> <li>構成（体系）</li> <li>助記法</li> <li>相関索引</li> <li>分類作業</li> <li>主題分析</li> <li>分類規程</li> <li>図書記号法</li> <li>件名目録法</li> <li>主要件名標目表</li> <li>基本件名標目表（BSH）</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>簡単な筆記試験、課題提出を採点の対象にして、 席状況を考慮する。</p>	

【授業科目名】 図書館活動	【担当者】 西村 汎子
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 図書館活動とは、図書館がその利用者に各種の便宜を供与するための行為(活動)のことである。図書館が行う活動は、資料の収集・組織化・提供など多岐にわたっているが、利用者と直接関係する部門すなわち利用者に必要なサービスを生み出す活動内容と、その問題点や課題を取り扱う。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：服部金太郎・北原圀彦他著『図書館活動』（樹村房 図書館学シリーズ⑥）その他。</p>	
授 業 計 画	
<p>今日では印刷物以外の、フィルム、テープ、ディスクなどの新しいメディアが発達し、図書館の機械化も可能になった。また、外部データベースが増加し、それらへのアクセスがコンピュータと通信手段の利用によって迅速に行えるようになった。情報化の新時代を迎えて、各地の図書館もニューメディアを取り入れて急速に変容しつつある。従来から考えられてきた活動に加えて、新時代の図書館活動はいかにあるべきかが問われているといえよう。授業の順序は次のように進められる。ただし、今年度開講の授業なので、学生の反応を見つ、多少変更することも考えられる。また、図書館を実際に訪れて、その実情を見学することも考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館活動とはなにか</li> <li>2. 図書館活動の課題</li> <li>3. 日本における図書館活動の変遷</li> <li>4. 館外利用のためのサービス</li> <li>5. 館内利用のためのサービス</li> <li>6. その他のサービス</li> <li>7. 図書館間の相互協力</li> <li>8. 図書館の種類と役割－学校図書館・公共図書館・大学図書館・国立国会図書館</li> <li>9. これからの図書館と図書館職員</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末のレポートによる。</p>	

【授業科目名】 青少年の読書と資料

【担当者】 東 喜望

【開講期】 7月集中

【授業目標】 人間の「読む」という言語行為の意味を問いつつ、自己形成の最も重要な時期である青少年期に於ける読書の意義や、その方法・文献の選択の仕方などを、読書指導の立場から概論的に講義する。

【テキスト・参考書】 1. 授業時に発表する。  
2. 適宜、講義資料(プリント)を配布する。

### 授 業 計 画

講義内容は、およそ下記のとおりである。

1. ことばと思考
2. 人間の言語活動
3. 「読む」ことの意義
4. 青少年期の特性
5. 青少年期の読書とその方法
6. 読書指導と選書

【評価方法】 筆記試験またはレポート

【授業科目名】 情報管理	【担当者】 倉澤寿之
【開講期】 1年集中（9月集中）	
<b>【授業目標】</b> 情報検索の手法および文献検索の方法を理解するとともに、最近特に重要度を増しているパーソナルコンピュータとネットワークの利用についても知識を得ることをめざす。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 特に指定しない。	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報検索の基本的な考え方</li> <li>2. 情報の抽出(索引法を中心に)             <ul style="list-style-type: none"> <li>概念の抽出</li> <li>索引項目の構造</li> <li>見出し語の選定</li> <li>シソーラスの意義と活用</li> </ul> </li> <li>3. 情報の検索(データベースを中心に)             <ul style="list-style-type: none"> <li>「データベース」とは</li> <li>コンピュータとデータベース</li> <li>ネットワークとデータベース</li> </ul> </li> <li>4. 情報検索の実際             <ul style="list-style-type: none"> <li>質問分析</li> <li>参考図書の利用</li> <li>コンピュータの利用</li> <li>ネットワークの利用</li> </ul> </li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 文献検索課題をレポートとして課し、その良否により成績を評価する。	



【授業科目名】 社会教育（社会教育概論）

【担当者】 藤田 博

【開講期】 1年後期

【授業目標】

社会教育とは何か、生涯教育の構想との関係で、その本質を明らかにする。  
とくに、日本の社会教育が、どのような歴史をたどってきたかに重点をおきながら、  
社会教育の現状と課題を学習する。

【テキスト・参考書】

テキスト 使用しない。

参考書 二宮徳厚著、「社会教育」国土社、その他教室において指示する。

授 業 計 画

1. 社会教育とは何か

いろいろな考え方のあることを通して、社会教育のあり方を考える。

2. 社会教育行政のあゆみ

日本の社会教育の特徴と、国民の学習運動の流れを把握する。

3. 社会教育施設の概要

公民館、図書館、博物館を中心に現状と課題を明らかにする。

4. 生涯教育、生涯学習政策の現状

おとらの学習の手法・内容の現状と課題を理解する。

【評価方法】

・レポート

・課題図書感想文の提出。

【授業科目名】 視聴覚教育	【担当者】 南 利明
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 博物館の展示、社会教育活動と関連させ「視聴覚教育」を考察する	
【テキスト・参考書】 なし	
授 業 計 画	
<p>博物館学関係ではとくに難解な視聴覚教育についての理解を容易にするために、ビデオを多用、博物館見学もとり入れて、授業を行う。</p> <p>内容は下記のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視聴覚教育史 <ul style="list-style-type: none"> <li>○2次大戦中の米国における発達とその後の海外への普及を中心とする。</li> </ul> </li> <li>2. 視聴覚教材 <ul style="list-style-type: none"> <li>○化学系と電気系を中心とする。</li> <li>○化学系……写真、映画。</li> <li>○電気系……ラジオ、テレビ、ビデオ、ハイビジョンなど。</li> </ul> </li> <li>3 このほか博物館におけるビデオ展示、カタログ、リーフレットの最新傾向などについてもふれる。</li> </ol>	
【評価方法】 レポート	

一般教育科目 (2年)  
外国語科目 (2年)



【授業科目名】 人間	【担当者】 石原・北・東・平賀
【開講期】 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> 「日本人と米」のテーマで4人の教員が稲の栽培や米をめぐる生活、現代の米問題等についてそれぞれ専門の立場から講義する	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキスト      使用せず 参考書      担当教員の授業時間の中で指示します	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>過去数十年の間に日本人の食生活は大きく変化したが、それでもなお米飯中心の生活は変わっていない。稲・米・米飯にまつわる行事や伝承にも米に依存して来た日本人の生活とそれへの愛着や苦悩が認められる。この授業では稲の栽培や米をめぐる生活について4名の教員が歴史、経済、民俗、伝承、栄養などいろいろな面から講義し、人間とその生活を考察する。</p> <p>Ⅰ、イネの栽培と日本の米 <span style="float: right;">担当 石原 邦</span>  (1)イネの栽培(スライド使用)、      (2)日本のイネの栽培の変遷、  (3)世界における米の生産と将来の日本の米</p> <p>Ⅱ、主食としての米 <span style="float: right;">担当 北 郁子</span>  (1)米の栄養と日本人の食生活、      (2)米はいつ頃から日本人の主食となったか、  (3)日本人の食生活と健康問題</p> <p>Ⅲ、コメノ民俗と歴史-南島伝承を手がかりに <span style="float: right;">担当 東 喜望</span>  (1)柳田国男の壮大なる仮説-海上の道 (2)穀霊信仰の諸問題 (3)穀物と年中行事  (4)穀物起源と伝説      (5)久米島の調査から (6)中国の調査から  (7)稲作の伝来と渡来人</p> <p>米作りと人々の生活史をたどりながら現在の米問題を考える <span style="float: right;">担当 平賀 明彦</span>  (1)産業としての農業の特性      (2)日本人とコメの歴史 (3)近代の稲作と米穀市場  (4)食料管理の歴史-食管法の成立、改変とその役割      (5)現代のコメ問題</p>	
<b>【評価方法】</b> 各担当教員が授業時間のなかで指示します	

【授業科目名】 英語Ⅱ	【担当者】 大佛 義信
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】 政治、経済、社会、文化、スポーツ各分野にわたる時事問題への興味、関心を喚起し、英語習得の分野をひろげる。特に情勢の本質の把握を重視する。</p> <p>① 英字新聞の記事の情報がつかめる。② 復習によって記事の内容を聞いて理解できる。③ 内容について簡単な英語の設問に答えることができる。④ 語彙をふやす。⑤ 英文の構造を正確に理解して、応用力をつける。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>中村憲明 編 <u>Newspaper English</u> 成美堂</p>	
授 業 計 画	
<p>年間の授業を次の順序で進む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時事英語も英語の力で読むもので、特別の英語力を必要とするものではないが、いくつかの新聞英語の語法と書き方を知っておくことが便利である。導入としてそのことに触れる。</li> <li>2. 英字新聞の内容構成と記事の構成を考える。</li> <li>3. 現在の視点から、過去一年間の重要ニュースを見出しとリードでたどり、概括する。</li> <li>4. 短いニュース記事を読む。</li> <li>5. 天候や地震のよき自然と人間生活のかかりから始めて、人類の課題である平和の具体的な問題に入り、アジア、中東、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカの政治、経済情勢に移っていく。そしてまた人間生活の他の分野、文化、スポーツまで順次網羅できるようにする。</li> <li>6. 社説を読み、構成と内容を考える。</li> <li>7. 時事英語をすらすらながら、現代の自然と人間社会の課題をつかむことができるかと願っている。</li> </ol> <p>一回の授業内容は次の構成ですすめる。</p> <p>一週のハイライト。テキストの記事の事実と情報の要約(平易な英語で)。</p> <p>英文構造の正確な把握のための訳読。リスニング(復習として内容の聞きとりと点検)。内容によって、いくつかの形式による英語の設問。基本的な英語表現と語彙をふやすために簡単なオラル・コレクション。</p>	
【評価方法】 試験を中心に、レポート、授業中の発表、出席状況を加える。	

【授業科目名】 英語Ⅱ	【担当者】 須藤 彩子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>まとまりを持った英文を読むことに慣れる。どんなに短い文章でも、書かれたままの形で読みとおすのには根気がいるが一話分をひと息で読めるようにしたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>Christine Ammer 著 小林栄智編 <u>It's Raining Cats and Dogs</u> (動物おもしろ表現) 三修社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>毎回、一話分を読み解く。話の内容を楽しみ、きちんと理解することを授業の中心とするが、語法も重視しこまかく読んでいく。予習を前提とする。数回の小テストをおこなう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験、小テスト、課題などを総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 英語Ⅱ	【担当者】 ハベル 清子
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】	
<b>【テキスト・参考書】</b> Figure It Out : Exercises for Listening Comprehension 著者：James M. Vardaman, 出版者：松柏社	
授 業 計 画	
<p>毎週クラス時間を2割し、最初の半分はテキストとテープを使用し基礎的なリスニングの練習、残りの半分は毎週か隔週私が出すタスク（作業） — これはいろいろなトピックについての考えを英語で述べる — をクラスで口頭発表する。</p>	
<b>【評価方法】</b> リスニングは隔週ごとの小テスト、コミュニケーション作業はクラス内発表の質により評価する。	



【授業科目名】 英語Ⅱ	【担当者】 藤田久美子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> このクラスでは、リスニングと速読とをやりたいと思う。リスニングでは、単に受け身にテープを聞くのではなく、いろいろ想像力を働かせて、考えたり、書いたり、友達とペア・ワークをしたりしなければならない。このような積極的な活動を通じて、英語の全体的な能力の向上を目指したい。Speed Readingのテーマも、興味ぶかいものばかりだと思うので、1年間で、この面での実力も上がるようにしたい。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 1) "Active Listening" (Building Skills for Understanding) 2) "Speed Reading in Action" (Kirihara Shoten)	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>1年間を通じて、リスニングのテキストとSpeed Readingのテキストを両方使いながら、主にこの二つのことをやっていきたい。</p> <p>リスニングでは、単に聞き取る力だけではなく、今までに培ってきた様々な能力を使いながら、まさに“active”なやり取りをやっていきたい。</p> <p>テープの会話のスピードは自然な速さなので、初めは難しいと感じるだろうが、だんだん慣れてくるので、焦らないで、着実に力を付けていきたい。</p> <p>Speed Readingのテキストは、一つのユニットが、適度な長さのニュース・ストーリーや論説を扱っている。文章を日本語に訳さずに、大事な点を見逃さないようにしながら、しかも、なるべく速く読んでいく練習をしたい。</p>	
<b>【評価方法】</b> 出席状態、毎回の練習問題の成績、そして普段の授業態度を、だいたい同じ比重で考えて、評価の基準とする。	



專門教育科目（2年）



【授業科目名】 日本文学史(中・近世)	【担当者】 東喜望
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】 古代の文学を継承しつつ中世において新たに勃興・発展した文学はどのようなものであったか、そして中世文芸を克服しつつ近世において創造された文学はどのような特質を持っていたか、これらの問いを軸として考察をすすめ封建制化の文学の展開を跡づける。</p> <p>主に軍記と和歌、小説と俳諧をとりあげる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 講義資料(プリント)を配布する。</p>	
授 業 計 画	
<p>およそ以下の項目にそって講義する。</p> <p>I. 中世の文学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中世の特質</li> <li>2. 中世文学の一般的傾向</li> <li>3. 中世の散文文学——軍記物語の成立と展開</li> <li>4. 中世の韻文文学——中世和歌の展開と衰微</li> </ol> <p>II. 近世の文学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近世の特質</li> <li>2. 近世文学の一般的方法</li> <li>3. 近世の散文文学——近世小説の成立と展開</li> <li>4. 近世の韻文文学——俳諧の発展</li> </ol>	
【評価方法】 定期試験時に実施する筆記試験	

【授業科目名】 日本文学（古代）	【担当者】 浅田 徹
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>王朝和歌の代表的作品である『古今和歌集』と歌物語の代表作『大和物語』を読み、和歌が貴族達の社会でどのような機能を果たしたかを探究する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：（前後期）小町谷照彦訳注『古今和歌集』（旺文社文庫） （後期）阿部俊子校注『大和物語』（明治書院）</p>	
授 業 計 画	
<p>大量の「ウタ」がラジオから降り注ぎ、ミリオンセラーのCDが続出し、誰もがカラオケで歌いまくっているにも関わらず、現代ほど＜詩＞が我々から遠ざけられている時代はない。我々の誰が、側にいる人に自分の気持ちを＜詩＞として伝えられるだろう？ 和歌という短い詩型は、かつて確実にそのような役割を果たしていた。和歌として詠み出された心は、日常の言葉で言われたときとは明らかに異なった力を持つものと受けとられ、聴くものの心を強く動かすことができたのである。</p> <p>この授業では、まず王朝和歌のバイブルとなった第一勅撰集『古今和歌集』を読み、平安貴族が生活のどのような場面（恋・旅・別れ・宴……）で、どのような心を取り交わしていたかを確かめ、かつその表現の特性について論ずる。集を代表する有名歌人（小野小町・在原業平・僧正遍照・紀貫之など）については個別にその新しさ（どのような心・表現を開拓したか）を探りたい（以上前期）。</p> <p>『大和物語』には、『古今和歌集』の確立したスタイルにしたがって貴族達がいかに優美で洗練された振る舞いをなし得たかが記録されている。そこに現れるのは決して著名な歌人達ではない。宮廷に生きる一般的な貴族達が、どういう「心ばえ」を美しいと思い、それを和歌にどのように託したかを、作品を具体的に読みながら明らかにして行きたい（以上後期）。</p> <p>最初に予備的な説明（和歌とは何か・和歌にとって平安とはどんな時代か、など）を行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（授業時に感想を求める）および前後期末のレポート。</p>	

【授業科目名】 日本文学(近・現代)	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 日本の近・現代文学における「作品」や「作家」の問題をじっくりと研究して、その「読み・理解」を深めること、あわせて「研究の方法」を身につけることが、本講のカリキュラム上の役割だろう。この事をめざし、本年は「近代作家と西欧」というテーマのもとに講義を進める。旺盛な読書が、受講の前提である。	
【テキスト・参考書】 教科書は使用しない。下記を中心とする課題作品を、当該講義の日までに必ず読んでおくこと。講義で紹介する作品や論文を積極的に読む努力をすること。ただし、受講生の状況によっては、若干の概論的参考書を指定する場合もありうる。	
授 業 計 画	
<p>○ 作品を素直な気持ちで繰り返し読み、自分の内部に生まれてくる（ある意味では自分だけの）イメージに、じっくりと向き合うことが、文学研究の基本だ。文学研究とは、我々読者内部のイメージ(「幻像」)そのものを研究対象とする——逆に言えば、読まないかぎり「研究対象そのものが存在しない」——、一風変わった研究分野なのである(芸術研究一般が、たぶんそうだろう)。</p> <p>本講では、こうした観点から、作品と作家にじっくりと向かい合いたい。</p> <p>○ どの作品・作家を取り上げるかは、したがって副次的な問題なのだが、今後数年間は、一応、「近代作家と西欧」というテーマに沿って考えて行きたい。</p> <p>日本近代文学は(と言うより、日本の「近代」そのものが)、巨大な異文化としての「西欧」(米国を含む)の影響・重圧のもとに成立した。「西欧」及び「近代」と如何に向き合うか、という事は、日本語の芸術としての「日本近代文学」、日本人としての「近代作家」の、本質的な問題である。</p> <p>本年は、森鷗外、夏目漱石、有島武郎、永井荷風、高村光太郎という、明治期に「外遊」して、深刻な異文化体験をもった作家とその作品を、ある程度広く取り上げ、主として、このテーマの「広がり」を探ってみたいと思っている。</p> <p>○ 上記五人の作品を、ある程度幅広く読むことが諸君の課題になるが、少なくとも、下記のものを中心とする課題作品は、この一年間で読まねばならない。</p> <p>[課題作品の一部] …①森鷗外『舞姫』等、②夏目漱石『道草』『倫敦塔』(講義の進展次第で変更する可能性あり)、③有島武郎『或る女』(同)、④永井荷風『ふらんす物語』(同)、⑤高村光太郎『道程』(同)。……以上のほかに、講義の進展に従って、いくつかの作品を課題として指示するが、さほど多数ではない(せいぜい十作品ほど)。……なお、<u>読む際には</u>、「近代作家と西欧」というテーマにこだわる必要は<u>全くない</u>。自らの感受性に従って、自由に読むことが大切だ。</p>	
【評価方法】 筆記試験(自筆ノート参照可)。講義に基づいて自ら考察しつつ論じる形式。講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておくこと。課題作品に関する「小レポート」(数回)も加味するが、「出席」のこと等と共に最初の講義の時に述べる。	

【授業科目名】 西洋文学思潮	【担当者】 村山 知恵
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 西洋の文学の中でも、とりわけ女性の生き方をテーマにした作品を3冊選び、その3作品をじっくり読み考え、学生達のこれからの人生観を一緒に作り上げていけたらと思います。	
【テキスト・参考書】 「ジェーン・エア」「ボウヴァリー夫人」「カラー・ハーフール」を翻訳で読みます。文庫本で準備して欲しい。	
授 業 計 画	
<p>「ジェーン・エア」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) その作品の生まれた時代背景 さらにこの作品の作家の歴史を講義し、学生にそれをしっかり知識として作品を読む材料にしよう。</li> <li>2) 作品を読み その作品内の重要な箇所を指摘し、それに対する学生の考えを聞く。</li> <li>3) ビデオ・フィルムにより、違った視点から作品を鑑賞する。</li> </ol> <p>「ボウヴァリー夫人」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 前作同様、フランスの歴史や時代背景、さらに作家の歴史と共にフランス文学の歴史を講義する。</li> <li>2) 作品を読み、大事な箇所を指摘し、学生に意見を求める。</li> <li>3) ビデオ・フィルムによる鑑賞。</li> </ol> <p>「カラー・ハーフール」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 同じくアメリカ史、アメリカの女性史等、それに現代の女性の問題を講義する。</li> <li>2) 作品を読み、人種問題、性差別問題など、学生に考えてもらう。</li> <li>3) ビデオ・フィルムによる鑑賞。</li> </ol>	
【評価方法】 3作品 それぞれに対する自分の考えをまとめるレポートによって評価する。	



【授業科目名】 漢文学	【担当者】 東喜望
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】 中国古典文学の代表的な作品を精読し、作品の背景にある中国の思想や文化、歴史などについても理解を深める。</p> <p>作品は、日本の文学にも影響を及ぼした散文文学をとりあげるが、まず下記を精読することからはじめたい。作品に関連する中国の自然や風土、地理や風俗を映像で紹介する。 鄭還古『杜子春伝』・瞿佑『剪灯新話』</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 近藤春雄編『中国志怪・伝奇選』</p>	
授 業 計 画	
<p>授業は、およそ以下によって進める。</p> <p>I. 中国古典文学概説</p> <p>II. 漢文訓読の基礎</p> <p>III. 中国古典小説の講読</p> <p>1. 唐代伝奇小説</p> <p>2. 明代小説</p> <p>IV. 中国古典文学の日本文学に与えた影響</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験時に実施する筆記試験。</p>	

【授業科目名】 現代言語生活論	【担当者】 丸尾 寿郎
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】          日常、なにげなくつかっていることば・ことばづかいについて、言語的に内省を加える。どうい          う質のことばを身につけるかは、言語生活だけでなく、人間形成、文化のありようともかかわって          、かなり重大なことである。講義では、のぞましい現代の言語生活を目ざして、しっかりした言語          観と、すぐれた日本語を身につけ、ことばを意識的につかう — そのような実践的課題に取り組み          理論化していこうと考えている。</p>	
<p>【テキスト・参考書】          原則としてテキストは用いない。参考書については、講義中に適宜指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>近年、ことばの乱れとか、ことばの揺れとかということが言われる。それはどのような言語現象          をさして、どのような観点からどのような考えで誰が言っているのか。こうした大状況をとらえて          問題のありかを探り出す。(意見を述べてもらう) 積極的な発言と問題提起を軸に、毎時一課          題主義で検討をすすめる。たとえば、話しことばを基本にすえると、尻上がりことば、アクセントやイント          ネーションの平板化(棒ことば)、早口、「すごい疲れた」の語法、あるいは「購入」か「買い入れ」          かなど聞いてわかることば。そして敬語の問題と、おんなことばの問題など。(どんどん意見を          述べてもらう)</p> <p>書きことばでいえば、かなで書くか漢字で書くか。そしてワプロ言語と言われる問題など。(日          本の文字政策の歴史も調べてみる)</p> <p>言語生活と社会生活、共通語と方言、性と言語、情報化時代の言語など、諸君が直面している          問題を取りあげて考えていきたい。</p>	
<p>【評価方法】          授業中、ワンポイントメモ、レポート、出席などを勘案して評価する。</p>	

【授業科目名】 書道Ⅰ	【担当者】 神野 雄二
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】 書と書写教育の基本的な理論の理解、並びに書写教育の基本書体が、正しく、整えて、速く、そして美しく書ける技法の習得を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト『書写指導中学校編』全国大学書道教育学会編、萱原書房 参考書『書写教育概要』日本教育大学協会第二部会書道部門会編、ぎょうせい</p>	
授 業 計 画	
<p>一時限の授業前半は講義、後半は実技とする。講義はテキスト『書写指導中学校編』を用いて、書並びに書写教育における基本的な理論の理解をめざす。内容に応じて適宜プリントを配布し、より広い観点から書を学ぶ。</p> <p>(1)文字について (2)書教育の意義と特質 (3)姿勢・執筆法 (4)用具・用材について (5)書の歴史と書学 (6)表現と鑑賞 (7)指導計画と指導方法</p> <p>実技は、書写教育の基本書体である楷書体、行書体、仮名を学ぶ。中国と日本における名跡や名家の書を可能なかぎり学習する。毛筆を主とするが、硬筆の授業も取り入れる予定である。</p>	
<p>【評価方法】 評価は、毎週の授業の出席状況、並びに各時限毎の提出作品の内容により決定する。課題はレポートと実技作品の提出。成績は以上を総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 書道Ⅱ

【担当者】 小峯 恭子

【開講期】 2年後期

【授業目標】

毛筆・硬筆両面から、文字を正しく整えて速く適切に書く実技能力を高めることを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

### 授 業 計 画

書写(実技)を中心とする。日本と中国の数多い古典の中から代表的なものを取りあげ、これを参考にしながら漢字(楷書・行書)と仮名の実習を行う。まず写実的臨書を、次いで日常文書など実用書にも目を向ける。初講時には授業の進め方について具体的な話をするので硬筆の用意をして必ず出席のこと。

1. 硬筆基本
2. 九成宮醴泉銘
3. 孔子廟堂碑
4. 雁塔聖教序
5. 顔勤礼碑
6. 集字聖教序
7. 仮名基本
8. 変体仮名
9. 寸松庵色紙
10. 年賀状
11. 包み紙
12. 創作
13. 書きぞめ
14. 硬筆まとめ

【評価方法】

【授業科目名】 日本中世史	【担当者】 西村汎子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>中世の日本はどんな特色を持った社会だったかを考える。当時の支配者は草深い農村や都に住む民衆たちの変化を基礎にどんな支配体制を作ったか。また民衆は何を考えどんな生活や文化を生み出したかを解明していきたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：『体系日本の歴史』4～8巻（小学館 1988年）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>はじめに、日本の中世の本質に関する研究史を学ぶ。ついで平安末期から社会の深部においてどんな胎動があり、それが政治の上でどんな変化をもたらしたのか、民衆の側で作られた共同組織とその役割、民衆の意識や生活、文化について学ぶ。後半では絵巻物などを活用したいと思っている。講義は次の順序で行う予定である。</p> <p>はじめに</p> <p>参考文献と日本中世史の諸問題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代から中世への転換</li> <li>2. 鎌倉幕府体制の成立</li> <li>3. 下剋上の社会</li> <li>4. 中世民衆の意識と文化</li> <li>5. 日欧文化比較</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末のレポートによる。いくつかの課題のなかから、好きなテーマを選び絵巻物を使って具体像を描く。</p>	

【授業科目名】 日本近世史

【担当者】 西脇 康

【開講期】 2年後期

【授業目標】

江戸時代は幕府が朱子学を封建支配を実現するためのイデオロギーとして採用したため、男女関係がすべて“男尊女卑”のイメージで固定され理解されがちである。はたして、それは正当な歴史事実にもとづいたものか、庶民の行動のなかが再検討してみたい。

【テキスト・参考書】

講義の中心となる典故については、適宜オリジナルの史料を配布する。テキストは特に定めない。

授 業 計 画

江戸時代後期の庶民(百姓・町人)男女の行動様態について、オリジナル史料を使用し具体的に明らかにする講義を行う。史料批判のうえで、如何なる歴史の実像が描けるのか、いくつかのプロローグのあり方、それを正当なものと位置づけるべきなのか、を自由な立場にたって考えよう材料とした。

講義は、以下のテーマを扱う予定である。

1. オリエンテーション—三下り半との出会い—
2. 近世を規定する枠組みについて—近世史総論—
3. 江戸後期の風俗—若者組・夜這い・婚姻など—
4. 男女の行動パターンと「家」相続
  - a. 若者組と娘組の交流
  - b. 欠落
  - c. 女某約<嫁入り・婿入り>
  - d. 婚姻
  - e. 不嫁・離嫁
  - f. 不義
  - g. 出奔
  - h. 強姦
  - i. 後家
  - j. 心中
5. 階層別にみる男女関係の数量的特徴—婚姻・出産・離婚など—
6. 家族の労働力構成と女性の位置
7. 刑法における男女関係の規定と女性の位置
8. まとめ—はたして女性は不幸であったのか?—

【評価方法】

学期末に筆記試験を実施する。ただし自筆ノートは持ち込みを認めるので、講義ノートをしっかりつくること。

【授業科目名】 日本近現代史	【担当者】 平賀 明彦
【開講期】 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> 近代以後の歴史を学ぶことにはどのような意味があるのだろうか。近代社会、近代国家といった表現に含意されている「近代化」とは、具体的にどのようなものとしてとらえるべきなのだろうか。これらのことを具体的な歴史過程を通して考えてみたい。	
<b>【テキスト・参考書】</b>  テキスト：特になし 参考図書：江口圭一『新版 15年戦争小史』 青木書店	
授 業 計 画	
<p>幕末・明治維新以後、「近代国家」としての日本がどのような特徴をもって成立していったのかを考えながら、とりわけデモクラシー状況とその後の戦時体制の下での人々と社会のむすびつきについて検討を加えていく。講義の大きな枠組みは以下の通り。</p> <p>◇近現代史を学ぶこと</p> <p>◇明治国家とは一開国・対外的危機と維新政府の対応              中央集権的政治と地域              明治憲法下の国権と民権              日清・日露戦争と「戦後経営」</p> <p>◇大正デモクラシー—その意義と限界</p> <p>◇15年戦争のはじまりと民衆動員体制</p>	
<b>【評価方法】</b> 年2回のレポート 講義の中で小レポートを出してもらうことがある。	

【授業科目名】 日本文化史	【担当者】 高橋秀雄
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 東洋の最東端に位置し、島国としての独立性を保ってきた地理的条件の中で、東洋文化を独自に発酵させてきた日本文化について、諸外国との交流の接点を切り口にしながら、外国文化と日本文化の比較の中で、その特徴を明らかにする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：高橋秀雄「伝統芸能の集積回路」ほか。	
授 業 計 画	
<p>東洋文化と西洋文化の接点として重要な位置を占める日本文化について、その歴史的交流を中心にしながら、日本文化の本質を掘り下げる。テーマについてはそれぞれ数回の講義となるが、全般の文化的特色を明らかにするとともに、とくに西洋文化との比較において独自性の著しい芸能文化に力点を置くこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本文化の曙光としての縄文文化と弥生文化</li> <li>2. 「魏志倭人伝」による中国大陸との交流</li> <li>3. 「古事記」、「日本書紀」等による古代日本の検討</li> <li>4. 隋・唐などの中国大陸との文化交流なすかに奈良、平安期における文化の特色</li> <li>5. 鎌倉・室町期における文化の特色</li> <li>6. 織豊政権期におけるヨーロッパ文化との接觸</li> <li>7. 江戸期における文化の特色</li> <li>8. 明治維新によるヨーロッパ文化の流入</li> <li>9. 第二次世界大戦後における西洋文化の浸透</li> </ol>	
【評価方法】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各期末のレポート</li> <li>2. 授業時の小レポート</li> <li>3. 授業時の平常点</li> </ol> } 左記3項による総合評価



【授業科目名】 日本女性史	【担当者】 西村汎子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>女性が困難を乗り越えて、真に人間らしく生きていく展望を得るために、過去の女性の歴史を振り返ってみることは重要であろう。半年の課程なので、原始から近世までの前近代の女性史を中心とし、近代以降には簡単に触れる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：『日本女性の歴史－性・愛・家族』（総合女性史研究会編 角川書店）</p>	
授 業 計 画	
<p>各時代の労働のあり方、財産権、婚姻形態、家族関係、道徳観などに注目しその中でたくましく生きた女性の生涯についても、できるだけ取り上げていきたい。当時の法令、日記、文学、絵巻などを通じて女性たちの生活を考えて行く。次のような順序で進めていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原始女性は太陽であった－原始の平等生活       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 男女平等時代の存在</li> <li>2) 性別役割分担</li> <li>3) 性差別を生まない理由</li> <li>4) 婚姻家族関係</li> <li>5) 神話の中の女性像</li> </ol> </li> <li>2. 性差別の始まり－古代の家族生活       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 律令制度と家父長制</li> <li>2) 財産相続</li> <li>3) 万葉集にみる民衆の生活</li> <li>4) 平安貴族の妻の生活</li> <li>5) 紫式部はなにを言いたかったか</li> </ol> </li> <li>3. 嫁取りへの動き－中世の女性たち       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家業の継承と家父長権の強まり</li> <li>2) 男女の協力と役割分担</li> <li>3) 分割相続と後家の権限</li> <li>4) 婿入りから嫁入り婚へ</li> <li>5) 室町戦国期の庶民の女性像</li> </ol> </li> <li>4. 封建道徳の確立期－近世の女性たち       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 農村のくらし</li> <li>2) 女の稼ぎ</li> <li>3) 封建道徳の下で</li> <li>4) 公娼と私娼</li> <li>5) 滑稽本の女性たち</li> </ol> </li> <li>5. 近現代の女性解放       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 明治民法下の女性</li> <li>2) 戦後の女性解放</li> <li>3) 男女雇用機会均等法以後</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末テストによる。あらかじめ提起した課題の中から出題する予定。</p>	

【授業科目名】 東洋文化史	【担当者】 山口 洋
【開講期】 2年前期	
<p><b>【授業目標】</b>  史料から地域の特性や文化の特徴・変化をどの様に取り取るか、具体的な事例を紹介し、その中から歴史研究の方法と歴史的批判精神を理解し、身につけることを目標とする。</p>	
<p><b>【テキスト・参考書】</b>  テキストは必要に応じてコピーを配布する。  参考書 町田隆吉『シルクロードの謎』（光文社文庫・グラフィティ歴史謎事典8）  潘絜茲著『敦煌の石窟芸術』（中公新書589）など</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p><b>（敦煌の歴史と文化）</b></p> <p>敦煌は内陸アジアの一オアシスである。そこはまた、東方の中国王朝、西方のイラン世界、内陸・北アジアの遊牧民族に囲まれた複雑な国際関係の中に存在し、東西の人的・物的交流によって交易都市として栄えた。これは、同時に東西諸文化の交流と融和を生み出し、やがて敦煌独自の文化が醸成されたのである。</p> <p>本講座では、東西文化の交流した敦煌を、そこに栄えた文化・社会や、その担い手であった人々の事跡などの多角的観点から考察することにより、内陸アジアと中国および東アジアにおける東西文化交流の諸相を概観する。授業においては、出土文書や図版などのビジュアルな資料もできるだけ紹介し、また敦煌学の最近の成果にも触れたい。なお具体的には、以下のような項目について授業をすすめてゆきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 敦煌の歴史 漢代から現代まで 探検の歴史（敦煌学のはじまり）</li> <li>2 敦煌文献とは何か 敦煌文献の内容 敦煌文献から何がわかるか</li> <li>3 社会と経済 求法僧と商人の事跡 庶民生活と流通経済</li> <li>4 美術 敦煌石窟の誕生 敦煌石窟絵画とその内容</li> <li>5 文学 敦煌文献にみる文学</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b>  筆記試験・レポート（1～2回）</p>	

【授業科目名】 アジア史	【担当者】 佐藤 いづみ
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】 世界的な転換期といえる現在、アジアの人々との関わりはますます広がっています。アジアとのつきあいの前提となるアジア近現代史を、日本とアジアとの関係を中心に学びます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 加藤 祐三『東アジアの近代』（ビジュアル版『世界の歴史』17・講談社） （参考書）吉川 利治編『近現代史のなかの日本と東南アジア』（東京書籍）</p>	
授 業 計 画	
<p>福沢諭吉の『脱亜論』から110年がたちました。日本は長い間、アジアと深く関わりながら、その関心を欧米に向け続けてきました。そして戦後50年たった今日、アジア諸国の経済発展はめざましく、それゆえ、日本でも“アジアブーム”が言われています。</p> <p>何が変わり、何が変わっていないのでしょうか。</p> <p>今私たちが、アジアの近現代史を学ぶことは、大切な自己認識の過程となるでしょう。</p> <p>授業では、東アジアと東南アジアの近現代史全体を見通しながら、特にアジアから近代日本への留学運動と、アジア諸国の教科書に描かれた「大東亜共栄圏」に焦点を当てることにします。</p> <p>授業は以下の項目を柱として進めますが、具体的なでき事や個人をとりあげていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・“アジア”とは？ ・伝統的社会 ・欧米諸国の重商主義と産業革命</li> </ul> </li> <li>②アジアの植民地化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中華帝国と冊封体制 ・何故日本は植民地化されなかったか。</li> </ul> </li> <li>③植民地体制と人々の暮らし <ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシア ・ベトナム ・朝鮮の場合</li> </ul> </li> <li>④植民地支配に反対する運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統社会の反発 ・日本への留学運動 ・コミュニストの反植民地運動</li> </ul> </li> <li>⑤アジアの教科書に描かれた「大東亜共栄圏」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンガポールの場合</li> </ul> </li> <li>⑥今日の“アジアブーム”を考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・成長の原動力アジアと日本の関係</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】 学期末の筆記試験の他、不定期に小レポートの提出を求めます。</p>	

【授業科目名】 西洋史	【担当者】
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">担当者未定のため決定次第配布します。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
【評価方法】	

<b>【授業科目名】</b> 英書講読Ⅱ	<b>【担当者】</b> 田中安行
<b>【開講期】</b> 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> 英米のさまざまなジャンルの文学作品や時事英語にふれて、かなり長い英文の流れを的確につかみ、理解していけるような力を付けることを目指す。	
<b>【テキスト・参考書】</b> プリント並びにテキスト（授業中に指示する）	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化的比較の対象となるような作品を取りあげて、日本人と英語を母語または主要言語とする人たちとの間のものの考え方を比較し、日本人として今後の国際社会に生きていく上で必要な知性や感性をどのようにつけていけばよいかを考える。</li> <li>2. 学生が事前に英文を読んでその内容や文化比較したものをレポートし、クラスでそれを中心にdiscussionを行う。受け身の授業ではなく、全員が積極的に参加して作り上げていく授業にする。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点（出欠、予習、質問、意見発表、発表力など）</li> <li>2. レポート（読みの深さ、推測・洞察力、想像力、創造性、自己表現力）</li> <li>3. 筆記試験</li> </ol>	

<b>【授業科目名】</b> 英書講読Ⅱ	<b>【担当者】</b> 中島好伸
<b>【開講期】</b> 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> 英文の細かい文法に捕らわれるて文章そのものが何を伝えたいのかを見失うのではなく、書いた人の伝えたい内容を正確にしかも早く掴む読みを身につける。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 未定	
授 業 計 画	
<p>英米の短篇小説を取り上げる予定です。</p> <p>1時間に6ページくらい進みます。毎回3人レポーターを当てます。レポーターは一人につき2ページを担当し、辞書を細かく調べ、内容を要約し、レジュメを作って発表します。その他の受講生はその内容が正しいかどうかを判断し、要約の内容についてコメントしてもらいます。難しい所、重要と思われる所は文法的な説明も加えますが、基本はレポーターの発表と討論です。</p>	
<b>【評価方法】</b> 年2回のレポート、並びにレポーターの時の発表に出席を加味して評価します。	

【授業科目名】 英語演習 A	【担当者】 ハベル 清子
【開講期】 2 年前期・2 年後期	
【授業目標】	
【テキスト・参考書】 なし	
授 業 計 画	
<p>教師のオリジナル・タスク（作業）を4技能を使ってこなしてもらう。クラス内発表や提出物という形になる。作業は1人、ペアの時あり、複数のグループの時もある。作業の内容は、自分の意見を述べたりスキットをしたり、問題解決したり-----他はお楽しみ！</p> <p>基本的に英語だけ使用のクラス、レベルはやさしいのから始めるので英語がしゃべれないという心配無用。ただ英語を使ってクラスメートとコミュニケーションをするのに抵抗がない人を望む。体育の実技と同じに考えるし、また仲間と一緒に作業することがあるので毎週の出席が望まれる。</p>	
【評価方法】 クラス内発表、参加、提出物の内容と質によって評価するので前期・後期テストなし。	

【授業科目名】 英語演習B	【担当者】 田中安行
【開講期】 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> エッセイや時事英語などを教材にして、英語による読解だけでなく、自己表現としての英語力もつけられるような総合的な演習にする。	
<b>【テキスト・参考書】</b> プリント並びにテキスト（授業中に指示する）	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の文化や文学作品を英語で紹介するとき、どのような点に注意しなければならないかを実際に自分たちで演習しながら、分析してみる。</li> <li>2. 異文化理解という視点から、いくつかの英文や作品を読んで作者の考えについて自分の意見をまとめて表現する。</li> <li>3. 現代の世界のさまざまな問題について英語で理解し、英語で自分の意見をもってそれを表現できるような演習を行う。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点（出欠、予習、質問、意見発表、発表力など）</li> <li>2. レポート（読みの深さ、推測・洞察力、想像力、創造性、自己表現力）</li> <li>3. 口頭発表とdiscussion</li> <li>4. 筆記試験</li> </ol>	



【授業科目名】 英会話Ⅱ	【担当者】 スワン, ウィリアム ローレンス
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ありません</p>	
授 業 計 画	
<p>いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキット作り、テープの聞き取りをする。</p> <p>以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. friendly greetings</li> <li>2. making choices</li> <li>3. misplacing and looking for things</li> <li>4. using things</li> <li>5. talking about accidents</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>成績の基準はクラスでとれだけ積極的に参加するか、中間と期末試験（ドラマ作り）を元に付ける。</p>	

【授業科目名】 英会話Ⅱ	【担当者】 オーコーチ・リサ
【開講期】	
【授業目標】	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>Further development of conversational English through drama will be emphasized. Students will be encouraged to come up with their own unique ideas for skits as well.</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 独書講読	【担当者】 正路 妙子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次に学んだ知識を整理し、活用しながら、読んで書く力を養うことを目標にする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】  <del>改訂版</del></p> <p>① 中級ドイツ語へのステップ - 読章と文法練習 - (オニキ書房)</p> <p>② 独作文 - 初級から中級へ - (オニキ書房)</p>	
授 業 計 画	
<p>まず、1年次にやりのこした文法の説明を行ない、そのあとで、テキストの購読に移るが、授業時間の前半を使って、テキストを読み、後半では、文法項目べつになった作文を扱いながら、日本人とドイツ人の発想の基本的な相違点について考えていく予定である。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業のなかで提出してもらうものと定期試験の成績とを総合して判定する予定である。</p>	

【授業科目名】 仏書講読	【担当者】 村山 知恵
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 「星の王子さま」を原文で読み、フランス語の理解と、この童話の理解を深める。	
【テキスト・参考書】 "Le petit Prince" Antoine de Saint-Exupéry Collection folio junior	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「星の王子さま」の作家の背景、歴史的な位置を講義</li> <li>2) 予ちんと最初から最後まで読み訳させる、一日に5、6人ずつ訳をあてる。</li> <li>3) ビデオ、フィルムによる鑑賞を最後の授業の時にする</li> </ol>	
【評価方法】 "Le petit Prince"を一年間読み、自分の感じたことこの童話の意義をレポートにまとめ提出する。	

<b>【授業科目名】</b> アジア・アフリカ文化	<b>【担当者】</b> 岡部 廣治
<b>【開講期】</b> 2年後期	
<b>【授業目標】</b> ラテンアメリカの歴史をたどりつつ、この地域の社会の主要な特長を把握できるようにすること。（さらに、「南の世界」全体の問題状況について示唆したい）。	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキストは使用しない。参考書は、随時あげることとするが、さしあたっては、『ラテンアメリカの世界』（大月書店）	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>以下の項目にしたがって講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロンブスの「発見」 「到着」、先住民の存在</li> <li>2 「ラス・インディアス」 原始共産制から階級社会へ、「帝国」</li> <li>3 スペインとポルトガル イタリア、絶対王政</li> <li>4 「インディオ」の酷使 金・銀への渴望、「エンコミエンダ」「レパルティミエント」</li> <li>5 カトリック教 ラス・カーサス師、「グアダルーベ信仰」</li> <li>6 黒人奴隷制 熱帯農業（サトウキビ、綿花）</li> <li>7 「独立」共和国 「インディオ」の反乱、民主主義革命の波</li> <li>8 自由と民主主義 奴隷制廃止、自由貿易</li> <li>9 「北方の巨漢」の出現 「モンロー宣言」、ホセ・マルティ</li> <li>10 「バナナ帝国」 経済支配、軍事干渉</li> <li>11 「インドアメリカ主義」 「アブラ」、「人民主義」</li> <li>12 クーバ革命 民族民主革命、後進国の「宿命」</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 期末におこなうペーパー・テストによって、把握度をはかる。	

【授業科目名】 比較文化論	【担当者】 早川 紀代
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】          私たちにとって、もっとも身近で本質的なことがらである性の文化をとりあげて、人間の性は人権の基本であることをあきらかにする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】          テキスト「戦時下の女たちー日本、ドイツ、イギリス」（岩波ブックレット）</p>	
授 業 計 画	
<p>プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の性を取りまくいろいろな問題</li> <li>2. 人間の性を規制するものー性文化の形成          ヨーロッパ          アジア</li> <li>3. それぞれの社会の性文化がもっとも明瞭になる時期ー戦時ー戦争と性          日本          ドイツ          イギリス</li> <li>4. 優生学と人間の性</li> </ol> <p>以上を講義、ビデオ、配布資料をくみあわせて進めます。 随時、みなさんの考えをまとめてもらいます。</p>	
<p>【評価方法】          レポート</p>	

【授業科目名】 英米文学	【担当者】 中島好伸
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>英米の（特にアメリカを中心に）小説を歴史的に概観することによって、歴史の中で文学作品がどのような位置にあるのかを明らかにする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書          岩山太次郎編『アメリカ文学を学ぶ人のために』（世界思想社）</p>	
授 業 計 画	
<p>この講義は、特にアメリカの文学作品を取り上げて、歴史と文学の関係について考えようとするものです。世界の片田舎から世界大国へとの上昇したアメリカ、このような大きな歴史の流れの中で、個人としての作家は何を見ていたのか、そして現代の読者である我々は彼らの書いたものからどんなアメリカの姿が浮かび上がってくるのかを具体的な作品分析を通して考えてみたい。講義の内容は以下の順序で行う予定。</p> <p>アメリカの地理歴史と文学概観          政治的独立と文化的独立          南北戦争とアメリカン・リアリズム          大衆消費社会の出現と自然主義          1920年代の文学          政治と文学：1930年代          アイデンティティの模索          民族と文学：黒人とアメリンディアン          女性と文学</p> <p>講義の中で取り上げる作品はできるだけ多く読んでいただき、最終のレポートは読んだ作品と授業内容をからめて書いてもらいます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 国際経済論	【担当者】 杉崎 京太
【開講期】 2年後期	
【授業目標】	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>今日の日本をとりまく国際的経済環境について考えていきたいと思います。資料・ビデオなども用いながら、議論もしていきたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際貿易・国際金融の基礎</li> <li>2. 日米欧三極経済摩擦をめぐって</li> <li>3. 東アジアにおける経済発展</li> <li>4. 多国籍企業と世界経済</li> <li>5. 南北問題と世界経済</li> </ol>	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> <li>①筆記試験</li> <li>②授業時の感想</li> </ol>	



【授業科目名】 欧米事情	【担当者】 寺地 功次
【開講期】 2年前期	
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>アメリカ合衆国の政治に関する講義を中心として、欧米の政治制度に関する理解を深め、政治と社会や民主主義の問題を日本との比較など比較政治的な視点から見る目を養う。</p>	
<p><b>【テキスト・参考書】</b></p> <p>課題図書、参考文献は講義の中で、適宜、紹介する。</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>アメリカ政治の歴史的・思想的背景、「文脈」について概観したあと、最初は、制度的側面からの考察を行いたい。具体的には、おおよそ以下のトピックに従って、日本や他の国々との比較をまじえながら議論する。制度だけの説明に留まらず、その背景にある思想や理念についても触れたい。詳しいシラバスは、最初の授業で配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)アメリカ合衆国憲法</li> <li>(2)権力の分立と共有</li> <li>(3)連邦制度</li> <li>(4)連邦議会</li> <li>(5)大統領制と行政府</li> <li>(6)裁判制度</li> <li>(7)政党と世論、利益集団</li> </ul>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>2～4回の課題提出、授業への参加度などを総合評価する。</p>	

<b>【授業科目名】</b> 文化人類学	<b>【担当者】</b> 白井 和子
<b>【開講期】</b> 2年前期	
<b>【授業目標】</b> <p style="text-align: center;">異文化を知ることや異文化を理解するとはどういうことか、考える。</p>	
<b>【テキスト・参考書】</b> <p style="text-align: center;">教科書 講義中に適宜指示する。          参考書 講義中に適宜指示する。</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>似たような自然環境にもかかわらず人々が異なった様式の生活を営んでいる一方で、違う自然環境の人々が同じような生活様式を営んでいることは、印刷物やテレビなどのマスメディアを通して知られています。また旅行などで実際に身をもってそれらを体験している人々も多いでしょう。しかし、そのような情報や体験が実は表面的な理解や知識にとどまっていることが、しばしば見受けられるようです。では、自分が身につけている文化とは異なる文化を、興味本意に取り上げることに終始することなく、理解することができるのでしょうか。もし理解することができるとするならば、どのようにして理解するのでしょうか。その一つの例として、文化人類学者のおこなうフィールド・ワークについて考えたい。</p> <p>ところで、カルチャー・ショックという言葉を知っていますか。生まれ育った土地を離れてよその土地で暮らしていると、それまで当然のことと思っていた常識が全然通じなくて、精神的に落ち込んでしまうことがあります。自分が依ってたつ価値の基盤に揺さぶりがかかっているわけです。このようなカルチャーショックを受けることが、異文化理解への最初の一步と言えるのかもしれませんが。自分の常識が覆され、生活感覚がひっくり返り、生活経験がひろがっていくこと、そして人間とは何かという問いかけに戻っていくこと、これが文化人類学の楽しみの一つのようです。少し苦い味のする楽しみではありますが。</p> <p>そこで、私たちの生活の中で強調されているもの—たとえばジェンダー、性と生殖、父・子関係、母・子関係など—が、他の社会の中ではどのように捉えられ、制度化されているのかといったことについて検討します。この作業は、私たちが自分の生活を見直していく契機になるでしょう。</p>	
<b>【評価方法】</b> <p style="text-align: center;">原則として学年末の試験の成績を評価の対象とする。ただし授業中に見るビデオなどについて感想文や意見文を書いてもらうことがあり、そのような小文を評価に加えることはありうる。</p>	

【授業科目名】 社会思想史

【担当者】 針谷 寛

【開講期】 2年後期

【授業目標】

個人の自由と社会的共同について、客観的な場面と問題に即して自らの頭で考えていくための素材を提供する。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しない。

参考書は講義のなかで紹介する。

### 授 業 計 画

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりにして、個人と共同体の関係を検討する。その際、家社会と市民社会の関係の変化をも視野に入れて、近代社会の問題を見とく予定である。理論的には、ドイツ近代の思想家カントおよびヘーゲルの社会理論を中心にとりあげて紹介する。

【評価方法】

レポートによる。

【授業科目名】 国際関係論	【担当者】 平井 文子
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】  今日、中東は世界政治、経済の焦点の一つとなっている。中東をめぐる国際関係について歴史的視点から考察し、認識を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】  テキスト：坂本 勉、鈴木 薫編『イスラーム復興はなるか』講談社現代新書</p>	
授 業 計 画	
<p>中東、イスラーム世界における近代化の過程は大きな困難を伴っている。ヨーロッパ列強の進出によるオスマン・トルコ帝国の衰退、アラブ民族のめざめ、第一次世界大戦、パレスチナ問題発生へと続く20世紀初冬の中東における国際関係を、映画「アラビアのロレンス」のビデオ鑑賞をも含めて学び、現代のイスラーム復興主義（イスラーム原理主義）についての考察に及ぶ。  おおよそ以下の項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①前近代史におけるイスラーム世界の中心的役割</li> <li>②ヨーロッパの進出とオスマン・トルコ帝国の衰退</li> <li>③アラブの近代</li> <li>④第一次世界大戦と近代中東世界の出発</li> <li>⑤パレスチナ問題――帝国主義の世界戦略・シオニズムとの関係で</li> <li>⑥イスラーム原理主義とは</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①筆記試験</li> <li>②受講態度</li> </ol>	

<b>【授業科目名】</b> 生活科学	<b>【担当者】</b> 富永静枝
<b>【開講期】</b> 2年後期	
<b>【授業目標】</b> 豊かな生活をどのように構築していくかは人々にとって大きな課題である。 いまは親がかりで生きている学生達も、やがて社会に出て生活者として生きて行く。その学生たちに真の豊かさとはなにかについて考えさせたい。	
<b>【参考書】</b> 『国民生活白書』1995年版(併11月頃に出版される) 伊藤セツ他『消費生活経済学』光生館	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>最近の日本は国民の9割までが、自分の生活を「中流」と意識するほど物質的には豊かになった。反面自然破壊や食品公害、ゴミ公害などが広範に発生し、生活環境は悪化している。また過労死問題や単身赴任問題、離婚の増大など勤労者家庭をめぐる状況も厳しさを増している。そこでこの授業では、物質的な豊かさとひきかえに、現在の家族・家庭生活が抱えていさまざまな問題のうち、特に家庭の経済問題に焦点を当てて、「真に豊かな生活とはなにか」を追求してみたい。</p> <p>授業内容は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)国民経済と家庭経済</li> <li>(2)家庭経済の特質と構造</li> <li>(3)勤労者家庭の経済生活の現状と課題</li> <li>(4)生活条件の国際比較</li> <li>(5)ほんとうの豊かさとは何か</li> </ol> <p>の5テーマに分け、それぞれのテーマに関して2～3回講義をする予定である。          なお生活科学の受講者は2年前期の現代女性論を受講していることが望ましい。</p>	
<b>【評価方法】</b> 学期末のレポートの他平常時にときどき実施するミニレポート。	

<b>【授業科目名】</b> 現代女性論	<b>【担当者】</b> 富永静枝
<b>【開講期】</b> 2年前期	
<b>【授業目標】</b> 女性を取り巻く社会環境が大きく変わった現在、女性の生き方は伝統的な生き方だけではなく、多様な生き方が可能になった。これからの女性は自己の能力を生かしながら自分の人生を自立して生きる為にはどうすべきかを考えていく。	
<b>参考書</b> 『婦人白書』、ほるぷ出版、西村絢子編『女性学セミナー』東京書籍、 伊藤セツ著『両性の新しい秩序の世紀へ』白石書店	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>近年女性を取り巻く社会状況は大きく変化し、女性の生き方も多様化している。男女雇用機会均等法や育児休業法も施行され、女性の社会進出も大きく進展した。しかしながら伝統的な性別役割分業の社会システムは依然として強固に存在し、そのことが女性の自立を阻んでいるだけでなく、多くの社会問題を引き起こしている。本講ではこのような社会状況の変化や、性別役割分業を基本においた社会システムの問題性、家族家庭の諸問題や女子労働問題など女性の視点から考えて行く。</p> <p>1、女性の権利の歴史          2、女性の自立と性別役割分業          3、女性労働の諸問題          4、高齢(化)社会と女性・家族・家庭          5、男女平等を求める世界の動き・新しい動き</p> <p>なお講師の側からの一方的な講義だけではなく、女性問題に関する新聞記事やビデオなどを素材にしたディスカッションなども行うので、受講生は討論に積極的参加するよう心掛けてください。</p>	
<b>【評価方法】</b> 試験、授業中のミニレポート、学期末レポート、筆記試験などいくつか組み合わせる予定です。現在はまだ未定です。受講生には授業の途中で知らせます。	

【授業科目名】 自然科学概論	【担当者】 柳下 登
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>従来の『自然科学概論』とは違って、自然科学の各分野の概論ではなく、自然の形成と発展史とまたその延長線上の人類の発生を学ぶことで、自然の統一像とそれをもとにした今日的な人間観、自然と人間との共存の方向を追究したい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない</p> <p>参考書：海部宣男『宇宙史の中の人間』（岩波書店） ：佐治晴夫ほか『科学者からの手紙』④⑦⑩（ほるぷ出版）ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>私たちの体を作っている物質も原子であり、地球や太陽を作っている物質も原子である。原子という粒子から出来ていながら、あるものは生命を持った生物に、灼熱の太陽に、遥か150億光年先の星になっている。この自然界の多様性がどのようにして出来たのだろうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自然＝「緑だ、水だ、森だ」なのか</li> <li>2) [物理的現象][化学的現象][生物的現象]の縦と横の関係</li> <li>3) 自然史における人間の位置。人と自然は対立しているのか</li> <li>4) 素粒子の起源を尋ねることと宇宙の起源を尋ねることとは同じ</li> <li>5) 最も単純な物質の水素と星の形成</li> <li>6) 星の進化が生物を作る</li> <li>7) なぜ自然界（物質界）は多様化してきたか</li> <li>8) 生物進化の道一落ちこぼれがより高等な生物になる</li> <li>9) 生物の繁殖様式に見られる生物進化の道</li> <li>10) あまり知られていないダーウィン学説の重要な視点</li> <li>11) 自然の歴史や生物界の発展の歴史からこれからの自然の保全、農業の在り方</li> <li>12) 自然についての理解は知識のためではなくそのことで人間自身が変わること</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>予め、数題の問題を出しておき、試験期に解答させる。</p>	

【授業科目名】 自然科学史	【担当者】 柳下 登
【開講期】 2年後期	
【授業目標】 自然科学を学ぶことは色々な公式、記号、概念等を覚えることだと思ひ、そのことが理科ぎらいの大きな原因となっている。ここでは、科学者が何を発見したかよりも、科学者のいきざま、発見するに至るまでの過程、社会的背景を学ぶ。このことで、 <u>人間を人間たらしめてきた科学の足跡</u> を理解するであろう。	
【テキスト・参考書】 教科書：アシモフ『科学の壁を破った人たち』正、続 共立出版 参考書：講義で紹介する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科学とは知識の寄せ集めではない</li> <li>2) 科学と生活—石斧を作ることで石（自然）の理解ができた</li> <li>3) 科学は文化である</li> <li>4) あなたの知っている数学は紀元前2000年の知識</li> <li>5) 万物は水である—タレス</li> <li>6) 悪魔を追放した医学の父—ヒポクラテス</li> <li>7) 原子を考えた笑う哲学者—デモクリトス</li> <li>8) ギリシア時代の知識をまとめた人—アリストテレス</li> <li>9) 私は地球を動かせる—アルキメデス</li> <li>10) 無限への挑戦—コペルニクス</li> <li>11) それでも地球は動く—ガリレオ</li> <li>12) 自然科学の方法をあきらかにする—ベーコン</li> <li>13) 自然こそ教科書—ハーベイ</li> <li>14) 天と地を結んだ3大法則—ニュートン</li> <li>15) 二つの革命の火つけ役—ワット</li> <li>16) 現代化学の父—ラバオジエ</li> <li>17) 磁石のナゾを解いた人—ファラデー</li> <li>18) 「熱は運動である」—ランホード</li> <li>19) 「エネルギーも粒子である」—プランク</li> <li>20) 細菌を追った男—パツール</li> <li>21) 自然が選んだ動植物—ダーウイン</li> <li>22) 遺伝の秘密—メンデル</li> <li>23) 原子時代への道を舗装した夫妻—キュリー</li> <li>24) 新世界の海図を書いた人—アインシュタイン</li> <li>25) 「星も生まれて死ぬ」—ラッセル</li> <li>26) ピートン物語—柳下 登</li> </ol>	
【評価方法】 クラスサイズが40人でいちであればゼミ形式とし、平常点をみる。 それ以上の時はレポートならびに受講態度	



<b>【授業科目名】</b> 科学技術論	<b>【担当者】</b> 柳下 登
<b>【開講期】</b> 2年前期	
<b>【授業目標】</b> 人類は自然とのやり取り、人間と人間とのやり取りの長い過程で科学と技術を発展させてきた。今日のある種の豊かさは科学の発展、技術革新の結果ともいえる。他方では公害、環境破壊として現象している。ここでは身近な農業技術をとおして遺伝子レベルから地球レベルまでの問題点を探る。	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキスト：市川定夫『環境学のすすめ』藤原書店 参考書：柳下登『自然の恩恵をひきだすために』たたら書房 ほか	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自然の発展史</li> <li>2) 技術論論争の要点</li> <li>3) 野生植物から作物へ一画一化の弊害</li> <li>4) 有機肥料か化学肥料かー土は生きている</li> <li>5) ふとれ、ふとれのかげ声の下でープロイラー哀史</li> <li>6) 海洋資源と栽培漁業ー魚もプロイラー化</li> <li>7) 自然林と人工林ー花粉症の元凶</li> <li>8) DNAと遺伝子操作技術</li> <li>9) 遺伝子操作の夢と問題点</li> <li>10) 細胞融合技術とその限界</li> <li>11) 試験管ベビーと生命倫理</li> <li>12) 人間と自然の物質循環と技術</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> レポートならびに受講態度	

【授業科目名】 英書講読	【担当者】 大佛 義信
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】 劇が人間と人間の問題をどのように刻みつけ、洞察していくか、たどりながら、人間の問題を深く考察する。① 構成と人物に注目しながら、正しく読解できる(4,000~5,000語水準)。② 内容について簡単な英語の設問に答えられる。③ テキストの英文を聞きながら理解できる。④ ストーリーを英文で要約できる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 小津次郎 編注 <u>James Kirkup's Tales from Shakespeare Macbeth</u> 朝日出版社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>次の指導項目を順次授業計画に組むものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シェイクスピアの作品を例にして、劇が人間の問題をどのように提示するかを考えることで、文学作品を読む意義をつかませる。</li> <li>2. シェイクスピアの作品の分類と特徴について概括する。</li> <li>3. ギリシア古典劇、19世紀および現代劇との比較で、シェイクスピアの位置を確認しておく。</li> <li>4. 他の悲劇との比較で、この作品の特徴を考えてみる。</li> <li>5. 著名な論文からの引用を訳読しながら、作品の評価を多角的に考察する。</li> <li>6. 詩劇への理解を、imagery (心象)にも注目させて、深めさせる。日本の能や歌舞伎にも触れておく。</li> <li>7. 作品のテーマ、構成、人物について、まとめをおこなう。感想を書かせ、発表させる。</li> <li>8. ストーリーを英文で要約させる。</li> <li>9. 映画を鑑賞する。</li> </ol> <p>(一回の授業の構成)      テキストの内容を平易な英語で導入。      英文構造の正確な把握のための訳読。      リスニング→テキストの聞きとりと点検。      英語の設問。      基本的な英語表現と語彙をかやすために簡単なオーラル・インポジション。</p>	
<p>【評価方法】 試験を中心に、レポート、授業中の発表、出席状況を加える。</p>	

【授業科目名】 英書講読	【担当者】 長尾 主税
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代アメリカの小説及び評論を英語で読み、味わい、教養を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>開講時に指示します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>あらかじめ、小説というジャンルの起源、特徴（視点、人称等の枠組）について学び、知識を深めた後、作品の読解にとりかかる。</p> <p>外国語で書かれた小説を読むということに伴う制約はずいぶんと大きなものであるから、読みは大きく2つの段階に分けられるだろう。一葉にとらわれず、作品の流れを大まかにつかむ読みと、細部に気を配り、分析を施す読みと。その際、原文の持つ呼吸やリズムを味わうことはもちろんだが、知的好奇心を働かせ、問題意識を育てて、自分の意見を組み立てながら読み進めていってもらふ。授業では積極的に意見を発表することが求められる。</p> <p>ひとつの作品を読み終わったら、レポートを書いて発表する。そのための、レポートの書き方も学んでいく。</p> <p>具体的な作品等、詳細は開講時に説明します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業時のレポートに平常点を加えて評価します。</p>	

【授業科目名】 英書講読	【担当者】 ハベル 清子
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】	
<p>【テキスト・参考書】 教科書はないが、それと同じくらいのお金をコピーにかけてもらう。辞書は不要。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>意味は単語1つ1つからくるものではなく、コンテキストから、それも読者の持っている知識と失敗を恐れぬ推測力をフルに使い、自分で作り上げていくものであるという信念をもとにする。逐語的訳はなし。書かれたものから得る知識より、それを得るプロセスの方に重きをおく。簡単な短い読みものから、少しずつ、より困難でより長い読みものへと移りたい。スキミング（大意把握読み）やスキミング（情報検索読み）の練習をやる。</p>	
<p>【評価方法】 約隔週ごとに小テストを行う。クラス参加重要、前期・後期テストなし。</p>	

【授業科目名】	英書講読	【担当者】 藤田久美子
【開講期】 2年前期・2年後期		
【授業目標】 雑誌や新聞からとった、10パラグラフ程度のニュース・ストーリーを読んで、その内容をはっきりと理解し、又、使われている単語や表現についても、その意味と使われ方を、しっかり把握していきたい。文章を、日本語に訳さずに、英語のままで理解していく訓練をしたいと思う。		
【テキスト・参考書】	1) "Even More True Stories" (Longman) 2) "Listening for Homestay" (Seibido)	
授 業 計 画		
<p>1回の授業で一つの話しを読んで、その内容についてと、その中で使われている表現や単語についての問題をやっていく。話しの中のテーマについて、皆で話し合うことがあるが、その時には、積極的に参加して欲しい。</p> <p>いつも、英語で書かれている文章を、できるだけ英語のままで理解し、又、こちらからの英語の質問に、英語で答える形でやっていきたい。</p> <p>副教材として、リスニングのテキストを使って練習する。</p>		
【評価方法】	前期・後期の終りに、まとめの意味で定期試験を行うが、その点数よりも、むしろ普段行う小テストでの成績の方を重要視したいと思う。出席状態、小テストの成績、授業での積極性のあるなし、それにプラスして、定期試験の成績を、最終的な評価の基準として考えたいと思う。	

【授業科目名】 英会話	【担当者】 スワツ, ウィリアム ローレンス
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ありません</p>	
授 業 計 画	
<p>いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキット作り、テープの聞き取りをする。</p> <p>以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. friendly greetings</li> <li>2. making choices</li> <li>3. misplacing and looking for things</li> <li>4. using things</li> <li>5. talking about accidents</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>成績の基準はクラスでとれだけ積極的に参加するか、中間と期末試験（ドラマ作り）を元に付ける。</p>	

<b>【授業科目名】</b> 英会話	<b>【担当者】</b> オーコーチ・リサ
<b>【開講期】</b>	
<b>【授業目標】</b>	
<b>【テキスト・参考書】</b>	
授 業 計 画	
<p>All students are to actively participate in various conversational activities based on drama skits. Emphasis in on self experssion and not on reading or writing.</p>	
<b>【評価方法】</b>	

【授業科目名】 教養演習Ⅱ	【担当者】 東喜望
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】 ○海洋文化圏の説話  大陸から見れば、日本はその対岸に浮かぶ島嶼群にすぎない。日本のよく知られている伝説説話でも、その淵源をたどると広くアジアの各地に及んでいるものがある。そんな神話・伝説・昔話をとりあげ、歴史には記されなかった民族のルーツや文化の伝播についても考察を深めていきたい。今年度の対象は、「太陽神話」。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールは、おおよそ以下によって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学外研修についての資料の収集と学習</li> <li>2. ゼミの課題設定と分担</li> <li>3. 資料の検討  日本—古事記・日神論争(近世) 沖縄—おもろさうり  朝鮮—三国遺事 中国—山海経ほか  ほかに、北米・東南アジア・南洋諸島の調査報告など。</li> <li>4. 研究・討論</li> <li>5. 研究のまとめ—環太平洋の太陽説話</li> </ol>	
【評価方法】 平常のゼミ活動(発表など)とレポート、またはゼミ試験。	



<b>【授業科目名】</b> 教養演習Ⅱ	<b>【担当者】</b> 栗田廣美
<b>【開講期】</b> 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> <p>【日本近代文学研究】 「教養演習Ⅰ」で身につけた「読み」の力を発揮して、作品や作家についての、研究史を意識的に見据えた研究方法を学ぶことをめざす。</p>	
<b>【テキスト・参考書】</b> <p>教科書は用いない。必要に応じてプリント等を配布する。</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>文学研究は、「教養演習Ⅰ」「日本文学(近・現代)」の項にも記したように、「自らの内部に湧き起こるイメージと向き合う」ことを本質（かけがえのない本質）とするが、同時に、過去・現在の多くの読者・研究者による、研究の蓄積を踏まえたものでもある。</p> <p>「日本近代文学」に関しても、豊かな研究の歴史があり、その中で生み出された数多くの論文の中には（ツマラヌものもあるけれど）、作品や作家に関する、多くの優れた発見や、「読み」の多面的な可能性への示唆がある。それは、いわば、「作品・作家」をめぐる、時空を隔てた、大きな、魅力的な討論会のようなものだ。</p> <p>二年次のゼミでは、作品に関する討論の中で、こうした、過去・現在の研究者による優れた論文の検討をも、一つの重点として行いたい。</p> <p>扱う作品は、諸君と相談し、なるべく諸君の問題意識に沿う形で決定したい。小レポートの課題が、数回ある。</p>	
<b>【評価方法】</b> <p>平常点。特に、積極的に考えようとする意欲を重視する。レポートも加味する。</p>	

【授業科目名】 教養演習Ⅱ

【担当者】 鈴木 泰恵

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

日本古典文学の代表的な作品のひとつである『源氏物語』について、理解を深め、自分自身の〈読み〉を見出していくことを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：授業時に配布する。  
参考書：その都度、指示する。

授 業 計 画

前期

最初の2回は、講義形式で『源氏物語』について概説し、基礎的な参考文献を紹介する。3回目以降は、『源氏物語』第2部の始巻とつづき若菜上巻を読んでいく。各自、若菜上巻の何頁かを担当し、毎回、2名ずつぐらいに、発表を行ってもらう。その過程で、第1部と第2部の物語の質の違いを理解し、何故、『源氏物語』が第2部を書き終ったはずなのに、つづき若菜上巻の何頁かを担当し、毎回、2名ずつぐらいに、発表を行ってもらう。その過程で、第1部と第2部の物語の質の違いを理解し、何故、『源氏物語』が第2部を書き終ったはずなのに、つづき若菜上巻の何頁かを担当し、毎回、2名ずつぐらいに、発表を行ってもらう。

後期

それぞれの問題意識に応じて、卒業レポートを組み立て、仕上げていくための授業にしたい。基本的には発表形式とする。そのうえで、各自の進度に応じて、アドバイスしていく。

※卒業レポートにとりあける作品は『源氏物語』に限定したい。

【評価方法】

レポートと、授業時の発表および質疑応答等を総合的に評価する。

<b>【授業科目名】</b> 教養演習Ⅱ 「義経が行く」Ⅱ	<b>【担当者】</b> 高橋秀雄
<b>【開講期】</b> 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> 世に“判官がいき”なる言葉がある。平家追討の殊勲を立てながらも非業の死を遂げたことを得たが、源義経に対する庶民の同情が作りあげた言葉。正義の味方という立場にある者に対する応援の気持ちを表わしている。 この源義経には、『義経記』が残され、浄瑠璃・歌舞伎などに数多くの作品が上演されている。これらの作品を検討しながら、源義経の生涯を追い、英雄伝説・貴種流離譚などの誕生も探る。	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキスト：『義経記』 参考書：高橋秀雄『義経伝説』ほか。	
授 業 計 画	
<p>前年度より継続して、『義経記』を輪読するとともに、それぞれに意見を述べて論じあい、さらにそれぞれが興味あるテーマを選んでの研究成果を報告する。これは卒業レポートに向けての準備となるよう指導する。また、演習旅行を実施して義経に密着の遺跡等をめぐり、その体験を演習に生かす。さらに源義経を題材とする文芸や歌舞伎を観劇する機会を設ける。</p>	
<b>【評価方法】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各期末のレポート</li> <li>2. 演習時の小レポート</li> <li>3. 演習時の平常点</li> </ol> } 左記の項による総合評価	

<b>【授業科目名】</b> 教養演習Ⅱ 「文学の中の子ども」	<b>【担当者】</b> 田中安行
<b>【開講期】</b> 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> 1年次からの作品研究を続け発展させる。各自のテーマ研究を深めるための文献研究を進め、後半には数回レポートを書く。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 猪熊葉子・神宮輝夫「イギリス児童文学の作家たち―ファンタジーとリアリズム」研究社出版 H. Carpenter: "Secret Gardens" Townsend: "Written for Children" Z. Southerland & M. H. Arbuthnot: "Children and Books"	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英米児童文学の歴史(英文)と評論を読んで自分の研究の位置づけも把握していく。</li> <li>2. 夏休みに各自の取りあげた作品についてのレポートを15枚以上を書いて、自分の卒業レポートの構成をまとめていく。</li> <li>3. 各自の作品の生まれた社会的背景や歴史的な意義などについても研究して幅広い作品理解ができるようにする。</li> <li>4. 2学期には卒業レポートの個人指導と平行しながら、各自の進行状況をゼミで発表し、ゼミ全体の問題として討論を行う。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点(出欠、予習、質問、意見発表など)</li> <li>2. レポート(読みの深さ、推測・洞察力、想像力、創造性、自己表現力)</li> </ol>	

【授業科目名】 教養演習Ⅱ	【担当者】 富永静枝
【開講期】 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> 二年生になるとまもなく就職活動を始め、やがて社会人として就職をして行く学生達に、経済的自立の重要性と女性の職場の諸問題を考えさせ、問題解決の方向性を探る。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 参考書:竹中恵美子編『新女子労働論』有斐閣、 『図表で見る女の現在』ミネルヴァ書房 労働省婦人局:『女性労働の実情』など	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>現代女性論ゼミ(Ⅰ)</p> <p>前年度に引き続き現代女性の抱えている諸問題について考察するが、2年次では特に「女性と職業」に重点をおいて学習を深めて行く予定である。</p> <p>学習内容はおおよそ以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、近代日本における女性労働の歩み</li> <li>2、生涯設計における就労の位置づけ~経済的自立を求めて~</li> <li>3、女性労働の現状と課題</li> <li>4、女性労働と法</li> <li>5、女性労働の国際比較</li> <li>6、男女共生の社会システム</li> <li>7、男女平等を求める世界の運動に学ぶ</li> </ol> <p>なお、職場における女性の状況を正しく認識し、問題解決の方向を探るために、調査や見学なども行う予定である。</p>	
<b>【評価方法】</b> 通常のゼミにおける発表内容およびレポート。	

【授業科目名】 教養演習Ⅱ	【担当者】 寺地 功次
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>アメリカ合衆国の政治と外交Ⅱ。</p> <p>1年のゼミに引き続き、合衆国の歴史や政治に関する文献を読み、多民族社会アメリカの現在の問題に関する理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>課題図書、参考文献は講義の中で、適宜、紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>まず、昨年度の民族・人種の問題をテーマとしたアメリカ史に関する文献を受けて、アメリカ史全体への理解を深めるため、猿谷要『物語アメリカの歴史』や有賀貞ほか編『アメリカ史1』、『アメリカ史2』などを全員で読んでゆく。</p> <p>次に、60年代の公民権運動などの変革のあと、いまなおアメリカが抱える民族・人種の問題を考察して話題となったアンドリュー・ハッカー『アメリカ二つの国民』を読む予定である。その他の文献も紹介しながら、いわゆる「マルティカルチャリズム」の問題を考察する。</p> <p>これ以後の予定については、参加者と相談して決めてゆきたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>多数の課題提出、授業への参加度などを総合評価する。</p>	

<b>【授業科目名】</b> 教養演習Ⅱ	<b>【担当者】</b> 中島好伸
<b>【開講期】</b> 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> アメリカの短篇小説を原文で読み、英語の読解力を高めると同時に、文学作品の読み方を学ぶ。	
<b>【テキスト・参考書】</b> プリントを使用します。	
授 業 計 画	
アメリカ文学研究Ⅱ 1年次に引き続きアメリカ黒人女性の短篇小説を原文で読み進めます。特にAlice Walker の <u>You Can't Keep a Good Woman Down</u> の中から何篇か取り上げ、3時間で1短篇ずつ読みながら作品の構造分析を行うと同時に、今年度は、Alice Walker という人物、彼女が書いて来た長篇小説、彼女が生きている時代彼女の手法、並びに批評を多角的に取り上げて、総合的な文学研究を試みます。これによって、後期から始まる卒業レポートの準備となるようにしたいと思います。	
<b>【評価方法】</b> 授業時のレポートに出席点を加味して評価します。	

【授業科目名】 教養演習 II 「日本女性史」	【担当者】 西村 汎子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】 原始の昔から今日まで、男女は協力して働き、精神的にも補い合って生きてきた。その場合、男女はどのように役割を分担し合ってきたのか、そのことはその他の要因と共に、女性の精神的ならびに経済的地位にどのように影響したかを考えたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：『日本女性の歴史-女のはたらき』（総合女性史研究会編 角川書店）</p>	
授 業 計 画	
<p>前年度に引き続き、同じテキストのうち、中世から現代に至る女性の政治参加と労働について、一節ごとに担当者を決めて、要旨と問題点、及び疑問点についての調査報告をさせ、討論を行う。説話や絵巻を活用したい。内容は以下のとおりである。</p> <p>II. 中世</p> <p>1) 政治権力を握った女性たち</p> <p>2) 民衆女性の働き・暮らし その他。</p> <p>III. 近世</p> <p>1) 主婦の暮らし</p> <p>2) 女の稼ぎ その他。</p> <p>IV. 近代</p> <p>1) 近代国家の形成と女性</p> <p>2) 働く女たちのすがた その他。</p> <p>V. 現代</p> <p>1) 民主主義の嵐が吹いた</p> <p>2) 暮らしと社会参加 その他。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点および期末のレポートによる。</p>	



【授業科目名】 教養演習Ⅱ 「日本女性史」	【担当者】 中込 律子
【開講期】 2年後期	
<b>【授業目標】</b> ① 基礎的な史料読解力を身につけさせる。 ② 題材とする平安期の社会について認識を深めさせる。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 伝言物語 世作部 (岩波古典文学大系)	
授 業 計 画	
<p>第1週は、講師による史料の説明と調べ方等の説明をする。第2週以降は学生全員が下読みしてくることを前提に、毎時レポーターを1人ないし2人定めて報告させる。まず、史料の逐語訳と大意の理解に重点を置き、留意点も報告をさせる。特に注意すべき点があれば、全員で討論し、一週で解決しない場合は、引き続き調べさせる(ただし担当は別人でも可)。</p>	
<b>【評価方法】</b> 毎時の授業に於ける報告、発言の丁寧さと順序と、期末のレポートの二つを判断材料とする。但し、レポートを重視する。レポートの自らの力で考え、礼儀的対応力も尚、重視する。	

【授業科目名】 教養演習Ⅱ [日本近現代史 Ⅱ]	【担当者】 平賀 明彦
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次で修得した日本の近現代に関する基本的な理解を基礎にして、個々のテーマをよりクリアーにしていくための報告と討論を積み重ねていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：ゼミの構成メンバーと相談して決定する</p>	
授 業 計 画	
<p>基本的には1年次と同様の方法で、より専門的な文献を題材として輪読していく。但し、後半期は、個々のメンバーのテーマについての報告を積み重ね、相互に批判しあいながら、問題点を煮つめていくことに次第に重点を移していく。</p> <p>その場合、構成メンバーは、次の点に特に力をいれるよう心がけること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の問題関心を明らかにし、研究テーマとして取り組むべき課題を鮮明にすること。</li> <li>・そのテーマに即して、文献及び史料を探索し、早めにその所在一覧リストを作成すること。</li> <li>・その上で、ゼミで数回行う、テーマ報告及び作業の中間報告会の準備をすること。</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>報告内容等で評価する。</p>	

<b>【授業科目名】</b> 卒業レポート	<b>【担当者】</b> 専任教員・鈴木泰恵・寺地功次・中込律子
<b>【開講期】</b> 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> 学生各自が自主的にテーマを決めて作成する。ただし、共同研究も可。枚数は400字30枚以上。所属ゼミでの研究を基礎にすることが望ましい。	
<b>【テキスト・参考書】</b>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>           執筆に先だちガイダンスを行い、その意義や叙述のしかたなど一般的な事柄について指導する。後期はゼミ担当教員が、研究資料の扱い方や研究方法など具体的な事柄について個別に指導する。レポート提出後、例年、発表会を行っている。         </p>	
<b>【評価方法】</b>	



# 教 職 科 目



<b>【授業科目名】</b> 教育実習	<b>【担当者】</b> 栗田廣美
<b>【開講期】</b> 2年前期	
<b>【授業目標】</b> 実際に中学校に行き、「実習生」として学ぶ二週間ほどを中心に、事前の準備学習、大学に戻っての整理、総括等を含む科目が、二年次の「教育実習」である。その中で、「教育」ということを少しでも深く考え、身につけることが目標である。	
<b>【テキスト・参考書】</b>  教科書は使用しない。実習ノート、プリント等を配布する。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>「教室」「学校」という「場」は、（一年次「教育実習」の項にも書いたように）一面では日常性の中にあるが、同時に、生徒が、この文化・文明を受け継ぎながら、それを相対化しつつ新たなものを生み出す事を目指すという、特殊な緊張を伴った、一種の「躍動する空間」である。</p> <p>実際に中学校に行き、この「空間」の中で、教壇に立ち、生徒に入り交じって生活する二週間は、緊張と（場合によっては）苦しみと、そして喜びに満ちた、貴重な体験になるだろう。過去の実習生も、「実習」を体験する中で、本当に教職に就きたいという切望を一段と強くすることが多かった。</p> <p>中学校に行く時期は、実習校の都合にもよるが、六月が多い（実習期間中は、短大は「公欠」扱いになる）。</p> <p>それ以前は、事前の準備を行う。</p> <p>実習期間中は、短大と連絡を取りつつ、実習校の指導に従うこと。</p> <p>短大に戻った後は、この貴重な体験を整理、総括するための学習をする。</p>	
<b>【評価方法】</b> 実習校からの評価を考慮しつつ、総合的に判定する。	





# 博物館科目



【授業科目名】 博物館実習	【担当者】 上野 光子・高橋 秀雄
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>学芸員として実際の場に臨む場合に必要な心構えと、基礎となる知識・技術の修得を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない。</p> <p>参考書：全国大学博物館学講座協議会関西部会『博物館学概説』ほか。</p>	
授 業 計 画	
<p>2年次</p> <p>(1) 博物館見学：4個所、事前事後講義、レポート提出</p> <p>(2) 館務実習：1～2週間程度、事前事後講義、レポート提出</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>(1)レポート、(2)作品、(3)平常点、(4)出席数、(5)館務実習評価、の総合点。</p>	





学籍番号・

氏名・

〒187 東京都小平市小川町1-830  
教務課0423(46)5619